種別	名稱	總噸數	機關 種類	機關 馬力	摘要
發動機船	梅號	八〇噸	石油發動機	一〇〇	
同	櫻號	五〇	デイーゼル機關	八〇	
小汽船	桃丸	六五	電氣推進	一五〇	
小蒸汽船	松號	一二〇	蒸汽機關	一二〇	
同	杉丸	七〇	同	九〇	

備考

各別ニ記載スベシ

二十二　回漕業者

所在地	名稱又ハ氏名	摘要
横濱市中區常盤町二ノ一五	株式會社一ノ瀨回漕店	
横濱市中區山下町一	株式會社エフ、オーストン商會	
横濱市中區海岸通五ノ二〇	關東運輸會社	
横濱市中區住吉町六ノ八四	武州組	

横濱市中區本町二ノ二六	江崎新太郎商店

二十三　船用品販賣業者

所在地	名稱又ハ氏名	主要販賣品目
横濱市神奈川區青木町三、六二八	佐藤商會	船具、工業用品
横濱市中區不老町三ノ三一五	矢澤商會	綿帆布、滑車、ペイント
横濱市中區海岸通四ノ一七	竹本信義商店	舶來パッキング、バビツトメタル
横濱市中區埠町一ノ二五	力谷船具店	船艦材料
横濱市中區花咲町七ノ八四	金子船具店	船具、金物
横濱市中區員砂町一ノ一〇	中村商店	船具、ロープ、帆布、塗料

二十四　海事關係官公署

所在地	名稱	摘要
横濱市神奈川區表高島町	內務省横濱土木出張所	
横濱市中區海岸通一ノ四	東京遞信局海事部横濱出張所	
同	神奈川縣水上警察署	

神奈川縣久良岐郡金澤町	横濱稅關港務部長濱檢疫所	
横濱市中區海岸通一ノ四	横濱稅關港務部	
横濱市中區山下町	横濱市港務部	

二十五　港灣全圖

內閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ

(一)　朔望平均干潮面ニ依ル港內等深線

(二)　繫船岸壁、棧橋、浮棧橋、物揚場、上屋、倉庫、起重機、防波堤、小船船溜、其ノ他ノ重要ナル設備

(三)　海事關係官公署ノ位置

(四)　鐵道、軌道、道路、河川及運河ノ聯絡狀況

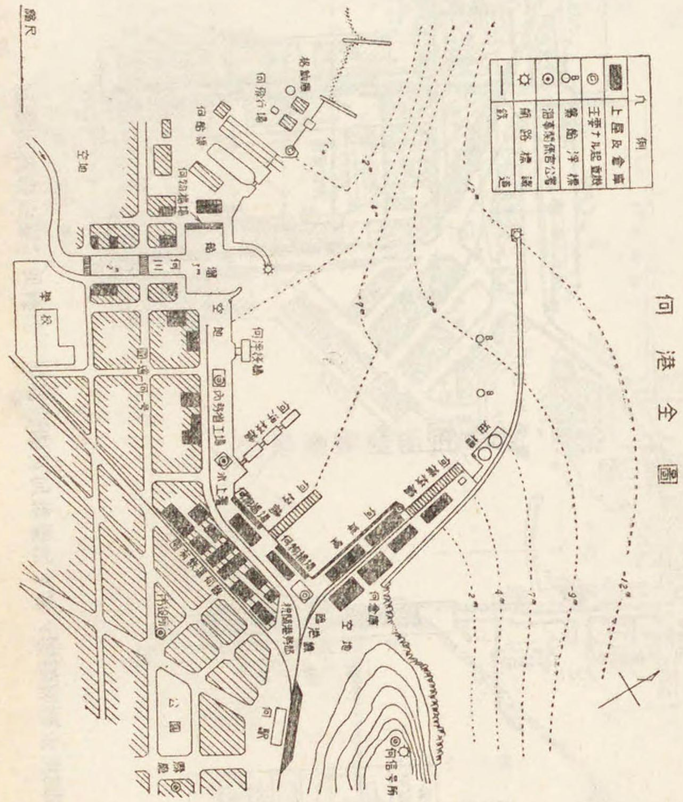
(五)　附近一帶ノ地勢ヲ記載シ作製スベシ

(六)　圖面ニ限リ四通提出ノコト但シ靑寫眞ニテモ可ナリ

二十六　港則

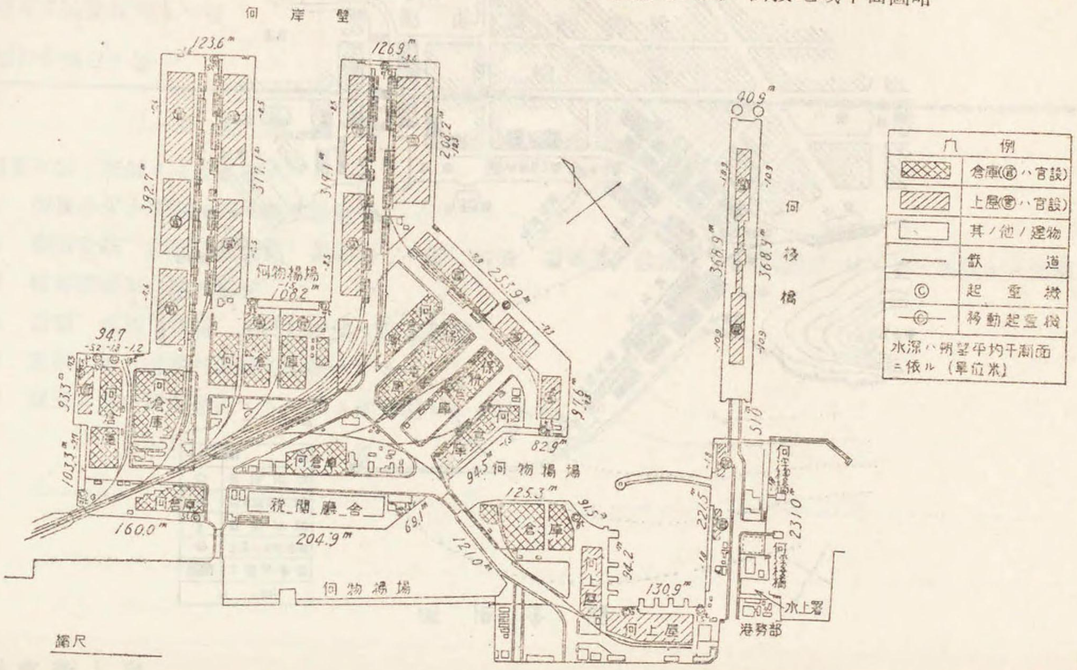
第一條 ……

圖例第一號


凡例
上屋及倉庫
繫船浮標
消防官署
鐵道
軌道
道路
河川
運河
河港全圖
停車場
河岸通
空地
市役所
公園
運動場
水上署
河岸通
河港
高島
高島
高島

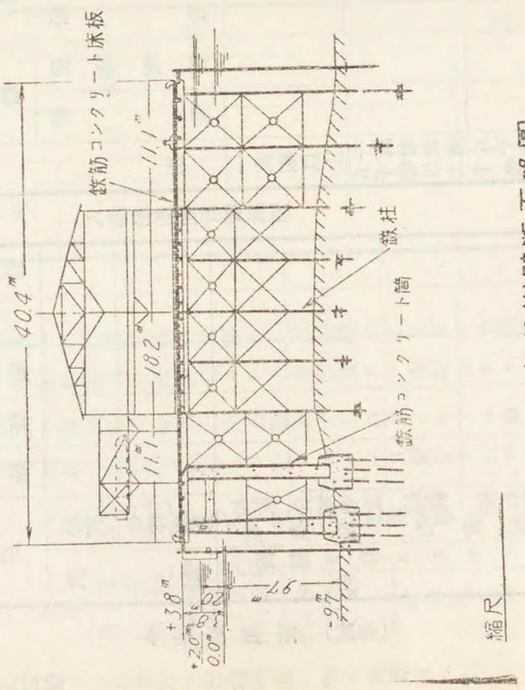
圖例第二號

何港何繫船岸壁、何桟橋、何浮桟橋及何物揚場及其ノ隣接地域平面圖略



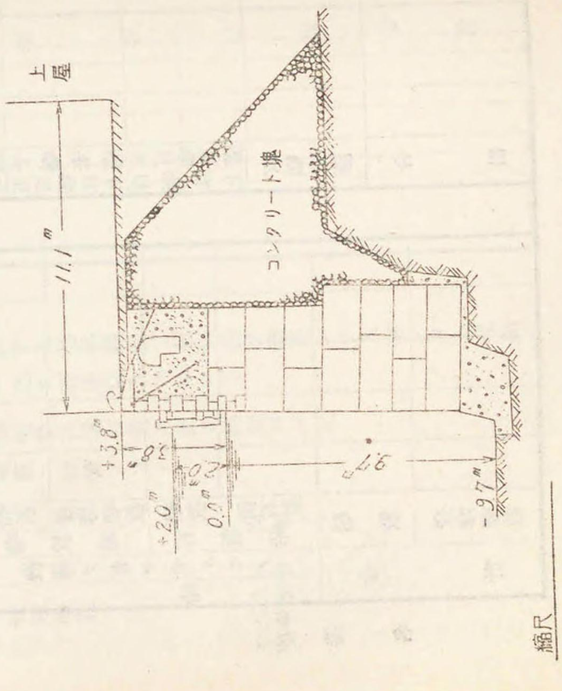
圖例第三號

何桟橋断面略圖



圖例第四號

何繫船岸壁断面略圖



様式第二號

一　入港船舶表（何年）

種別	汽船		帆船		機關ヲ有スルモノ		機關ヲ有セサルモノ		合計	
	船數	登簿噸數	噸數	船數	石數	船數	噸數	船數	船數	登簿噸數
			登簿噸數	積石數	船數	積石數	登簿噸數	船數		
貨客船										
漁船										
避難船										
計										
前年分合計										

入港船舶噸數階級別

種別	一萬噸以上	五千噸以上一萬噸未滿	千噸以上五千噸未滿	五百噸以上千噸未滿	百噸以上五百噸未滿	百噸未滿	合計
汽船　船數							
汽船　登簿噸數							
帆船　船數							
帆船　登簿噸數							

港名

入港最大船舶

種別	船名	總噸數	登簿噸數	備考
汽船				
帆船				

備考

一、本表ニハ外國貿易ニ從事スル貨客船ハ之ヲ省クモ開港ニ於テ入港手續終了後資格ヲ變更シテ入港シタル船舶又ハ避難船舶及外國漁船ニシテ寄港若クハ避難シタル船舶ハ之ヲ調査算入スルコト

二、本表ハ總噸數五噸以上積石數五十石以上ノモノニ就キ登簿噸數及積石數ニ依リ調査スベシ不登簿船舶（石數船ヲ除ク）ニ在リテハ左ノ割合ヲ以テ登簿噸數ニ換算ノコト

（イ）汽船（貨客船・漁船）總噸數十噸ニ對シ登簿噸數　四噸

（ロ）帆船　貨客船（機關ヲ有スルモノ・機關ヲ有セザルモノ）總噸數十噸ニ對シ登簿噸數　五噸

漁船（機關ヲ有スルモノ・機關ヲ有セザルモノ）　八噸　五噸　七噸

三、石數船ハ十石ヲ以テ登簿噸數一噸ニ換算スベシ

四、入港船舶ハ積載貨物ノ有無ニ拘ラズ調査スベシ
五、主トシテ魚類ヲ運般スル船舶及曳船用汽船ハ貨客船トシテ調査スベシ
六、入港最大船舶欄ニハ一箇年間ニ入港シタルモノニシテ總噸數ニ於テ最大ナリシ船舶ニ就キ記載スベシ

二　乘降船客表（何年）

航路別	乘込人員	上陸人員	計	港名
外國航路				
內國航路				
計				
前年分合計				
備考				

備考
一、本表ハ船舶ニ依リ一箇年間ニ出入シタル乘降客ヲ調査スベシ
二、乘降客ハ賃金支拂ノ有無ニ拘ラス調査スベシ
三、同一港內ヲ往來スル乘降客ハ調査スルニ及バス

三　移出入貨物品種別表（何年）

品種	移出				移入				港名
	單位	單價	數量	價額	單價	數量	價額	仕向港	仕出港
				円			円		
（動物）									
馬									
計									
（植物）									
植物類									
計									
合計									

備考
一、本表ハ船舶ニ依リ海路出入シタル一切ノ貨物（各稅關調査ニ係ル外國貨物ヲ除ク）ヲ調査スルモノトス而シテ貨物ノ調査ハ船舶ノ調査ト異ルヲ以テ五噸（五十石）未滿ノ船舶ニ依リ出入シタルモノト雖總テ表中ニ記載スヘシ但シ外國貨物ト雖內航船ニヨリ各開港場ト內地各港（不開港ヲ含ム）間輸送ノ場合ニ在リテハ之ヲ內國貨物ト看做シ調査ノ上朱書スベシ

（例）函館ヨリ支那ヘ輸送スル外國貨物ニシテ船繰ノ都合上內國航路船ニ依リ一旦横濱港ヘ輸送シ更ニ同港ヨリ外國貿易船ニ依リ支那ヘ輸送スルモノノ如キハ函館ニ於テハ仕向港ヲ横濱トシ横濱ニ於テハ仕出港ヲ函館トシ朱書スルカ如シ

二、本表ニハ港內ニ於テ他ノ船舶ニ積換ヘ輸送ヲ爲ス貨物及入港後資格變更ヲ爲シタル外國貿易船ニ依リ積換ヲ爲サスシテ他港（不開港ヲ含ム）ニ輸送スル貨物ヲ含ム

三、仕向港、仕出港ハ輸送貨物ノ直接ノ陸揚港又ハ積入港ヲ記載スベシ仲繼貨物ニ付テハ其ノ仲繼港ヲ以テ仕向港又ハ仕出港ト爲スモノトス

四、貨物ノ包裝ハ其ノ容積又ハ重量ニ包含スルモノトス

五、移出入貨物ノ價額ハ其ノ港ニ於ケル卸値（年平均）ニ依ルコト

六、本表中ノ「品種」ハ別册品種單位竝換算表ノ「品種」區別ニ從ヒ其ノ順序ニ記載スベシ但シ細別ニ屬スルモノト雖當該港灣ニ於ケル主要貨物ナルトキハ「品種」欄ニ適宜ニ記載スベシ

七、移出入貨物ハ仕向港又ハ仕出港毎ニ別行ニ記載スベシ

八、本表中ノ「單位」ハ別册品種單位竝換算表ニ記載シタル單位ニ從ヒ記入スベシ但シ慣例上異リタル單位ヲ用フルモノニ在リテハ其ノ單位ヲ用ヰテ差支ナキモ形狀大小一定セサル貨物ニシテ箇、本、束等ノ單位ヲ用ヰタルトキハ其ノ量目又ハ容積ヲ明示スルコト

一斤ハ百六十匁、一貫ハ六斤二五、一擔ハ百斤、一才ハ曲尺一立方尺トス

九、噸量ハ噸位未滿價額ハ圓位未滿ハ四捨五入スベシ

一〇、各品種毎ニ「數量」及「價額」ノ計ヲ掲ゲ尙表末ニ合計ヲ記入スベシ

一一、重要港灣（大正十一年五月內務省訓令第六號第二條第一號ノ港灣）ノ分ハ別册品種單位竝換算表ノ「噸換算率」ニ依リ噸ニ換算スベシ尙其ノ他ノ港灣ノ分モ成ルベク噸ニ換算スベシ

鐵道聯絡貨物ハ主トシテ重量物ハ千六百九十三斤、容積物ハ百才ヲ以テ一噸トシテ計算セラルルノ例ナルモ本表ハ別册記載ノ噸換算率ニ依リ計算スベシ（別册省略）

第三編　衞　生

第三編　衞生

第一款　海港檢疫

◎海港檢疫法（明治三十二年二月十四日法律第十九號）

第一條　海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ內務大臣之ヲ指定ス

第一條ノ二　傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二條　海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非サレハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス但シ港外ニ於テ檢疫ヲ受ケ難キ事由アル場合ニ於テハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ於テ檢疫ヲ受クルコトヲ得

前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　船長其ノ他ノ乘組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乘組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船內ノ各部ヲ開キ檢査ヲ受クヘシ但シ艙ハ航海中船客又ハ乘組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シタル疑アルトキニ限リ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ揭クヘシ

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ

二　航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノ

第二條第二項ノ船舶ハ傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒

ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタル時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黄旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ連掲スルモノトス

第五條　海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ屆出テ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ回航シテ檢疫ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

警察官吏ニ於テ第一項ノ事實アリト認メ其ノ旨ヲ告知シタル場合亦前二項ニ同シ

第六條　檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル期間船客乘組員ヲ檢疫所又ハ船中ニ停留スルコト

二　航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキ又ハ傳染病ノ病原檢査上必要アルトキニ限リ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スルコト

檢疫官吏ハ船舶ヲシテ前項ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

第七條　停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

入港後前條第一項第五號ノ規定ニ依リ停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢査官吏ノ許可ヲ受クルニ非レハ陸地又ハ他船ト交通シ船客乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乘組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條　船舶及物件ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ檢疫官吏カ施行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乘組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ

前項ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ニ關スル費用ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徵收ス

第十條　檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乘組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス

本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ二　檢疫官吏ハ職務執行上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ船舶ニ乘込ムコトヲ得

第十一條　第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乘組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條ノ二　此ノ法律ハ朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶ノ檢疫ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條ノ三　朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶、內務大臣ノ指定スル海外諸港ヨリ來ル船舶及此ノ法律ヲ適用シ難キ船舶ニ對スル檢疫ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附則

第十三條　內外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明示スヘシ

內外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條　第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年七月勅令第三百二十六號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

第十五條　明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎海港檢疫法施行規則（明治四十年六月二十五日內務省令第十三號）

第一條　檢疫ヲ施行スル海港ハ東京港、大阪港、橫濱港、神戶港、長崎港、門司港、敦賀港、下關港、若松港、三池港、口ノ津港、長崎縣松島港、崎戶港、相ノ浦港及佐々港トス

其ノ他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

東京港ニ來ル船舶ハ橫濱港ニ於ケル檢疫所、下關港ニ來ル船舶ハ門司港ニ於ケル檢疫所、相ノ浦港及佐々港ニ來ル船舶ハ崎戶港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

檢疫官吏海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ大阪港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ兵庫縣和田岬ニ、橫濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長濱ニ、若松港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ山口縣彥根ニ、三池港、口ノ津港、長崎縣松島港及崎戶港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長崎縣女神ニ回航セシムルコトヲ得

檢疫所ニ於テ海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ內務大臣ハ處分ノ必要アル船舶ヲ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトアルヘシ

第二條　檢疫ヲ施行スル傳染病ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」、「ペスト」、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條ノ二　海港檢疫法ニ依ル檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ同一航海中檢疫ヲ施行スル他ノ港ニ來ルモノニ對シテハ檢疫官吏ニ於テ海港檢疫法第三條第一項ノ明告書及船舶ノ狀態ニ依リ船客乘組員ノ檢診其ノ他檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ海港檢疫法第二條ノ許可證ヲ交付スヘシ

第三條　海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停留期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ六日以內、「コレラ」、黃熱ハ五日以內トス但シ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シタル疑アル船舶ニ付テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

停船中ト雖モ檢疫官吏ハ一定ノ條件ニ該當スル場合ニ於テ停留ノ必要ナシト認ムル船客乘組員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第四條　海港檢疫法第六條第一項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ停留ノ必要アル船客乘組員ヲ檢疫所ニ移轉セシメタルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ノ停船ヲ解除スルコトヲ得

消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ニシテ相當設備アルトキハ停留ノ必要アル船客乘組員ヲ船內ニ隔離シ條件ヲ附シテ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條　海港檢疫法第六條ノ處分ニ關シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル場合ニ於テ檢疫官吏ハ消毒方法サル貨物ニ對シ條件ヲ附シテ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第六條　海港檢疫法第三條第一項ノ明告書ハ附錄樣式ニ據ルヘシ

第七條　傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所所屬ノ病院ニ入ラシムヘシ但シ痘瘡又ハ發疹「チフス」ナルトキハ本人ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第八條　檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客乘組員ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス

第九條　海港檢疫法第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル船舶ニシテ海外ノ港ニ於テ消毒ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ其ノ消毒ヲ受ケタル時ヨリ起算シ二週日以上ヲ經過セサルモノニ對シテハ同法第六條第一項第三號ニ依リ處分スルコトヲ得

第十條　死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其ノ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡スヘシ若シ引取人ナク船長若ハ其ノ代理人在ラサルカ又ハ引取ヲ拒ムトキハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ緣故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒

傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條　海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セシムヘシ但シ船長又ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトヲ得

警察官吏若シ其ノ船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ檢疫所ニ回航セシメス船長及其ノ他ノ乘組員ヲシテ相當ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ヲシテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第十二條　停船中ノ船舶ニシテ特別ノ事情ニ因リ船長又ハ其ノ代理人ニ於テ海外諸港ニ進航センコトヲ請求シタルトキハ檢疫官吏ハ相當ノ設備アル船舶ニ限リ條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得

檢疫ヲ施行スル帝國內他港ニ進航センコトヲ請求スル場合ニ於テ其ノ到著前停船期間ヲ滿了スヘキトキ亦前項ニ同シ

第十三條　海港檢疫法第十條ノ二ニ依リ檢疫官吏ノ乘船スルハ左ノ各號ノ場合ニ限ル

一　他ノ港ニ回航セシムルトキ

二　帝國內他港ニ進航スル船舶內ニ傳染病ノ疑アル患者又ハ「ペスト」ノ疑アル鼠アリテ特ニ乘船調査ヲ必要ト認メタルトキ

三　前條第二項ノ進航ヲ許可シタルトキ

四　第二十條ニ依リ航海中檢疫ヲ施行セシムルトキ

第十四條　傳染病流行地及海港檢疫法第六條第一項第六號ノ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

前項後段ノ指定地方ヨリ別ニ告示ヲ以テ指定セル港ニ來航スル船舶ニ對シテハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フモノトス但シ積荷ノ種類等ニ依リ檢疫官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項以外ノ船舶ト雖モ積荷ノ種類其ノ他船內ノ狀況等ニ依リ必要ト認ムルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フヘシ

前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ其ノ證ヲ交付スヘシ

本條ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行フコトナシ

第十五條　消毒費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ內外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

船舶消毒費

總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿　五圓

同　百噸未滿又ハ積石數五百石未滿　貳拾圓

同　百噸以上千噸未滿　四拾圓

同　千噸以上二千噸未滿　六拾圓

二千噸以上一千噸未滿ヲ增ス每ニ貳拾圓ヲ加フ

局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス

積荷消毒費　一個ニ付　參拾錢

船客乘組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費

一等二等船客及之ニ準スヘキ乘組員　一人分ニ付　貳圓

三等船客及之ニ準スヘキ乘組員　一人分ニ付　貳拾錢

第十六條　檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費、患者死者ニ關スル費用及鼠族、昆蟲等ノ驅除費ノ徵收額ハ稅關長（臨時海港檢疫所ニアリテハ地方長官）之ヲ定ム

第十七條　內外國ノ病院船ニ對スル檢疫ハ軍艦ニ準シ之ヲ施行ス

第十八條　海港檢疫法第十二條ノ三ニ依リ海外諸港ヲ指定スルコト左ノ如シ

關東州諸港

前項以外ノ海外諸港ニ付必要アルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第十九條　朝鮮、臺灣、樺太及關東州ヨリ來ル船舶ニ對シテハ海港檢疫法第四條各號ノ一ニ該當スルモノ及關東州以外ノ海外諸港ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スルモノヲ除クノ外檢疫官吏ハ入港後檢疫ヲ施行スルコトヲ得

前項ニ依リ入港後檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ第二條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第二十條　內務大臣必要アリト認ムルトキハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州及第十八條第二項ニ依リ告示ヲ以テ指定スル海外諸港ヨリ來ル船舶ニ付檢疫官吏ヲ乘込マシメ航海中檢疫ヲ施行セシムルコトアルヘシ

第二十一條　總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニ對シテハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル場合ニ限リ海港檢疫法ヲ適用ス

附錄樣式

明告書

一、船籍　船種　船名
二、總噸數　登簿噸數
三、船主又ハ其ノ代理人
四、發航地名　發航　月　日
五、寄港地名　發著　月　日
六、船客　一等船客　男　名　女　名
　二等船客　男　名　女　名
　三等船客　男　名　女　名
　其ノ他ノ船客　男　名　女　名
　計　男　名　女　名
七、乘組員事務員以上ノ船員　名
　水火夫雜役夫　名
八、飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入レタル地名
九、積荷ノ種類及搭載セル地名
十、積荷中檀樓、古綿等ノ有無若シアラハ其ノ搭載地名
十一、出向地
十二、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡、發疹「チフス」又ハ該病疑似症ノ有無
十三、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡、發疹「チフス」ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ病名
十四、航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名
十五、航海中寄港中「ペスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡、發疹「チフス」アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無
十六、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」鼠又ハ鼯鼠ノ有無
十七、他港ニ於テ檢査消毒停船ノ有無
右之通相違無之候也
年　月　日
船長　某印
船醫　某印

◎臨時海港檢疫施行地

（明治四十年八月二十四日内務省告示第八十八號）

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條竝明治四十年内務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ明治四十年八月二十四日ヨリ佐賀縣住ノ江港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行ス

住ノ江港ニ來ル船舶ハ當分ノ内口ノ津港又ハ三池港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

（大正五年十二月八日内務省告示第七十四號）

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條竝明治四十年内務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ大正六年一月一日ヨリ三重縣四日市港ニ於テ臨時檢疫ヲ施行ス

四日市港ニ來ル船舶ニシテ消毒ヲ要スルモノハ當該吏員ニ於テ神奈川縣下長濱又ハ兵庫縣下和田岬ニ回航セシムルコトアルヘシ

（大正五年十二月八日内務省告示第七十六號）

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條竝明治四十年内務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ大正六年一月一日ヨリ愛知縣名古屋港ニ於テ臨時檢疫ヲ施行ス

名古屋港ニ來ル船舶ハ當分ノ内横濱港、神戸港、門司港又ハ四日市港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

◎小樽臨時海港檢疫所出張所開設期間

（大正十二年八月二十九日内務省告示第二百八十一號）

小樽臨時海港檢疫所出張所每年開設期間左ノ如シ

自四月一日至十二月三十一日

◎内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關スル件

（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十三號）

内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關シテハ別ニ法令ヲ以テ規定スル迄從前ノ例ニ依ル

◎海港檢疫法ニ依リ船舶消毒ニ關スル件

（明治三十二年八月二十六日内務省訓令第二十九號）

第一條　海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニシテ海港檢疫法ニ依リ消毒ヲ要スルモノナルトキハ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ應急ノ處置ヲ施シ豫防ノ要項ヲ指示シテ直ニ所定ノ消毒所ヘ回航セシムヘシ

第二條　前條ノ船舶ニシテ所定ノ消毒所ヘ回航シ難シト認

ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ海港檢疫法施行規則第八條ニ準シ處置スルコトヲ得

◎船舶ノ鼠族、昆蟲等ノ驅除施行方依賴アリタル場合取扱ノ件

（昭和二年六月一日　内務省訓令第十二號）

明治四十年十一月内務省訓第一〇一三號ヲ左ノ通改正ス

其ノ稅關港務部並臨時海港檢疫所ニ於テ船舶ヨリ鼠族、昆蟲等ノ驅除施行方依賴アリタル場合ハ支障ナキ限リ之レニ應シ其ノ費用ニ付テハ海港檢疫法施行規則第十六條ニ定メタル鼠族、昆蟲等ノ驅除費ニ準シ其ノ額ヲ定メ徵收シ該驅除ヲ施行シタル後其ノ證明書交付ノ請求アリタルトキハ左ノ書式ニ據リ交付スヘシ

（書式略ス）

◎消毒方法又ハ鼠族、驅除ヲ爲スヘキ地方指定

（大正六年九月十三日　内務省告示第六十四號）

明治三十二年法律第十九號ノ海港檢疫法第六條及明治四十年内務省令第十三號海港檢疫法施行規則第十四條ニ依リ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方及鼠族ノ驅除ヲ行フ港ヲ左ノ通指定ス

一、發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方

孟買、蘭貢、瓜哇、「カルカツタ」

二、鼠族ノ驅除ヲ行フ港

横濱港、神戸港、長崎港、門司港、大阪港、四日市港、名古屋港

明治四十年内務省告示第八十號ハ之ヲ廢止ス

◎日沒後檢疫ヲ受ケントスル船舶汽笛發聲方

（明治三十二年十月十日　内務省告示第百三號）

海外諸港及臺灣ヨリ海港檢疫ヲ施行スル港ニ來ル郵便船又ハ火急入港ヲ要スル船舶ニシテ日沒後檢疫ヲ受ケントスルモノハ檢疫番船又ハ見張所附近ニ於テ長汽笛三聲ヲ發シ臨檢ヲ求ムヘシ

◎夜間檢疫信號ヲ定メ晝間ハ萬國船舶信號ニ依ル

（明治三十一年九月五日　内務省告示第十一號）

夜間檢疫信號ヲ左ノ通相定ム但晝間檢疫信號ハ萬國船舶信號ニ依ル

夜間檢疫信號

一　檢疫船前檣（船首碇泊燈ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高サニ於ル）ニ於テ綠色球燈一箇赤色球燈一箇各三呎ヲ距テ縱ニ連揭シ檢疫船ノ信號トス

一　船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス

一　檢疫船碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ揭ク

◎健全證書交付手續

（明治三十五年三月二十九日　内務省令第九號）

第一條　外國通ヒノ船舶出港セントスルトキハ海港檢疫ヲ施行スル地ニ於テハ其地ノ稅關長ニ臨時海港檢疫ヲ施行スル地其他ノ地ニ於テハ其地ノ地方長官ニ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條　前條ノ申請ハ稅關支署又ハ稅關監視署ニ於テ海港檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關支署長又ハ稅關監視署長ニ、臨時海港檢疫所ノ設ケアル港ニ於テハ臨時海港檢疫所長ニ差出スヘシ

第三條　健全證書ノ交附ヲ申請スルモノハ手數料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第四條　健全證書ハ左ノ書式ニ依ル

健　全　證　書

現時（何）港ニハ傳染病虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布垤利亞（格魯布「ペスト」ノ流行之レナク且本日出港（船名）ヲ含ム）

ノ健全ナルコトヲ證明スル爲此證書ヲ船長某ニ附與ス

年　月　日

地方長官
稅關長　印

附則

第五條　本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治二十七年内務省令第三號健全證書交附ノ件及明治三十二年内務省令第四十號健康證書交附手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◎傳染病豫防法

（明治三十年四月一日　法律第三十六號）（抄）

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢（疫痢ヲ含ム）、腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

第十八條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及

特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車電車ノ乘客乘組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車電車中ニ乘込マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲ニ特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　海外諸港竝朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

◎傳染病豫防法施行規則

（大正十一年九月三十日　內務省令第二十四號）（抄）

第八章　船舶、汽車、電車ノ檢疫

第三十九條　地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢疫スヘキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ其ノ廢止ノ場合亦同シ

地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ

第二項ノ通知ヲ受ケタル地方長官ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第四十條　檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非サレハ他ニ進航シ、陸地又ハ他船ト交通シ、船客、乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶ハ前檣其ノ他見易キ場所ニ黃旗ヲ揭ケ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ下スコトヲ得ス

第四十二條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當ノ場所ニ停留シ船客、乘組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留スルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之ヲ準用ス

檢疫係員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乘組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第四十三條　停留中ノ船客、乘組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

停留ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第四十四條　船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村立ノ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十五條　第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢疫係員ハ船舶ヲシテ他ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得

第四十六條　檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ乘込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理者ニ左ノ證票ヲ示スヘシ

（證票圖略ス）

第四十七條　船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スヘキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條　第四十二條第四十三條第一項第四十四條第四十六條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

◎痘瘡豫防ノ爲輸入禁止ノ物件

（昭和三年三月二十四日　內務省令第七號）

痘瘡豫防ノ爲襤褸、古綿、古著類、古敷物類ハ傳染病豫防

法施行規則第二十二條乃至第二十四條ニ依ル消毒方法ニ據リ消毒ヲ施行シタルモノニシテ輸出地ニ於ケル帝國官憲ノ證明書ヲ有スルモノニ非ザレバ當分ノ内之ヲ支那ヨリ輸入スルコトヲ得ズ

本令ハ昭和三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件（明治四十年九月十四日 勅令第二百九十四號）

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

第二款　家畜檢疫

◎家畜傳染病豫防法（大正十一年四月十日 法律第二十九號）

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鷄及鶩ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛肺疫、口蹄疫、狂犬病、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流産、馬緬羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽コレラヲ謂フ

畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條　家畜カ傳染病ニ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル獸醫師ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ

第三條　前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ殺スコトヲ得ス但シ鷄及鶩ニ付テハ此ノ限ニアラス

第四條　左ニ掲クル家畜ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ殺スヘシ

一　牛疫、牛肺疫又ハ狂犬病ニ罹リタル家畜

二　牛疫ニ感染シタル虞アル家畜但シ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノヲ除ク

狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ左ニ掲クル家畜ニ付其ノ所有者又ハ保管者ニ對シ之ヲ殺スコトヲ命スルコトヲ得

一　炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、口蹄疫、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜

二　牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜

三　牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタルモノ

地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條　地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　左ニ掲クル屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒却又ハ埋却スヘシ但シ鷄及鶩ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

前項ノ規定ハ左ニ掲クル屍體ニ之ヲ適用セス

一　牛ノ傳染性流産又ハ馬緬羊山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ殺屍體

二　前號ニ掲クル家畜ノ斃屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

三　假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル

家畜ノ屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

四　病性鑑定又ハ學術研究ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケタル家畜ノ屍體

五　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外傳染病ニ罹リタル疑アル家畜及前項第二號ニ掲クル家畜ノ殺屍體ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ於テ病毒傳播ノ虞ナシト認メタルモノ

第九條　傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

第十條　前二條ノ規定ニ依リ屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ畜舍、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ

從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條　傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條　牛、馬、緬羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　第三條、第四條、第八條、第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依ル義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

第十五條　警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舍、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十六條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條　地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺境內、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得

警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ受領セシムヘシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ

前項ノ規定ニ依ル公示後命令ノ定ムル期間內ニ犬ノ返還ノ請求ナキトキハ地方長官ハ其ノ犬ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化製場ノ事業ノ停止又ハ家畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條　農林大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條　家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條　檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閱スルコトヲ得

第二十二條　第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十二條ノ二　第五條第二項又ハ第十四條ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ檢疫官吏第十四條ノ事項ヲ行フ場合ニ於テハ國費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ費用ヲ支辨シタル者ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ箇人ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ箇人ヨリ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第一項但書ノ規定ニ依ル費用ヲ徵收スル場合ニ於テハ國稅徵收法ヲ準用ス

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第二十二條ノ三　地方長官ハ第三條第一項ノ處置又ハ第十六條第一項ノ命令ニ因リ自活スルコト能ハサルニ至リタル者ニ對シ其ノ生活費ニ充ツル爲手當金ヲ交付スヘシ

前項ノ手當金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二十三條　傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町村又ハ箇人ノ負擔トス其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜但シ犬及第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リタル家畜ニ對シ評價額ノ五分ノ四

二　第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜　評價格ノ五分ノ三

三　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ヒタル爲斃死タル家畜　評價額ノ五分ノ四

四　第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却又埋却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ燒却又埋却シタル物品　評價額ノ二分ノ一

前項ノ手當金ハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ前項第一號ニ規定スル家畜ニ付テハ之ヲ交付セス

前項第二號乃至第四號ニ規定スル家畜又ハ物品ニ付テハ其ノ額ハ前項第二號ノ乃至第四號ニ揭クルモノノ二分ノ一トス

第八條第二項第五號ニ規定スル屍體ノ許價額ト前二項ノ家畜ノ手當金ノ額トノ合算額カ第一項ノ家畜ノ評價額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ手當金ヨリ控除ス

第一項ノ評價額及前項ノ屍體ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額

ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ得

第一項ノ評價額ハ發病前又ハ病毒汚染前ノ價格ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十四條ノ二　第五條乃至第八條及前條ノ規定ニ於テ地方長官トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關長トス

第二十五條　前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ家畜又ハ物品ニ付之ヲ交付セス

一　第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

三　第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲ササル獸醫師

二　第三條、第四條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者

四　第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲ササル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員

二　第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ從ハサル者

四　正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閲ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シタル者

第二十八條　第十三條ノ屆出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

第二十九條　航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ

依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第三十條　第二十條ノ規定ハ宮內省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衙ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用セス

第三十一條　本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第三十二條　本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テ之ニ準スヘキモノトス

◎家畜傳染病豫防法施行規則

（大正十二年一月十九日　農商務省令第一號）

第一條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生又ハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ旨部內ニ公示スヘシ

第二條　傳染病發生シ又ハ終熄シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨管內ニ告示シ且農林大臣及隣接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ地方長官ハ農林大臣竝隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

家畜傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムル傳染性病發生シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨農林大臣ニ急報スヘシ

第三條　假性皮疽、牛ノ傳染性流產、馬緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜及犬以外ノ家畜ニシテ狂犬病ニ感染シタル虞アルモノニ限リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ隔離ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ隔離以外ノ處置ニ止ムルコトヲ得

第四條　地方長官家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシメムトスルトキハ家畜ノ種類、區域及日時ヲ告示スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ揭クル屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ牛疫、氣腫疽、牛肺疫、口蹄疫又ハ牛ノ傳染性流產ノ場合ニ在リテハ牛ヲ、鼻疽、假性皮疽、馬ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ノ場合ニ在リテハ馬ヲ、炭疽ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用ヰルコトヲ得ス

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

三　病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品

第六條　前條ノ屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スルモ尙地表迄一メートル以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ散布シ土ヲ以テ塡塞スヘシ

第七條　燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ截切スルコトヲ得ス

第八條　第五條ノ屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又ハ道路ニ接近セサル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ埋却ヲ爲シタル場所ハ之ヲ標示スヘシ

第八條ノ二　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定ノ申請アリタルトキハ地方長官（檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長）ハ豫メ警察官吏又ハ家畜防疫委員（檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏）ヲシテ屍體ヲ剖檢セシメ家畜カ傳染病ニ罹リタルモノナルコト明ナラサル場合ニ限リ申請者ヲシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員（檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏）ノ指揮ニ從ヒ皮、毛、角又ハ蹄ヲ屍體ヨリ分離シ之ヲ消毒セシメ其ノ他ノ部分ハ之ヲ燒却又ハ埋却セシムヘシ

第九條　家畜傳染病豫防法ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル停止ヲ命シタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管內ニ告示シ且農林大臣竝隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第十一條　家畜傳染病豫防法第十七條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ犬ノ種類、性、年齡、毛色及特徵、之ヲ捕ヘタル場所及日時竝其ノ抑留ノ場所ヲ記載スヘシ

家畜傳染病豫防法第十七條第三項ノ期間ハ三日トス

第十二條　地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者又ハ保管者ヲシテ犬ヲ繫留セシムヘシ但シ口網ヲ附シテ牽行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　航海中家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ

又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スヘシ

前項ノ家畜ニシテ斃死シタルトキハ其ノ屍體ハ消毒液ヲ浸シタル莚又ハ菰等ヲ以テ全體ヲ包裹シ病毒ノ散蔓ヲ防クヘシ但シ領海外ニ於テハ之ヲ投棄スルコトヲ得

第十四條　家畜防疫委員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏、吏員若ハ市町村吏員又ハ獸醫師ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ評價人ハ地方長官(檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長)其ノ所屬ノ官吏、吏員又ハ市町村吏員及畜產業ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

第十五條　家畜傳染病豫防法第十五條ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第十六條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

(證票樣式略ス)

◎家畜傳染病檢疫規則

(大正十二年一月十九日農商務省令第二號)

第一條　家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ハ北海道函館港、同小樽港、大阪府大阪港、神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、福井縣敦賀港、山口縣下關港、福岡縣門司港及鹿兒島縣鹿兒島港ニ於テ之ヲ行フ但シ當分ノ內鹿兒島港ニ在リテハ家畜及其ノ屍體竝綿羊毛、駱駝毛、アルパカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫、函館港、小樽港、長崎港、嚴原港、下關港及門司港ニ在リテハ綿羊毛、駱駝毛、アルパカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫ハ之ヲ行ハス

第二條　農林大臣檢疫施行上必要アリト認ムルトキハ檢疫ヲ受クヘキ物ノ種類ヲ限リ其ノ檢疫ヲ受クヘキ海港ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ十日以前ニ其ノ旨ヲ告示ス

第三條　外國又ハ家畜傳染病豫防法ヲ施行セサル地方ヨリ入港シタル船舶ニシテ左ニ掲クル家畜又ハ屍體ヲ搭載スルモノハ其ノ船舶內ニ於ケル檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ掲クヘシ

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜

三　前各號ニ掲クル家畜ノ屍體

前項ノ信號ハ晝間ハ前檣頭ニ第一號樣式ノ旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅燈一個其ノ下ニ白燈二個ヲ上下ニ連揭スヘシ

第三條ノ二　檢疫ヲ受クベキ物ハ檢疫官吏ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ船舶外ニ搬出スルコトヲ得ズ

第四條　檢疫官吏ハ檢疫ヲ受クヘキ物ヲ搭載シタル船舶ニ臨檢シ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ第二號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ

第五條　檢疫官吏ハ船舶ニ於テ家畜ノ檢診若ハ家畜ノ屍體ノ檢案又ハ肉骨皮毛類ノ檢査ヲ行ヒ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　家畜傳染病豫防法第四條及第五條ノ家畜ニシテ殺スコトヲ必要トスルモノハ之ヲ殺場ニ送致セシムルコト

二　前號以外ノ家畜ハ直ニ之ヲ繫留場ニ送致セシムルコト但シ朝鮮總督府ノ發給シタル檢疫證明書ヲ有スル畜牛ニシテ全群健康ト認ムルモノ竝犬及支那、西比利亞以外ノ地ヨリ輸入若ハ移入スル鷄、鶩ニシテ檢疫官吏ニ於テ繫留ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　家畜ノ屍體ハ燒却場ニ送致セシムルコト

四　肉骨皮毛類ハ消毒場ニ送致セシムルコト但シ輸出地ニ於ケル日本官憲ノ發給シタル屠殺前ノ健康證明書及屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉及移出地ニ於ケル屠肉檢査ノ證明ヲ有スル生肉其ノ他檢疫官吏ニ於テ消毒ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　前條第二號ノ規定ニ依リ繫留場ニ送致セシメタル家畜ノ繫留期間左ノ如シ

一　牛、綿羊、山羊　十五日但シ支那(青島港ヲ除ク)、西比利亞、朝鮮ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノ及支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノニ在リテハ七日迄、支那青島港ヨリ輸入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノニ在リテハ二日迄短縮スルコトヲ得

二　馬　十日但シ支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノハ五日迄短縮スルコトヲ得

三　豚　十日但シ指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得

四　鷄、鶩　二日

傳染病ニ罹リタル家畜ハ其ノ快復後二十日間、牛疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ハ二十日間、牛肺疫又ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ハ九十日間、狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ檢疫所ニ於テ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルモノハ十四日間之ヲ繫留スヘシ

傳染病ニ罹リタル疑アル家畜ハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ繫留スヘシ

繫留中家畜カ牛疫、牛肺疫、口蹄疫又ハ羊痘ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍及檢疫官吏ニ於テ病毒ニ汚染シタル虞アリト認ムル場所ニ繫留シタル家畜ハ畜舍又ハ場所ノ消毒完了後左ニ掲グル所ニ依リ之ヲ繫留スベシ但シ羊痘ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ繫留期間ヲ七日迄短縮スルコトヲ得

一　牛疫又ハ口疫蹄ノ場合　牛、緬羊、山羊、豚　二十日間

二　牛肺疫ノ場合　牛　九十日間

三　羊痘ノ場合　緬羊、山羊　二十日間

繫留中家畜カ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、加奈陀馬痘、馬、緬羊、山羊ノ疥癬ニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍ニ繫留シタル家畜ハ畜舍ノ消毒完了後十日間之ヲ繫留スヘシ但シ檢疫所ニ隣接シタル指定ノ屠場又ハ場所ニ於テ殺ス場合ハ七日迄短縮スルコトヲ得

繫留中家畜カ家禽コレラニ罹リタルトキハ之ト同一畜舍ニ繫留シタル家畜ハ畜舍ノ消毒完了後五日間之ヲ繫留スヘシ但シ指定ノ場所ニ於テ殺ス場合ハ三日迄短縮スルコトヲ得

傳染病ニ罹リタル疑アル家畜生シタルトキハ之ト同一場所ニ繫留シタルモノハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ繫留スヘシ

前六項ノ規定ハ傳染病ニ罹リタル家畜ト同一船ニ在リタル家畜ヲ繫留場ニ送致シタル場合ノ繫留期間ニ之ヲ準用ス

指定屠場ニ送付スル家畜ハ檢疫證明書交付ノ當日之ヲ屠殺セシムヘシ

第七條　前三條ノ規定ハ家畜傳染病豫防法第二十條第二項ノ規定ニ依リテ行フ檢疫ニ之ヲ準用ス

第八條　檢疫官吏檢疫ヲ終リタルトキハ第三號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ但シ消毒ヲ爲シタル獸毛ニ付テハ包裝每ニ第四號樣式ノ證明書ヲ交付スヘシ

第九條　第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

（第一號樣式乃至第四號樣式略ス）

◎家畜傳染病豫防法ニ依リ當分ノ內支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛輸入停止（明治四十二年八月五日農商務省令第二十三號）

家畜傳染病豫防法第十九條ニ依リ當分ノ內支那、西伯利ヨリ又ハ之ヲ經テ生牛ヲ輸入スルコトヲ停止ス但シ食用ノ爲ニスルモノニシテ檢疫ヲ受ケタル後直ニ檢疫官ノ指定シタル屠場ニ於テ屠殺スルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎朝鮮ヨリ移入スル牛ノ家畜傳染病檢疫ニ關スル件（大正十五年六月二十五日農林省令第十七號）

朝鮮ヨリ移入スル牛ハ朝鮮總督府ノ發給シタル檢疫證明書ヲ有スルモノト雖當分ノ內家畜傳染病檢疫規則第五條第二號ノ規定ニ拘ラス檢疫ノ爲五日間之ヲ繫留ス但シ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノニ在リテハ二日迄短縮スルコトヲ得

◎畜牛結核病豫防法（明治三十四年四月十三日法律第三十五號）

第一條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ檢査ス其ノ他ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノニ付亦同シ

第二條　前條ノ檢査ハ臨床的診察ニ依リ又ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ行フ

第三條　檢査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ屆出ツヘシ

第五條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

第六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第七條　外國ヨリ輸入スル畜牛ハ特ニ定メタル場所ニ於テ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ檢査ス但シ主務大臣ニ於テ必要ナシト認メタル畜牛ニ對シテハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ檢査ニ關シテハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ稅關長又ハ檢査員ニ於テ其ノ輸入又ハ移入ノ禁止、繫留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條　前條ニ依リ輸入又ハ移入ヲ禁止セラレタル者畜牛

ヲ撲殺セムトスルトキハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條　結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ所有者ニ對シ畜牛又ハ物品ノ評價額ノ二分ノ一ニ相當スル手當金ヲ下付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ畜牛又ハ物品ノ評價ハ地方長官ノ選定スル三人以上ノ評價人ヲシテ之ヲ爲サシム地方長官其ノ評價ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

一　檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二　第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三　檢査ヲ受ケスシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入又ハ移入シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一　前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二　第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三　第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條　手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條　畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十六條ノ二　本法ニ於テ外國種牛、雜種牛、內國種牛、乳用牛又ハ雜種種牡牛ト稱スル畜牛ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、檢査ヲ受ケスシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入若ハ移入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十年法律第八十四號附則

第三編　衞生　第三款　家畜檢疫

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年四月勅令第百二十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタルニ因リ下付スル手當金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◎畜牛結核病豫防法施行規則

（明治三十六年五月三十日農商務省令第四號）

第一條　外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ

雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ

內國種牛トハ外國種牛及雜種牛ニ非サル畜牛ヲ謂フ

乳用牛トハ搾乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ

雜種種牡牛トハ雜種牛ニシテ種牡牛檢査ニ合格シタル畜牛及其ノ檢査ヲ受ケムトスル畜牛ヲ謂フ

第二條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル檢査期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項屆出期間後新ニ檢査未濟ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理ス

ルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以内ニ届出ツヘシ

檢査未濟ノ畜牛ニ關シ前二項ノ届出事項ニ變更アリタルトキハ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ官廳又ハ公署ノ管轄區域ニ亘ルトキハ新舊兩地ノ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

第三條　地方長官ハ一箇年毎ニ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ檢査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得

地方長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ檢査ヲ行フ

結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ檢査ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレハ檢査ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　前條第一項ノ檢査ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ檢査ノ期日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス

官廳又ハ公署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

前條第二項ノ檢査ノ期日及場所ハ官廳又ハ公署隨時之ヲ指定スヘシ

第五條　官廳又ハ公署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍内ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條　地方長官檢査ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ期間ハ三十日ヲ、區域ハ一郡又ハ一市ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限ノ期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發スヘシ

第七條　正當ノ事由ニヨリ檢査ノ日時又ハ場所ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ官廳又ハ公署ハ其ノ者ニ付キ別ニ檢査ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス

第九條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的症狀重大ナルモノ亦同シ

一　乳房結核

一　重症肺結核

一　汎發結核

一　前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス

第十條　檢査員檢査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號様式ノ一ノ健康證ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ルモノニハ第三號様式ノ二ノ健康證ヲ交付ス

一　重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號様式ノ耳標ヲ付ス

一　結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號様式ノ耳標ヲ付ス

前項第一號ノ健康證ハ次回檢査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第一項第一號ノ健康證ヲ交付シタル畜牛ニシテ「ツベルクリン」皮下注射後第三條第三項但書又ハ第二十四條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ健康證ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ

第十一條　前條ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ遲滯ナク官廳又ハ公署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキ及檢査員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ虞アリト認ムルトキハ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者檢査員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ檢査員ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢査ハ大阪府大阪港、神奈川縣横濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、山口縣下關港及福井縣敦賀港ニ於テ之ヲ行フ

第十四條　稅關長ハ畜牛ノ輸入又ハ移入ノ申告アリタルトキハ檢査ノ日時、場所其ノ他檢査ノ爲必要ナル事項ヲ輸入又ハ移入申告者ニ通知スヘシ

第十五條　檢査員外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ一ノ健康證ヲ臨床的診察及「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ交付ス

一　重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第六號樣式ノ記號ヲ烙印ス

一　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第七號樣式ノ記號ヲ烙印ス

一　結核病ノ疑アル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第八號樣式ノ記號ヲ烙印ス

第十六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ埋却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル裝置ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十七條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠獸場內特ニ區畫シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ヲ撲殺セムトスル場合ニ於テ輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十九條　畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ症狀ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一臟器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二三ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ發生セルモ各部ノ變狀小部ニ局限シ急性結核ノ變狀ヲ呈セサルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ檢査員、屠畜檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及之ニ近接セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結核ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第二十二條　地方長官ハ所屬ノ官吏、吏員及獸醫ノ中ヨリ檢査員ヲ命シ所屬ノ官吏、吏員又ハ郡市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者ノ中ヨリ評價人ヲ命スヘシ

第二十三條　檢査員タルヘキ獸醫ハ助手ノ職務ノミヲ行フ者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　畜牛結核病檢査講習生規則第六條ノ修業證書ヲ有スル者

二　官立學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者

三　獸疫調査所ニ於テ六月以上畜牛結核病ニ關スル試驗ニ從事シ其ノ證明書ヲ有スル者

四　三年以上檢査員トシテ助手獸醫ノ職務ヲ行ヒタル者

第二十四條　地方長官又ハ官廳又ハ公署ノ告示又ハ指定シタル檢査期日四十五日以前ヨリ檢査確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレハ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ正當ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十五條　前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛「ツベルクリン」ノ應用ヲ行ヒタル者ハ遲滯ナク檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十六條　地方長官ハ毎年少クトモ一回畜牛結核病豫防ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十七條　地方長官ハ第三條ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績及其ノ狀況ヲ翌年四月三十日限リ第九號樣式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

稅關長ハ第十三條ノ檢査終了後其ノ檢査ノ成績ヲ其ノ月末日限リ第十號樣式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　畜牛結核病豫防法第四條ノ屆出ハ檢査員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條　畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化製裝置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シテ地方長官ニ出願スヘシ

第三十條　畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ

第三十一條　檢査員、評價人、其ノ他行政廳ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ二十五日以下ノ〔重禁錮〕又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損又ハ喪失セシメタル者ハ二十五日以下ノ〔重禁錮〕又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第三條第三項但書ニ違背シテ檢査ヲ受ケタル者又ハ第六條第一項ノ命令ニ違背シ若ハ第二十四條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ〔重禁錮〕又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二條、第七條第一項、第十七條、第十八條、第二十一條、第二十五條、第三十七條ニ違背シタル者及第十九條、第二十條ノ屆出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條　本則中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

第三十五條ノ二　本則中ノ官廳又ハ公署ハ地方長官ノ指定スル所ニ依ル

第三十六條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年農商務省令第六號輸入畜牛結核病檢査規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條　本則施行ノ際ニ限リ第二條第一項ノ屆出ハ七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三款　植物檢査

◎輸出入植物取締法（大正三年三月二十六日法律第十一號）

第一條　植物ヲ輸入移入輸出又ハ移出スル者ハ其ノ植物及其ノ容器包裝ニ使用シタル物ニ付植物檢査官吏ノ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ檢査ハ取締上必要ナシト認ムル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル物ハ之ヲ收受スルコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキ植物ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　植物檢査官吏ハ前條ノ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セル虞アリト認ムルトキハ前條ニ揭ケサル物ニ付テモ檢査ヲ爲スコトヲ得

第三條　病菌又ハ害蟲ハ主務大臣ノ許可ヲ得且植物檢査官吏ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第四條　檢査ハ勅令ヲ以テ指定スル海港ニ於テ之ヲ行フ

檢査ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　植物檢査官吏ハ檢査ノ結果病菌又ハ害蟲附著ストヽ認メタル植物其ノ他ノ物ヲ消毒又ハ燒棄シ、其ノ輸入移入輸出又ハ移出ヲ禁止シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ當事者ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第六條　植物檢査官吏ハ本法ノ檢査ヲ受クヘキ植物其ノ他ノ物ヲ積載シ又ハ積載セル疑アル船舶ニ臨檢スルコトヲ得

植物檢査官吏ハ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ前項ノ物ノ陸揚又ハ轉載ヲ停止スルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ病菌又ハ害蟲ノ傳播ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ特定ノ地ヨリ發送シ又ハ之ヲ經由シタル植物又ハ病菌若ハ害蟲ノ附著セル虞アル物ノ輸入移入又ハ收受ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第八條　植物檢査官吏、稅關官吏又ハ警察官吏本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スル者アリト認ムルトキハ臨檢尋問搜索若ハ差押ヲ爲シ又ハ其ノ違反ニ係ル物ヲ消毒若ハ燒棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

臨檢尋問搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ病菌又ハ害蟲傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ處置セラレタル物ニ付テハ第一條第三項ノ規定ヲ適用セス

第九條　第五條及前條第一項ノ處分ニ必要ナル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當事者ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムル

コトヲ得

第十條　本法ニ於テ病菌又ハ害蟲ト稱スルハ植物ヲ害スル菌類又ハ蟲類ヲ謂フ

病菌又ハ害蟲ニ非サル動植物ト雖主務大臣ニ於テ植物ヲ害シ又ハ害スル虞アリト認ムルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ病菌又ハ害蟲ト看做ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ檢査ヲ免レタル者

二　檢査ヲ受クルニ當リ詐僞ノ行爲アリタル者

三　第五條但書ノ場合ニ於テ認可ノ條件ニ違反シタル者

四　第六條ノ停止又ハ第七條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタル者

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　許可又ハ檢査ヲ受ケスシテ病菌又ハ害蟲ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　第三條ノ許可ノ條件ニ違反シタル者

第十三條　本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ臨檢搜索ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條　輸入者移入者輸出者移出者又ハ收受者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ其ノ業務ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　輸入者移入者輸出者移出者收受者又ハ船長ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自已ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十六條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第七條及其ノ罰則ニ關スル規定ハ全部ノ施行ニ先チ之ヲ施行スルコトヲ得

（大正三年五月勅令第七十八號ヲ以テ第七條及其ノ罰則ニ關スル規定同年六月一日ヨリ施行其他同年十月勅令第二百十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス）

◎輸出入植物取締法施行規則

（大正三年十月十三日農商務省令第二十七號）

第一條　輸出入植物取締法第一條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキ植物左ノ如シ

一　輸入又ハ移入スル植物ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

(一)植物及其ノ部分ニテ栽植培養ノ用ニ供スルモノ

(二)種子、地下莖及根ニシテ繁殖ノ用ニ供スルモノ

(三)柑橘ノ生果實竝ニ關東州産及滿洲國産ノ苹果ノ生果實

(四)馬鈴薯

(五)臺灣産及南洋群島産ノ西瓜

(六)第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタルモノ

(七)(一)乃至(六)ニ掲クルモノノ外植物檢査官吏ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セル虞アリト認ムルモノ

二　輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ檢査證明ヲ必要トスルモノ

第一條ノ二　別表ニ掲クル地域ヨリ發送シ又ハ之ニ陸揚シタル植物ニシテ各其ノ相當ノ欄ニ掲クルモノ及其ノ容器包裝ニ使用シタル物ハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス但シ試驗研究ノ用ニ供スル爲農林大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル物ハ之ヲ收受スルコトヲ得ス

第二條　第一條第一號(一)乃至(五)ノ一ニ該當スル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ植物ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第一號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ稅關ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ旅客ノ携帶ニ係ルモノニ付テハ口頭ヲ以テ植物檢査官吏、植物檢査官吏現場ニ在ラルトキハ其ノ他ノ稅關官吏ニ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　第一條第二號ノ植物ヲ輸出スル者ハ其ノ植物ヲ積載スル船舶ノ出港期日十日前第二號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ稅關ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ但シ其ノ後ノ申請ト雖受理スルコトアルヘシ

第四條　植物檢査官吏輸出入植物取締法第二條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ檢査ヲ受クヘキ物ノ管理者ニ豫メ其ノ旨ヲ通告スヘシ但シ急施ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第一條第一號(七)ニ該當スル植物ノ檢査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五條　輸出入植物取締法第三條又ハ本則第一條ノ二第一

項但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第三號樣式ニ依ル申請書ヲ稅關ヲ經由シテ農林大臣ニ提出スヘシ

第六條　（削除）

第七條　病菌害蟲又ハ第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ病菌、害蟲又ハ植物ヲ積載シタル船舶ノ入港後遲滯ナク第四號樣式ニ準シタル書面ヲ以テ稅關ニ檢査ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ植物檢査官吏期間ヲ指定シテ輸出入植物取締法第三條又ハ本則第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ノ提出ヲ命シタルトキハ申請人ハ其ノ期間內ニ之ヲ差出スヘシ

第八條　植物檢査官吏ハ第二條又ハ前條第一項ノ申請前ト雖檢査ヲ爲スコトヲ得

第四條第一項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九條　第二條、第三條若ハ第七條第一項ノ申請ヲ爲シタル者又ハ第四條若ハ前條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者ハ植物檢査官吏ノ指揮ニ從ヒ檢査ヲ受クヘキ物又ハ受ケタル物ノ運搬、荷造、荷解其ノ他ノ處置ヲ爲スヘシ

第十條　輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ受クヘキモノハ小包郵便物及小形包裝物以外ノ郵便物トシテ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第十條ノ二　第一條ノ二第一項又ハ前條ノ規定ニ違反シタル郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ハ其ノ郵便物ヲ添ヘ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅關ニ屆出ツヘシ

第十一條　輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ受クヘキ物ハ植物檢査品ナル文字ヲ明瞭ニ表示シタルモノニ非サレハ小包郵便ニ依リ之ヲ移入スルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル小包郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十二條　通關手續ヲ爲スヘキ郵便局又ハ遞信大臣ノ特ニ指定シタル郵便局ハ輸出入植物取締法ニ依リ輸入又ハ移入ニ付檢査ヲ受クヘキ物ヲ包容スル小包郵便物又ハ小形包裝物ノ遞送ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ通知スヘシ

前項ノ郵便物ノ檢査ハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第十三條　第七條第二項ノ規定ハ小包郵便物又ハ小形包裝物トシテ病菌、害蟲又ハ第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ輸入又ハ移入スル場合ニ於テ其ノ名宛人ニ付之ヲ準用ス

第十四條　輸出又ハ移出地ノ官憲ニ於テ病菌又ハ害蟲ノ附著セサルコトヲ證明シタル檢査證ヲ有スル植物ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出ツヘシ第二條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ檢査證ヲ有スル植物ニ付テハ輸入又ハ移入ノ檢査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條及第九條ノ規定ハ植物檢査官吏ニ於テ檢査ノ必要アリト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　植物檢査官吏檢査ノ結果取締上支障ナシト認ムルトキハ輸入又ハ移入スルモノニ在リテハ第五號樣式ノ證票又ハ證印ヲ附シ輸出スルモノニ在リテハ獨逸及「オーストリヤ」ニ對シテハ第六號樣式及第六號樣式ノ三、佛蘭西及「ブルガリヤ」ニ對シテハ第六號樣式及第六號樣式ノ四、希臘、「ユーゴスラビヤ」、白耳義、伊太利、葡萄牙、「チュニス」、「エリトレヤ」及「ニューカレドニヤ」ニ對シテハ第六號樣式ノ四、英吉利其ノ他ノ國ニ對シテハ第六號樣式ノ二ノ證明書ヲ交付スヘシ

植物檢査官吏前條第二項ノ規定ニ依リ檢査ヲ省略シタルトキハ第七號樣式ノ證票又ハ證印ヲ附スヘシ

第十六條　植物檢査官吏植物其ノ他ノ物ヲ燒棄、埋沒若ハ著シク毀損シ又ハ其ノ輸入、移入若ハ輸出ヲ禁止スルトキハ第二條、第三條若ハ第七條第一項ノ申請ヲ爲シタル者、第四條若ハ第八條第二項ノ通告ヲ受クヘキ者、第十四條第一項ノ屆出ヲ爲シタル者又ハ郵便物ノ名宛人ニ其ノ旨ヲ通告シ且關係アル郵便局ニ之ヲ通知スヘシ

第十七條　（削除）

第十八條　警察官吏輸出入植物取締法第八條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ通知スヘシ

第十九條　第二條、第七條第一項、第九條、第十條ノ二、第十一條第二項又ハ第十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附　則

本則ハ輸出入植物取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正三年十一月一日ヨリ施行）

樺太ヨリ移入スル植物ニ付テハ當分ノ內檢査ハ之ヲ省略シ第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

附　則（大正十三年農商務省令第三十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸出入植物取締法施行規則第十五條ノ規定ニ依ル證票、證印及證明書ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス大正十四年一月十五日迄仍從前ノ樣式ニ依ルコトヲ得

附　則（昭和八年農林省令第二十一號）

本令ハ昭和八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ別表中第一號及第三號乃至第八號ニ付テハ昭和九年一月一日ヨリ、第九號ニ付テハ昭和九年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年農商務省令第二十一號中第二號ヲ削リ第三號及第四號ヲ各第二號及第三號トシ同省令ハ昭和八年十二月三十一日限リ之ヲ廢止ス

（第一號樣式乃至第七號樣式及別表略ス）

◎輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ行フ海港指定ノ件（大正三年十月七日勅令第二百二十號）

輸出入植物取締法ニ依リ檢査ヲ行フ海港別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

海港ノ種別	海港名	檢査ニ關スル制限
輸入、移入及輸出ノ檢査ヲ行フ海港	神奈川縣横濱	輸入ノ檢査ハ關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實ニ付之ヲ行ハス
	兵庫縣神戸 福岡縣門司	移入ノ檢査ハ南津群島産西瓜ニ付之ヲ行ハス
	北海道函館 東京府東京 愛知縣名古屋 三重縣四日市 福井縣敦賀 大阪府大阪 山口縣下關 長崎縣長崎 沖繩縣那覇	輸入及移入ノ檢査ハ關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實竝ニ南洋群島産西瓜ニ付之ヲ行ハス
輸入及移入ノ檢査ヲ行フ海港	北海道小樽 鹿兒島縣鹿兒島	輸入及移入ノ檢査ハ旅客携帶品（病菌、害蟲、關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實、臺灣産及南洋群島産ノ西瓜竝ニ輸出入植物取締法施行規則第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ除ク）ノ外之ヲ行ハス
	東京府二見 長崎縣嚴原	旅客携帶品（病菌、害蟲、關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實、臺灣産及南洋群島産ノ西瓜竝ニ輸出入植物取締法施行規則第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ除ク）及郵便物（病菌、害蟲、關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實竝ニ輸出入植物取締法施行規則第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ檢査ヲ行ハス
	靜岡縣清水 愛知縣武豐 廣島縣宇品 福岡縣博多 佐賀縣三池 唐津	旅客携帶品（病菌、害蟲、關東州産及滿洲國産苹果ノ生果實、臺灣産及南洋群島産ノ西瓜竝ニ輸出入植物取締法施行規則第一條ノ二第一項但書ノ許可ヲ受ケタル植物ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ檢査ヲ行ハス

◎輸出スル植物ニシテ檢査證明ヲ必要トスルモノノ種類（昭和十一年十月一日農林省告示第三百三十二號）

輸出スル植物ニシテ輸入國政府ニ於テ其ノ輸入ニ付輸出國ノ檢査證明ヲ必要トスルモノ左ノ如シ

大正十五年二月農林省告示第十八號ハ之ヲ廢止ス

（國名及植物ノ種類名略ス）

◎朝鮮移出植物檢査規程（大正八年八月二十七日農商務省告示第二百二十八號）

第一條　朝鮮ニ植物ヲ移出セムトスルモノハ本規程ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ得

第二條　檢査ハ左ノ植物ニ付之ヲ行フ

栽植又ハ接木用ノ果樹及櫻樹竝ニ其ノ枝、幹及根

第三條　檢査ヲ行フ期間ハ毎年四月一日ヨリ翌年二月十五日迄トス但シ其ノ他ノ期間ト雖檢査ヲ行フコトアルヘシ

第四條　檢査ハ左ノ稅關ニ於テ之ヲ行フ但シ檢査スヘキ植物多量ニシテ病菌害蟲驅除ニ要スル設備完全ナル場合ニ於テハ其ノ所在地ニ就キ檢査ヲ行フコトアルヘシ

一　横濱、神戸、大阪、長崎及門司各稅關

二　名古屋稅關支署、四日市稅關支署、敦賀稅關支署及

門司稅關下關出張所

第五條　檢査ヲ受ケムトスル者ハ其ノ植物發送ノ日ヨリ少クトモ十日前ニ第一號樣式ニ準シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ其ノ後ノ申請ト雖受理スルコトアルヘシ

前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ稅關ノ指揮ニ從ヒ其ノ植物ヲ搬入又ハ搬出スヘシ

第六條　檢査ノ結果病菌又ハ害蟲附著セスト認メタルモノニ付テハ第二號樣式ノ植物檢査合格證ヲ交付ス

前項ノ植物檢査合格證ハ每梱一葉ヲ交付ス

第七條　稅關ハ檢査ノ爲ニ生シタル損害ニ付テハ其ノ責ニ任セス

第八條　植物檢査官吏ノ指揮ニ從ハス又ハ不正ノ行爲ニ因リ檢査ヲ受ケタル者ニ對シテハ檢査ヲ拒絕シ又ハ證明ヲ取消スコトアルヘシ

（第一號及第二號樣式略ス）

第四款　雜則

◎輸出密蜂檢査規則（昭和六年三月三十日農林省令第六號）

第一條　蜜蜂ヲ輸出セントスル者ハ本則ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ得

第二條　檢査ハ王蜂檢査及蜂群檢査トス

王蜂檢査ハ王蜂輸出ヲ爲ス場合王蜂及之ニ伴フ働蜂ニ付、蜂群檢査ハ蜂群輸出ヲ爲ス場合蜂群ニ付之ヲ行フ

第三條　檢査ハ農林大臣檢査官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第四條　檢査ハ農林大臣ノ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ノ場所ノ所在地內ニ限リ前項ノ場所以外ノ場所ニ於テ檢査ヲ行フコトアルベシ

第一項ノ場所ハ農林大臣之ヲ告示ス

第五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ荷受人每ニ樣式第一號ニ依ル申請書ニ其ノ副本及樣式第二號ニ依ル檢査手數料納付書ヲ添ヘ蜜蜂ヲ船積セムトスル日ヨリ二十日以前ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ檢査官吏ノ指揮ニ從ヒ蜜蜂ヲ搬入又ハ搬出スベシ

第六條　農林大臣檢査ヲ行ヒタル蜜蜂ニ付左ノ各號ノ一ニ該當シ且健康ニシテ傳染性ノ疾病ニ感染シタル虞ナシト認メタルトキハ樣式第三號ニ依ル輸出蜜蜂健康證明書ヲ檢査申請人ニ交付シ其ノ容器ノ外側ニ樣式第四號ニ依ル封緘證紙ヲ貼附シ且樣式第五號ニ依ル證印ヲ押捺ス

一　王蜂檢査ニ在リテハ交尾濟ノ王蜂一匹及之ニ伴フ働蜂十四乃至五百匹アルコト

二　蜂群檢査ニ在リテハ其ノ蜂群中ニ交尾濟ノ王蜂一匹及働蜂七千匹以上アルコト但シ有蓋蜂兒アル場合ニ於テハ働蜂ト有蓋蜂兒トヲ合セテ七千匹以上ニシテ其ノ內働蜂三千匹以上アルコト

第七條　農林大臣ハ檢査ノ爲ニ生シタル損害ニ付テハ其ノ責ニ任セス

第八條　本則ノ規定ニ違反シ又ハ不正ノ行爲ニ依リ檢査ヲ受ケタル者ニ對シテハ檢査ヲ拒絕シ又ハ證明ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條第一項中二十日以前トアルハ昭和六年四月三十日以前ニ蜜蜂ヲ船積セントスル者ノ申請ニ付テハ之ヲ十日以前トス

（樣式第一號乃至五號略ス）

◎輸出密蜂檢査規則ニ依ル輸出密蜂檢査所位置（昭和六年四月十日農林省告示第八十七號）

輸出蜜蜂檢査規則ニ依リ輸出蜜蜂ノ檢査ヲ行フ場所左ノ通定ム

神戸市　神戸稅關構內　農林省輸出蜜蜂檢査事務所

門司市　門司稅關構內　農林省輸出蜜蜂檢査事務所

◎食肉輸移入取締規則（昭和二年一月二十日內務省令第四號）

第一條　本令ニ於テ食肉ト稱スルハ食用ニ供スル牛、緬羊、山羊、豚及馬ノ生肉ニシテ販賣ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

第二條　食肉ハ屠畜檢査ヲ經タルコトヲ證スル輸出官憲（支那ニ在リテハ在支帝國官憲）又ハ移出地官憲ノ證明書竝肉面ニ獸種及屠殺年月日ヲ明示シタル屠畜檢査員ノ檢印アルモノニシテ別ニ指定スル海港ニ於テ地方長官ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第三條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　食肉ヲ輸入又ハ移入スル者カ未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同

一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　食肉ヲ輸入又ハ移入スル者ハ其ノ代理人、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎食肉輸移入取締規則第二條ニ依ル海港指定

（昭和二年一月二十日　内務省告示第百五十九號）

食肉輸移入取締規則第二條ノ規定ニ依リ左記海港ヲ指定ス

大阪　横濱　神戸　長崎　嚴原　敦賀　下關　門司

（昭和二年八月十二日　内務省告示第四百五號）

食肉輸移入取締規則第二條ノ規定ニ依リ左記海港ヲ指定シ昭和二年九月十一日ヨリ施行ス

廣島縣下宇品

第四編　財務

第四編　財務

第一款　關稅及噸稅

◎關稅法（明治三十二年三月十四日法律第六十一號）

第一章　關稅ノ賦課及徵收
第二章　船舶
第三章　貨物
　第一節　總則
　第二節　輸出輸入及積戾
　第三節　運送
　第四節　郵便物
　第五節　收容
第四章　稅關官吏ノ職權
第五章　異議及訴願
第六章　罰則
第七章　犯則事件ノ調査及處分
第八章　補則

第一章　關稅ノ賦課及徵收

第一條　輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

第二條　輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條　關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四條　關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六第　擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條　關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス但シ逋脫ヲ圖リ又ハ

逋脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス

第九條　前二條ノ期限內ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時效ヲ中斷ス

第二章　船舶

第十條　外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ稅關ニ入港屆ヲ爲シ積荷目錄、艙口申告書、船用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條　（削除）

第十二條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港屆ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條　外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條　（削除）

第十六條　船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目錄ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ依リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第十九條、第二十條　（削除）

第二十一條　外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條　本法ニ於テ外國貿易船ト稱スル外國貿易ノ爲

外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章　貨物

第一節　總則

第二十四條　外國貨物ハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ難破貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　貨物ノ檢査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

保稅地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ亦前項ニ同シ

第二十七條　保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條　貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

外國貿易船ト沿海通航船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第二十九條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構內、保稅倉庫、稅關假置場、稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第三十條　貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節　輸出、輸入及積戾

第三十一條　貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ揚クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得

一　遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二　遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三　遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四　遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第三十二條　輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十三條　（削除）

第三十四條　輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條、第三十六條　（削除）

第三十七條　輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スコトヲ得ス

第三十八條　外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　運送

第三十九條　外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保稅地域間又ハ開港ト保稅地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十九條ノ二　外國貨物ノ陸路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

第三十九條ノ三　外國貨物相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セサルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條ノ四　外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスル每ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十九條ノ五　左ニ揚クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保稅地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

一　假ニ陸揚シタル貨物

二　運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

三　難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四十條　內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第四十一條　第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四節　郵便物

第四十二條　郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條　關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條　郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條　第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條、第三十七條乃至第三十九條ノ五及第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節　收容

第四十六條　保稅倉庫又ハ稅關假置場ヲ除クノ外保稅地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以內ニ其ノ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間內ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條　貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條　貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條　前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ貨物ヲ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條　貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申

告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ稅關、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

第五十一條　收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條　收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章　稅關官吏ノ職權

第五十三條　稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條　稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條　稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ檢査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條　稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ヒルコトヲ得

第五章　異議及訴願

第六十一條　關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條　從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條　評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ揭クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二　第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

四　當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條　異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條　異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條　第六十二條ノ稅關長ノ判定ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條　訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條　委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條　委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條　委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　罰則

第七十四條　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ揭クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス

第七十五條ノ二　前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ前條但書ニ揭クル貴石ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ原價ニ相當スル金額以下トス

第七十六條　免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　貨物ト符合セサル積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條　第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條　第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條　第二十六條乃至第二十八條、第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十二條　第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十二條ノ二　輸出又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合又ハ稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第八十二條ノ三　前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業者又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條ノ四　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第八十三條　本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯則者ヨリ追徵ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ犯則者ト看做ス

前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯則當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ關稅徵收法ヲ準用ス

第七章　犯則事件ノ調査及處分

第八十四條　稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ著用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條　稅關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條　稅關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在リテハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條　稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條　臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

第九十二條　稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ

限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條　稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條　犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間內ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條　稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキ直ニ告發スヘシ

第八章　補則

第九十八條　船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第九十九條　從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條　本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第百一條　本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百一條ノ二　稅關官吏ハ關稅定率法第五條ノ二ニ規定スル不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十四條、第八十六條、第八十七條、第八十九條及第九十一條ノ規定ヲ準用ス

第百二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年六月勅令第三百十七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

第百三條　明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ牴觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

◎關稅法施行規則（明治三十二年六月三十日勅令第三百十九號）

第一章　關稅ノ賦課徵收及擔保

第一條　關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域內ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第二條ノ二　製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アル

トキハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ規定ニ從フ

第三條　關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條　納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スヘシ

第五條　旅客ノ携帶品關稅法第三十一條但書ニ揭ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條　關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條　關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條　關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢又ハ國債ニ限ル

第十一條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十二條　（削除）

第十三條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ爲スヘシ

第十四條　前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、國債ノ種別、證券又ハ登錄ノ記號、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條　公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章　船舶ニ關スル手續

第十七條　船舶ノ入港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第十九條　艙口申告書ニハ艙口ノ所在、箇數、船用品目錄ニハ船用ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條　外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目錄又ハ運送目錄提出前ニ於テ貨物ヲ積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　船舶ノ出港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキ曩ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條　外國貨物ヲ積載セル船舶日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ積卸ヲ爲ストキ又ハ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　警察官吏稅關法第十八條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關又ハ監視者ニ急報スヘシ

第二十六條　（削除）

第二十七條　外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サントスルトキハ其ノ記號、番號、品名、箇數、數量及陸揚ノ事由ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニ在リテハ稅關官吏ニ、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條　稅關法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量

及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二　警察官吏前二條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關ニ通報スヘシ

第二十九條　沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量、原價及積入地ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章　貨物ニ關スル手續

第一節　總則

第三十條　日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ若ハ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第三十二條　稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條　稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第三十一條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第二節　貨物ノ輸出及積戾手續

第三十四條　輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

關稅定率法第七條第十七號ニ依リ關稅ノ免除ヲ得ントスル外國產貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ

第三十五條　關稅定率法第八條又ハ第十條ニ依ル關稅免除ノ貨物ヲ法定期間內ニ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免除又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ輸入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條　第三十四條第一項ノ規定ハ積戾申告ニ之ヲ準用ス

第三節　貨物輸入ノ手續

第三十七條　輸入申告書ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載スヘシ

第三十七條ノ二　輸入申告書ニ添附スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス（本條ハ明治四十四年十月一日ヨリ施行）

第三十八條　旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　關稅定率法第七條第十七號第十八號及第二十二號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントスル者ハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ輸入貨物內國產ニシテ稅關官吏ニ於テ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スル能ハサル理由アリト認ムルモノニ限リ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十條　關稅定率法第八條第二號乃至第八號及第十條ニ揭ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出ノ場所ヲ記載スヘシ

輸出ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ

第四十一條　（削除）

第四十二條　關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條　（削除）

第四十四條　郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ

郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四十五條　郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シタル通知書ニ其ノ理由ヲ記入シ稅關ニ還付スヘシ

第四節　貨物ノ運送

第四十六條　海路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ運送先、內外國貨物ノ區別、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

陸路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ貨物ノ運送先、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ二　關稅法第三十九條ノ五ニ揭ケタル外國貨物運送ノ認許ヲ受ケントスル者ハ運送先、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第四十六條ノ三　關稅法第三十九條ノ五ニ依リ外國貨物ノ運送ヲ認許シタルトキハ其ノ認許證ニ前條ノ申請書ニ記載シタル事項ノ外指定通路ヲ記載スヘシ

警察官吏前項ノ認許ヲ爲シタルトキハ認許證ノ寫ヲ其ノ地所轄ノ稅關ニ送付スヘシ

第四十七條　運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ運送免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運送貨物免狀ト符合スルトキハ稅關ハ免狀ニ運送濟ノ旨ヲ記入シテ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第五節　貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條　關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ

第四十九條　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨物ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項及關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第四十九條ノ二　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨主ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第五十條　收容貨物ノ敷料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章　異議

第五十一條　關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十二條　異議ノ判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條　判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十五條　異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十六條　關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條　異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條　稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條　稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十條　評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作リ之ヲ稅關ニ差出スヘシ

第六十一條　評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章　犯則事件ノ調査及處分

第六十二條　差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條　差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條　關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時、其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條　臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十七條　稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅

關長ニ報告スヘシ

第六十八條　關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通知書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ揭ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條　第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條　沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條　稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十二條　犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第六章　稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條　稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ土曜日ハ午後三時迄トス

第七十四條　稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第七章　雜則

第七十五條　關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚又ハ船積ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條　稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第七十七條　大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條　手數料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條　手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條　稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條　關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官職名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十二條　申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第八十三條　關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄內ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附則

第八十四條　本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第八十五條　明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則（大正九年勅令第三百八十七號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ稅關ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

◎關稅法第三十九條ノ二ニ依ル通路指定（昭和六年一月十五日大藏省令第一號）

關稅法第三十九條ノ二ニ依ル通路左ノ通定メ昭和六年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年大藏省令第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一、國有鐵道線路竝ニ國有鐵道ト連帶運輸ヲ爲ス地方鐵道及軌道ノ線路

前項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル左ノ直航水路

青森函館港間

下關門司港間

下關釜山港間

二、隅田川口ヨリ小名木川、新川、江戸川ヲ經テ野田町ニ至ル水路隅田川口ヨリ荒川ヲ經テ王子町ニ至ル水路
隅田川口ヨリ小名木川又ハ竪川ニ由リ中川ヲ經テ小松川町ニ至ル水路
前各項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル横濱港ヨリ隅田川口ニ至ル直航水路
横濱港ヨリ帷子川ニ由リ保土ケ谷町ニ至ル水路
大阪市ヨリ淀川及疏水運河ニ由リ京都市ニ至ル水路
大阪市ヨリ新淀川及神崎川ヲ横切リ尼崎市ニ至ル水路
三、稅關長ノ承認ヲ受ケタル者貨物自動車ニ依リ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル左ノ國道
東京市ヨリ横濱市ニ至ル國道
大阪市ヨリ神戸市ニ至ル國道
京都市ヨリ大阪市ニ至ル國道
京都市ヨリ大阪市ヲ經テ神戸市ニ至ル國道

◎關稅法施行規則ニ依ル收容貨物ノ敷料（明治四十二年三月十二日大藏省令第五號）

關稅法施行規則第五十條ニ依收容貨物ノ敷料左ノ通定ム
關稅第四十六條又ハ第四十九條ニ依リ收容スル貨物ノ敷料左ノ如シ
一　重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物
五百斤迄每ニ一日金三錢
二　前號以外ノ貨物
十立方尺迄每ニ一日金三錢
前項ノ使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得
第一項ノ敷料ハ保稅地域ノ敷料又ハ使用料ノ外別ニ之ヲ徵收スルモノトス
收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス
附　則
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年大藏省令第四十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ舊敷料定率表ニ依ル

◎內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シ關稅法等免除ニ關スル件（大正十一年四月十八日法律第五十號）

內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ內國稅ヲ免除シ又ハ內國稅ニ相當スル金額ヲ下戾シ若ハ交付スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス
附　則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年五月勅令第二百九十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）
本法施行前南洋群島ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
本法施行前南洋群島ニ輸出シタル貨物ニ對スル稅金ノ免除又ハ稅金ニ相當スル金額ノ下戾若ハ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◎帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ノ件（明治三十九年八月三十一日勅令第二百三十六號）

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ハ開港ニ由リ出入スヘシ
前項船舶ノ開港出入ニ關スル手續ハ外國貿易船ノ例ニ依ル
附　則
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎保稅倉庫法（明治三十年三月二十九日法律第十五號）

第一章　總　則

第一條　保稅倉庫ハ輸入手數未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス
保稅倉庫ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ內國貨物ヲ藏置スルコトヲ得

第一條ノ二　保稅倉庫ニ於テハ稅關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ外國貨物ニ、外國貨物ヲ內國貨物ニ使用セムトスルトキハ稅關ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　保稅倉庫ニ藏置スル輸入手數未濟ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノト看做サス

第三條　保稅倉庫ニ藏置シタル外國貨物ノ輸入稅ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ庫入ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ輸

入稅ハ庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ檢査ヲ受ケタル外國貨物カ其ノ藏置中災害ニ因リ減失若ハ變質シ又ハ稅關ノ承認ヲ經テ減却セラレタルトキハ其ノ現存スル部分ニ付輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ輸入稅ヲ徵收ス

第四條　保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ

第五條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ稅關長之ヲ定ム

第五條ノ二　保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セムトスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外關稅法ヲ適用ス

第七條　保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ期日ヨリ三年トス

第八條　保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス

第九條　保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ稅關ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ノ輸入稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ貨物稅關ノ指定期限內ニ仕向地ニ到達セサルトキハ輸入稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ減失シタルモノニシテ稅關ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物カ藏置期限ヲ經過スルモ引取ラレサルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容シ又ハ庫主ヨリ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

第九條ノ三　稅關長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ藏置貨物ノ手入ノ停止又ハ庫出ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ貨物ノ庫出ヲ命セラレタル者之ヲ庫出セサルトキハ稅關ハ其ノ者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得

第九條ノ四　關稅法第三條中收容ニ關スル規定竝同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第二章　官設保稅倉庫

第十條　官設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス

第十一條　預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得

第十二條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨稅關ニ屆出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無效トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス

第十三條　前條第一項ノ屆出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及屆出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス

第十四條　藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス

第十五條　藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　（削除）

第十七條　藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ稅關ハ公告シテ指定ノ期限內ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ稅關ハ之ヲ減却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限內ニ於テモ仍之ヲ減却スルコトヲ得

前項ニ依リ減却シタル貨物ニ對シテハ輸入稅ヲ徵收セス

第三章　私設保稅倉庫

第十八條　保稅倉庫ノ業ヲ營マムトスル者ハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關長ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二十條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入稅ニ付一切ノ責任ヲ有ス

第二十一條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入稅ノ擔保トシテ金錢又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條　（削除）

第二十三條　（削除）

第二十四條　私設保稅倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ稅關長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條　當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保稅倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　私設保稅倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一　庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ

二　庫主死亡シタルトキ

三　庫主破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
四　特許ノ期限滿了シタルトキ
五　稅關長ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條　私設保稅倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ稅關長ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限內ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以內ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ稅關長ハ之ヲ官設保稅倉庫又ハ他ノ私設保稅倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第二十八條　營業特許ノ消滅シタル私設保稅倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保稅倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條　第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保稅倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ稅關長ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一　業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ
二　庫主輸入稅ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ
三　庫主禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章　罰則

第三十一條　第一條ノ二ノ規定ニ違反シテ貨物ノ手入ヲ爲シ又ハ貨物ヲ使用シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出シタル者
二　認可ヲ受ケタル貨物保管規則ニ依ラスシテ貨物ノ取扱ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケサル庫數料ヲ徵シタル者
三　第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

第三十三條　私設保稅倉庫ノ庫主又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ其ノ庫主又ハ營業者ヲ處罰ス但シ庫主又ハ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第三十四條　前條ノ場合ニ於テ庫主、營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ二　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第三十二條第三號ノ罰ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ三　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス

附　則

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

附　則（昭和二年法律第四十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年八月勅令第二百六十四號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

本法施行前主務大臣カ私設保稅倉庫、藏置貨物ノ種類、貨物保管規則又ハ庫數料ニ付爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分ハ稅關長ノ爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分トシテ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前ヨリ引續キ保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ニ付テハ其ノ藏置期限ハ最初ノ庫入許可ノ日ヨリ三年トシ其ノ輸入稅ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

◎保稅倉庫法施行規則（昭和二年八月十六日大藏省令第二十三號）

第一條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ベキ內國貨物ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　輸出スベキ貨物
二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ノ爲使用スベキ貨物
三　保稅倉庫所在地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認メタル場合ニ於テ稅關長ノ許可シタル貨物

前項第三號ノ貨物ニ付テハ外國貨物ヲ藏置スル爲必要アルトキハ稅關長ハ何時ニテモ其ノ庫出ヲ命ズルコトヲ得

第二條　外國貨物ト內國貨物及庫入ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　他ノ貨物ヲ損傷スル虞アル貨物ハ他ノ貨物ト混同シテ之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第四條　發火質、燃燒質又ハ爆發質ノ貨物ハ特ニ其ノ貨物ヲ藏置スル爲設ケタル倉庫ノ外之ヲ藏置スルコトヲ得ズ

第五條　貨物ノ藏置及取扱ニ付テハ總テ稅關官吏ノ指揮ニ從フベシ

第六條　貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第一號樣式ニ依ル手入申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

官設保稅倉庫ニ於テ貨物ノ手入ヲ爲サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ手入ヲ終リタルトキ之ガ爲異動ヲ生シタル事項ニ付記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第七條　手入ヲ終リタルトキハ第二號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クベシ

第八條　保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第三號樣式、內國貨物ニ在リテハ第四號樣式ニ依ル庫入申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ庫入ノ際檢査ヲ受クベキ外國貨物ニ付テハ申告書ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ申告書ニハ貨物ノ仕入書又ハ明細書ヲ添附提出スベシ

第九條　他人ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ニ付テハ申請アリタルモノニ限リ庫入ノ際檢査ヲ爲スモノトス

自己ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫ニ藏置スル外國貨物ハ庫入ノ際檢査ヲ受クベシ

第十條　保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ庫移若ハ保稅工場ヘノ移入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第五號樣式ニ依ル庫出申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

保稅倉庫法第一條ノ二第二項ニ依リ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ使用シタル外國貨物又ハ外國貨物ヲ使用シタル內國貨物ヲ庫出セントスルトキハ其ノ使用シタル材料ノ輸入、輸出、積戾、運送、庫移、保稅工場ヘノ移入又ハ庫出申告書ヲ提出シ免許又ハ許可ヲ受クベシ

第十一條　藏置貨物ヲ庫移セントスルトキハ第六號樣式ニ依ル庫移申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ外國貨物ノ庫移ヲ爲ス爲運送ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　保稅倉庫法第九條第二項但書ノ規定ニ依リ稅關ノ承認ヲ受ケントスルトキハ滅失シタル貨物ノ品名、箇數、數量、價格、滅失ノ年月日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ貨物ノ滅失シタル地所轄ノ稅關又ハ警察官署ノ滅失證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

官設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ前項ノ申請書ニ當該貨物ノ預證券ヲ添附シ取出ヲ終リタルトキ其ノ見本ノ數量及取出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第十四條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シタルトキハ稅關長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス

預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一　貨物ノ品名、品質、記號、番號、包裝ノ種類、箇數及數量

二　貨主ノ住所及氏名又ハ商號

三　庫入年月日

四　倉庫所在地及倉庫番號

五　庫敷料

六　預證券ノ作成年月日

外國貨物ノ預證券ニハ前六號ノ外左ノ事項ヲ記載ス

七　庫入ノ際ニ於ケル檢査ノ濟否及檢査ヲ受ケタル貨物ニ在リテハ其ノ輸入稅額又ハ輸入稅率

第十五條　預證券ノ所持人ハ稅關ニ對シ預證券ノ分割ヲ請フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前ノ預證券ヲ稅關ニ返還スルコトヲ要ス

第十六條　預證券ノ裏書ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス但シ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ一部ヲ庫出セントスルトキハ當該貨物ノ預證券ヲ稅關ニ呈示シ庫出ヲ終リタルトキ庫出シタル貨物ノ箇數、數量及庫出ノ年月日ノ記載ヲ受ケタル後返還ヲ受クベシ

第十八條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタル場合ニ於テ新證券ノ交付ヲ請ハントスルトキハ再交付申請書ニ除權判決書ノ謄本ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル稅關ニ提出

スベシ

第十九條　汚損其ノ他ノ事由ニ因リ預證券ノ書換ヲ請ハントスル者ハ書換申請書ニ預證券ヲ添附シ其ノ證券ヲ發シタル稅關ニ提出スベシ

第二十條　預證券ノ分割、再交付又ハ書換ヲ請フ者ハ一通ニ付手數料三十錢ヲ納付スベシ

第二十一條　官設保稅倉庫ノ藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アル場合ニ於テ其ノ當事者ヨリ藏置期限ノ延期ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期限延期申請書ニ訴訟ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添附シテ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ但シ延期豫定期限內ニ訴訟事件終結セザルトキハ更ニ其ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ藏置シ又ハ官設保稅倉庫ニ於テ藏置貨物ノ手入ヲ爲ス者ハ官設保稅倉庫庫敷料規則ニ依リ庫敷料ヲ納付スベシ

第二十三條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、倉庫ノ構造、棟數、坪數、藏置スベキ貨物ノ種類及特許年限、改裝、仕分ケ其ノ他ノ手入ヲ爲サントスル者ニ在リテハ其ノ手入ノ種類及其ノ手入ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ニ倉庫及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄稅關長ニ出願スベシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スベシ

他人ノ貨物ヲ藏置スベキ保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ貨物保管規則及庫敷料ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第二十四條　私設保稅倉庫業ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ三十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ三十年以內トス

第二十五條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ特許ヲ受ケタル後遲滯ナク保稅倉庫法第二十一條ニ依ル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スベシ

第二十六條　前條ニ依ル擔保ノ價額ハ倉庫ノ面積三百坪迄ハ二千圓トシ三百坪ヲ超ユルトキハ二百坪迄ヲ增ス每ニ千圓ヲ加ヘタルモノトス

第二十七條　私設保稅倉庫坪數ノ增加ニ因リ擔保ノ增加ヲ必要トスルトキハ庫主ハ遲滯ナク其ノ增加額ニ相當スル擔保ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スベシ

第二十八條　私設保稅倉庫坪數ノ減少ニ因リ擔保ニ過剩ヲ生ズルトキハ庫主ハ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ擔保ノ減少ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條　私設保稅倉庫ヲ改築シ若ハ構造ヲ變更シ又ハ之ヲ增設シ若ハ減少セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ之ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ增設若ハ減少ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際稅關ニ屆出デ其ノ倉庫ノ檢査ヲ受クベシ

第三十條　保稅倉庫業ノ特許ヲ受ケタル者特許期限內ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ヅベシ

第三十一條　保稅倉庫業ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼ガントスル者ハ第二十三條ノ規定ニ準據シ稅關長ニ出願スベシ

第三十二條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物ノ種類、私設保稅倉庫ニ於テ爲シ得ベキ手入ノ種類又ハ手入ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

第三十三條　私設保稅倉庫又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ庫主ハ直ニ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

藏置貨物腐敗、損傷其ノ他ノ事由ニ因リ減却ヲ必要トスルトキハ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十四條　私設保稅倉庫ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ庫主ハ其ノ貨物ニ對スル輸入稅ヲ納付スベシ

第三十五條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保管上必要ナル設備ヲ爲スベシ

第三十六條　私線保稅倉庫ノ庫主ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ

第三十七條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第三十八條　私設保稅倉庫ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クベシ

第三十九條　私設保稅倉庫ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クベシ

第四十條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第四十一條　官設保稅倉庫內ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スベキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第四十二條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保稅倉庫ノ構內ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ

第四十三條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ藏置貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　庫入又ハ庫出シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及庫入又ハ庫出ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物ニ在リテハ其ノ品名及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、內外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

第四十四條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スベシ

第四十五條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ保稅倉庫ノ開庫ヲ必要トスルトキハ第九號樣式ニ依ル臨時開庫申請書ヲ稅關ニ提出シ特許ヲ受クベシ但シ關稅法第二十六條及關稅法施行規則第七十四條ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ開庫一時間迄每ニ手數料一圓ヲ納付スベシ

第四十七條　保稅倉庫法第十七條及第二十七條ノ公告ハ當該稅關ニ揭示スル外三日以上官報ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第四十八條　貨物庫入ノ日ヨリ起算スル期間ハ庫入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第四十九條　貨主藏置貨物ノ調査ヲ爲シ又ハ其ノ保存上必要ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ稅關ニ申出デ承認ヲ受クベシ

第五十條　保稅倉庫內ニハ火氣ヲ入ルルコトヲ得ズ燈火ヲ必要トスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケタルモノヲ用ユベシ

第五十一條　官設保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スベキモノハ貨物庫出ノ際之ヲ納付スベシ

附則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

左記書式ハ略ス

保稅倉庫藏置貨物手入申請書
同　許可書
同　濟申告書
外國貨物庫入申告書
同　許可書
內國貨物庫入申告書
同　許可書
庫出申告書
庫出許可書
庫移申告書
庫移許可書
見本取出申請書
見本取出許可書
藏置期限延期申請書
同　許可書
保稅倉庫臨時開庫申請書
同　特許書

◎保稅倉庫法第四條ニ依ル通路

（明治四十一年十一月六日大藏省令第四十二號）

保稅倉庫法第四條ニ依ル通路左ノ通相定メ明治四十一年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年大藏省令第二十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

横濱東京間　東横濱ヨリ汐留ニ至リ又ハ品川赤羽日暮里ヲ經テ南千住ニ至ル鐵道線路又ハ横濱港ヨリ隅田川口及小名木川ヲ經テ表龜高ニ至リ又ハ隅田川口ヲ經テ南千住ニ至ル直航水路

横濱川崎間　横濱港ヨリ川崎ニ至ル直航水路

横濱新潟間　東横濱ヨリ品川赤羽熊谷高崎直江津ヲ經又ハ原町田八王子甲府直江津ヲ經テ新潟ニ至ル鐵道線路

横濱青森間　東横濱ヨリ品川赤羽大宮古河宇都宮仙臺ヲ經又ハ品川田端松戸水戸仙臺ヲ經又ハ品川赤羽大宮古河宇都宮秋田ヲ經テ青森ニ至ル鐵道線路

横濱名古屋間　東横濱ヨリ名古屋ニ至ル鐵道線路

名古屋武豐間　名古屋ヨリ武豐ニ至ル鐵道線路

名古屋四日市間　納屋町ヨリ堀川ヲ經テ四日市港ニ至ル直航水路

名古屋大阪間　名古屋ヨリ米原八幡京都山崎ヲ經テ大阪ニ至リ又ハ栢植奈良ヲ經テ湊町ニ至ル鐵道線路

名古屋敦賀間　名古屋ヨリ岐阜米原ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道線路
四日市神戸間　四日市ヨリ柘植草津京都ヲ經テ神戸ニ至ル鐵道線路
大阪敦賀間　大阪ヨリ山崎京都八幡米原ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道線路
大阪下關間　大阪ヨリ下關ニ至ル鐵道線路
大阪宮津間　大阪ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路又ハ大阪港ヨリ尼ケ崎ニ至ル直航水路、尼ケ崎ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路
神戸宮津間　神戸ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路又ハ神戸港ヨリ尼ケ崎ニ至ル直航水路、尼ケ崎ヨリ神崎ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線路及舞鶴港ヨリ宮津港ニ至ル直航水路
門司長崎間　門司ヨリ長崎ニ至ル鐵道線路
門司大里間　門司港ヨリ大里ニ至ル直航水路
下關大里間　下關港ヨリ大里ニ至ル直航水路

◎官設保稅倉庫敷料規則（昭和二年八月十六日大藏省令第二十四號）

第一條　官設保稅倉庫庫敷料ハ敷料及專用料トス

第二條　官設保稅倉庫ニ貨物ヲ藏置スル者ハ別表ニ依リ敷料ヲ納付スベシ

別表ニ揭ゲザル貨物ノ敷料ハ每立方尺一月四錢トス

一立方尺未滿ハ一立方尺百斤未滿ハ百斤トシテ之ヲ計算ス

第三條　官設保稅倉庫ニ於テ藏置貨物ノ手入ヲ爲スタメ其ノ土地又ハ建物ヲ專用スル者ハ一坪迄每ニ一月二圓ノ專用料ヲ納付スベシ

第四條　官設保稅倉庫庫敷料ハ保稅倉庫ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキ之ヲ低減スルコトヲ得

第五條　一月未滿ノ敷料及專用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

敷料ハ貨物庫出ノ際之ヲ納付シ專用料ハ一月每ニ之ヲ前納スベシ

附則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年大藏省令第二十五號ハ之ヲ廢止ス

（別表略ス）

◎私設保稅倉庫營業ノ特許等ニ關シ特許手數料ヲ徵收スルノ件

（明治三十七年四月十一日勅令第百九號）

第一條　私設保稅倉庫營業若ハ假置場私設ノ特許又ハ常時使用ノ爲輸出入貨物ノ上屋若ハ陸揚船積ノ場所ヲ設クルノ特許ヲ受ケタル者ハ每月特許手數料ヲ納付スヘシ

特許手數料ノ額ハ主務大臣之ヲ定ム

第二條　特許手數料ハ每月一箇月分ヲ特許ノ日附ニ應當スル日ニ於テ納付スヘシ但シ其ノ最初ノ月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

前納セシ特許手數料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二箇月分以上ノ特許手數料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

附則

本令ハ明治三十九年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第一條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ特許ヲ受ケタル者ト看做ス

◎私設保稅倉庫營業ノ特許等ニ關スル特許手數料（昭和九年五月二十八日大藏省令第十七號）

明治三十七年勅令第百九號ニ依リ特許手數料左ノ通相定ム

明治三十七年勅令第百九號ニ依ル特許手數料ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ納付スベシ但シ赴任旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

派出ヲ要スル稅關官吏ノ人員ニ應ジ

一　事務官補、監視又ハ鑑査官補　每一人一月迄每ニ　八十圓

二　監吏　每一人一月迄每ニ　六十五圓

前項各號ノ稅關官吏大正十年大藏省令第八號交通至難ノ場所在勤者月手當給與細則別表ノ地域ニ派出スルトキノ手數料ハ前項各號ノ手數料ニ同細則ニ依リ支給スル月手當額ヲ加ヘタルモノトス

附則

本令ハ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年大藏省令第二十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎保稅工場法（昭和二年四月一日法律第四十五號）

第一條　保稅工場ハ外國貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ

製造ヲ爲シ又ハ外國貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲ス工場トス貨物ノ混合ハ之ヲ貨物ノ製造ト看做ス

第二條　保稅工場ニ於テハ稅關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スコトヲ得

第三條　保稅工場ニ於ケル作業ノ原料ニハ內國貨物ト外國貨物トヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ內國貨物ト外國貨物トヲ使用シタル貨物ハ之ヲ外國貨物トス

第四條　保稅工場ニ於ケル作業及貨物ノ種類ハ稅關長之ヲ定ム

第五條　保稅工場ノ外國貨物ノ輸入稅ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ命令ヲ以テ指定シタル外國貨物ニシテ作業ノ際其ノ原料ニ付稅關ノ檢査ヲ受ケタルモノノ輸入稅ハ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス

前項但書ノ場合ニ於テハ徵收スベキ輸入稅ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ利子ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ徵收スル金額ハ之ヲ輸入稅ト看做ス

第六條　保稅工場ノ貨物藏置期間ハ移入許可ノ日ヨリ一年トス但シ稅關長ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ更ニ一年ヲ超エザル期間內ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ期間ハ他ノ保稅工場ヨリ移入シタル貨物ニ付テハ最初ノ移入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第七條　稅關官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ保稅工場ニ出入スル者ノ身邊搜索ヲ爲スコトヲ得

第八條　私設保稅工場ヲ設置セントスル者ハ稅關長ノ特許ヲ受クベシ

第九條　私設保稅工場ノ使用規則及使用料ハ稅關長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムベシ

第十條　保稅倉庫法第五條ノ二、第九條ノ二、第九條ノ三、第十九條、第二十條及第二十五條乃至第三十條ノ規定ハ保稅工場ニ之ヲ準用ス

第十一條　關稅法第三條中收容ニ關スル規定竝同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第十二條　第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ作業ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケズシテ保稅工場ニ貨物ヲ移入シ又ハ保稅工場ヨリ貨物ヲ移出シタル者

二　第七條ノ搜索又ハ第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　認可ヲ受ケタル使用規則ニ依ラズシテ保稅工場ヲ使用セシメ又ハ認可ヲ受ケザル使用料ヲ徵シタル者

第十四條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ガ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキトキハ其ノ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者ヲ處罰ス但シ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者ガ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及稅關貨物取扱人ガ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テ特許ヲ受ケタル者、營業者又ハ稅關貨物取扱人ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ第十三條第二號ノ罰ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年八月勅令第二百六十四號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

假置場法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ特許セラレタル私設假置場ハ之ヲ本法ニ依リテ特許セラレタル私設保稅工場ト看做シ舊法ニ依リテ認可セラレタル貨物藏置規則及庫敷料ハ之ヲ本法ニ依リテ認可セラレタル使用規則及使用料ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル處分及手續ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リテ假置場ニ藏置シタル貨物ニシテ引續キ保稅工場ニ在ル貨物ノ藏置期間ハ最初ノ移入免許ノ日ヨリ一年ト

ス但シ之ヨリ長キ期間ヲ認メラレタル貨物ニ付テハ其ノ期間ニ依ル

前項ノ貨物ノ輸入稅ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス他ノ法令中稅關假置場又ハ假置場トアルハ保稅工場トス

◎保稅工場法施行規則（昭和二年八月十六日大藏省令第二十五號）

第一條　保稅工場ニ貨物ヲ移入セントスルトキハ外國貨物ニ在リテハ第一號樣式、內國貨物ニ在リテハ第二號樣式ニ依ル移入申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第二條　外國貨物ト內國貨物及作業ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル貨物ト檢査ヲ受ケザル貨物トハ區別シテ之ヲ藏置スルコトヲ要ス但シ稅關官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲サントスルトキハ第三號樣式ニ依ル作業申告書ヲ稅關ニ提出シ承認ヲ受クベシ

保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ノ適用ヲ受クベキ貨物ノ原料ニ付テハ作業ノ際稅關ノ檢査ヲ受クベシ

第四條　作業ヲ終リタルトキハ加工又ハ製造ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四號樣式ニ依ル加工製造濟申告書ヲ、手入ヲ爲シタル場合ニ於テハ第五號樣式ニ依ル手入濟申告書ヲ遲滯ナク稅關ニ提出シ其ノ貨物ニ付檢査ヲ受クベシ

第五條　內國貨物ノミヲ以テ作業ヲ爲ス場合ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前二條ノ手續ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　內國貨物ノミヲ以テスル作業ハ外國貨物ノミヲ以テスル作業又ハ外國貨物ト內國貨物ヲ以テスル作業ト區別シテ之ヲ爲スベシ

第七條　保稅工場ヨリ貨物ヲ移出セントスルトキハ輸入、輸出、積戾若ハ運送ノ免許ヲ受ケ又ハ他ノ保稅工場ヘノ移入若ハ保稅倉庫ニ庫入ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外第六號樣式ニ依ル移出申告書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第八條　保稅工場法第五條第一項但書ノ適用ヲ受クベキ貨物ノ輸入申告書ニハ其ノ貨物ニ使用シタル原料ノ品名、箇數、數量、價格、作業承認年月日及其ノ承認番號ヲ附記スベシ

第九條　保稅工場法第五條第二項ノ規定ニ依リ徵收スベキ利子ニ相當スル金額ハ原料ニ付檢査ヲ受ケタル日ヨリ起算シ輸入申告ノ日ニ至ル迄輸入稅額ニ對スル年六分ノ割合ヲ以テ計算シタル金額トシ輸入稅ニ加算シテ之ヲ徵收ス

第十條　藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスルトキハ第七號樣式ニ依ル見本取出申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第十一條　保稅工場法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請セントスルトキハ第八號樣式ニ依ル藏置期間延長申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クベシ

第十二條　官設保稅工場ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納付スベシ

一　重量ニ依リ輸入稅ヲ賦課セラルベキ貨物　五十斤迄每ニ一月二錢

二　前號以外ノ貨物　一立方尺迄每ニ一月二錢

三　土地又ハ建物ヲ專用スルトキ　一坪迄每ニ一月二圓

前項第一號及第二號ノ使用料ハ徵收上便宜ト認ムルトキハ第二號ノ定率ヲ第一號ノ貨物ニ、第一號ノ定率ヲ第二號ノ貨物ニ適用スルコトヲ得

第一項第三號ノ使用料ハ保稅工場ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

第十三條　一月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

第十四條　第十二條第一項第一號及第二號ノ使用料ハ貨物移出ノ際之ヲ納付シ同項第三號ノ使用料ハ一月每ニ之ヲ前納スベシ

第十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ地區ノ位置、面積、建設物ノ構造、棟數、坪數、作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類竝特許年限ヲ記シタル書面ニ地區、工場及其ノ附近ノ圖面ヲ添附シ所轄稅關長ニ出願スベシ但シ出願人會社ナルトキハ其ノ會社ノ登記謄本及定款ノ謄本ヲ添附スベシ

他人ヲシテ使用セシムベキ私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケントスル者ニ在リテハ特許ノ出願ト同時ニ使用規則及使用料ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第十六條　保稅工場ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲サントスル者ハ其ノ作業ノ種類及其ノ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ記シタル書面ヲ以テ稅關長ニ出願スベシ

第十七條　私設保稅工場ノ特許期限ハ特許ノ日ヨリ二十年以內トス

特許期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期限ハ更新ノ日ヨリ二十年以内トス

第十八條　私設保稅工場ノ地區ノ面積若ハ建設物ヲ增減シ又ハ建設物ヲ改築シ若ハ其ノ構造ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ承認ヲ受クベシ建設物ヲ修繕シ又ハ其ノ造作ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ建設物ノ改築若ハ構造ノ變更又ハ其ノ增減ノ承認ヲ受ケタル者ハ工事落成ノ際稅關ニ屆出デ其ノ建設物ノ檢査ヲ受クベシ

第十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者特許期限内ニ廢業セントスルトキハ其ノ旨ヲ豫メ稅關長ニ屆出ヅベシ

第二十條　私設保稅工場設置ノ特許消滅シタル場合ニ於テ其ノ業務ヲ引繼ガントスル者ハ第十五條ノ規定ニ準據シ稅關長ニ出願スベシ

第二十一條　私設保稅工場ノ作業ノ種類又ハ作業ニ使用スベキ貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ稅關長ノ許可ヲ受クベシ

第二十二條　私設保稅工場又ハ其ノ藏置貨物ニ異狀アルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ稅關ニ屆出デ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

第二十三條　私設保稅工場ノ藏置貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ貨物ニ對スル輸入稅ヲ納付スベシ

第二十四條　私設工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ防火設備其ノ他藏置貨物ノ保全上必要ナル設備ヲ爲スベシ

第二十五條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關長ノ指揮ニ從ヒ貨物ノ檢査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ

第二十六條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ノ檢査ニ關シ一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第二十七條　私設保稅工場ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其ノ鑰一箇ハ之ヲ稅關ニ預クベシ

第二十八條　私設保稅工場ヲ開閉シ又ハ貨物ノ出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クベシ

第二十九條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ヲ稅關ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第三十條　官設保稅工場内ニ於テ貨物ノ取扱ニ從事スベキ人夫ハ貨主ヨリ豫メ稅關ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十一條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ保稅工場ノ構内ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ

第三十二條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　保稅工場ニ移入シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格及移入ノ年月日

二　改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シタル貨物及之ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、手入ノ種類及檢査濟ノ年月日

三　加工又ハ製造ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

四　加工又ハ製造シタル貨物竝副產物ノ品名、數量及檢査濟ノ年月日

五　保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ課稅セラレタル貨物ニ在リテハ其ノ品名、箇數、數量、價格及其ノ原料ニ使用シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量及價格

六　保稅工場ヨリ移出シタル貨物ノ記號、番號、品名、内外國貨物ノ區別、箇數、數量、價格、移出ノ目的及移出ノ年月日

第三十三條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ハ稅關ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲スベシ

第三十四條　保稅工場法第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十七條ノ公告ハ當該稅關ニ掲示スル外三日以上官報ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十五條　官設保稅工場ニ藏置シタル貨物ニ係ル運搬費其ノ他貨物取扱ノ費用ニシテ稅關ニ辨償スベキモノハ貨物移出ノ際之ヲ納付スベシ

第三十六條　稅關官吏ハ貨物ノ加工又ハ製造ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩ヲルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年大藏省令第十八號ハ之ヲ廢止ス

（書式略ス）

◎保稅工場法第五條但書ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルヘキ外國貨物

（昭和二年十二月十日大藏省令第三十九號）

保稅工場法第五條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査ノ時ノ原料

ノ性質及數量ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルベキ外國貨物ハ左ノ各號ニ揭グルモノトス

一　亞鉛鍍鐵板

二　鐵ノ釘又ハ線

三　銅又ハ眞鍮ノ釘又ハ線

四　琺瑯鐵器

五　葉鐵製罐（罐詰用ノモノ）

前項ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ徵收セラルベキ外國貨物ヲ輸入スル場合ニ於テハ其ノ輸入スベキ貨物ノ製造ニ因リ生ジタル副產物ノ輸入ニ付テモ前項ノ例ニ依リ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎噸稅法（明治三十二年三月二十四日法律第八十八號）

第一條　外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ其ノ入港每ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付七錢ノ噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付二十一錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス

帝國ト測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算ス

第二條　噸稅ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關ニ納付スヘシ

第三條　海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル船舶ニハ噸稅ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

第四條　稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲スコトヲ得

第五條　噸稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ヲ其ノ逋脫ヲ圖リ若ハ納付セサリシ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第六條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス但シ通告履行ノ期間ハ通告ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以內トス

第七條　噸稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用セス

附　則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年六月勅令第三百十八號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

附　則（昭和四年法律第三十一號）

本法ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前噸稅法第一條第一項但書ノ規定ニ依リ一時ニ納付シタル噸稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◎噸稅法施行規則（明治三十二年六月三十日勅令第三百二十號）

第一條　噸稅法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨稅關又ハ稅關支署ニ申告スヘシ

第二條　稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルトキハ其ノ稅金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シテ納稅人ニ告知スヘシ

第三條　海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スヘシ但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　噸稅納付濟ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手數料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條　犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ噸稅法施行ノ日ヨリ施行ス

第二款　內國稅

◎砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件（明治四十四年三月二十九日法律第四十五號）

第一條　砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ於テ稅關、保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條　關稅法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條　砂糖消費稅法、織物消費稅法、石油消費稅法又ハ骨牌稅法ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外砂糖、糖密、糖水、織物、石油又ハ骨牌ニ付關稅ヲ徵收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅納付義務者ヨリ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ骨牌稅法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年六月

勅令第百八十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

◎砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件（明治四十四年六月十六日勅令第百八十六號）

第一條　砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則又ハ石油消費稅法施行規則ニ於テ稅關又ハ保稅倉庫トアルハ關稅法ニ於テ稱スル保稅地域ヲ謂フ

第二條　明治四十四年法律第四十五號第三條ノ規定ニ依リ徵收スル稅金ハ關稅ヲ徵收スルトキ稅關之ヲ徵收ス骨牌稅金ノ徵收ニ付テハ骨牌稅法第五條ノ規定ヲ適用セス

第三條　關稅法ニ依リ砂糖、糖密、糖水、織物、石油又ハ骨牌ヲ運送セムトスルトキハ砂糖、糖密、糖水ノ種別及數量、織物ノ價格又ハ石油、骨牌ノ數量ヲ記載シタル書面ヲ稅關ニ提出スヘシ但シ關稅法ニ依リ提出スヘキ運送申告書ニ依リ明瞭ナル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第五條　（削除）

第六條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ貨物運送先ニ到達シタルトキ、稅金納付濟ニ至リタルトキ又ハ稅金納付ノ義務ナキニ至リタルトキハ稅關ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公費ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正九年勅令第五百九十號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價額減少シタルトキハ稅關ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

◎稅關ニ於ケル內國稅賦課徵收ニ關スル件（明治三十八年三月十八日勅令第五十六號）

外國ヨリ來航セル旅客ノ携帶品中內國稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關官吏ハ關稅法施行細則第三條及第五條ニ準シ直ニ稅金ヲ徵收スルコトヲ得

◎郵便ニヨリ外國ヨリ輸入シタル物品ノ內國稅ニ關スル件（明治三十七年五月三十一日勅令第百六十五號）

第一條　郵便ニ依リ外國ヨリ輸入シタル物品ニシテ內國稅ヲ課スヘキモノアルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ニ通知スヘシ

第二條　郵便局ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ其ノ名宛人ニ通知スヘシ

第三條　前條ノ通知ヲ受ケタル者其ノ郵便物ヲ受取ラムトスルトキハ通知セラレタル金額ニ相當スル收入印紙ヲ該輸入物品又ハ前條ニ依ル通知書ニ貼用シ郵便局所ノ消印ヲ受クヘシ但シ內國稅中特別ノ印紙ヲ貼用スヘキコトヲ定メタルモノニ付テハ特別ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第四條　受取人前條ノ手續ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ不能配達ノモノトシテ取扱フヘシ

第五條　郵便局所ニ於テ前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ之ヲ稅關ニ通知スヘシ

◎酒造稅法（明治二十九年三月二十八日法律第二十八號）（抄）

○大正十五年法律第十四號附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

◎酒造稅法施行規則（明治二十九年八月十八日勅令第二百八十七號）（抄）

第四十三條ノ五　沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ

他ノ地方ヘ移出スルハ那覇港、漳水港又ハ石垣港ニ由ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太酒類出港稅法施行規則第二條乃至第四條ヲ準用ス但シ同規定中樺太廳支廳トアルハ稅務署トシ樺太廳長官トアルハ大藏大臣トス

◎朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル件（大正九年八月七日法律第五十二號）

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ノ規定ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ侍ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

◎大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件（大正九年八月二十六日勅令第三百十二號）

大正九年法律第五十二號第五條ノ規定ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ收稅官吏及稅關官吏トシ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ稅關官吏ノ發見ニ係ル犯則事件ニ付テハ犯則事件發見地ヲ管轄スル稅關長トシ其ノ他ノ事件ニ付テハ內地ニ在リテハ稅務署長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長トス

大正九年法律第五十二號ニ依ル犯則事件ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

◎酒精、酒類其他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戾金ニ關スル件（明治三十四年三月三十日法律第十號）

第一條　命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅若ハ出港稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅若ハ出港稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ政府ニ提出スルコトヲ要ス

一　納稅濟證明書

二　輸出免狀

三　外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

第三條　納稅濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ前條納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得

附　則

第四條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條　明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令ヲ適用ス

◎輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法（明治四十二年三月三十日法律第十八號）

第一條　消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ用ヰ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國ヘ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用シタル砂糖ニ對シ消費稅ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ對シ

テハ明治四十三年法律第五十四號關稅定率法第七條第十七號ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年三月勅令第六十三號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

◎輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法施行規則（明治四十二年三月勅令第六十四號）（抄）

第三條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ菓子又ハ糖果ヲ左ノ開港ヨリ輸出スヘシ

横濱、清水、神戸、大阪、名古屋、長崎、鹿兒島、門司、萩、函館

◎織物消費稅法（明治四十三年三月二十五日法律第七號）（抄）

第三條　左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二　製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

附　則（大正十五年法律第二十二號）（抄）

消費稅ヲ納付シタル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費法第三條第二項ノ規定ヲ適用セス

附　則（昭和六年法律第四十九號）（抄）

本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタル場合ニ於テ第三條第二項ノ規定ニ依リ交付スル金額ハ消費稅額ノ十分ノ九ニ相當スル金額トス但シ第一條但書ノ改正規定ニ依リ消費稅ヲ課セサルコトト爲リタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ第三條第二項ノ規定ヲ適用セス

第三款　雜則

◎臨時開廳、貨物積卸其他特許手數料（明治三十五年七月十一日大藏省令第十七號）

明治三十二年大藏省令第三十四號左ノ通改正シ明治三十五

年八月一日ヨリ施行ス

稅關及稅關支署臨時開廳特許手數料

一　日出ヨリ日沒マテ　一時間マテ毎ニ　拾五圓
一　日沒ヨリ午後十二時マテ　同　參拾圓
一　午後十二時ヨリ日出マテ　同　四拾五圓

稅關支署ニ在テハ其地ノ狀況ニ依リ半額迄ニ低減スルコトヲ得但シ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手數料ハ前記特許手數料ノ三分ノ一トス

貨物積卸搬入搬出及取扱特許手數料

一　日出ヨリ日沒マテ　一時間マテ毎ニ　參圓
一　日沒ヨリ午後十二時マテ　同　六圓
一　午後十二時ヨリ日出マテ　同　九圓

但シ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手數料ハ前記特許手數料ノ三分ノ一トス

稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル檢査特許手數料

普通貨物檢査ノ爲稅關官吏ヲ派出スルトキ

一　檢査ニ要スル時間　一時間マテ毎ニ　五圓

（航空機ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ付テハ貳圓）

但旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

船內ニ於テ旅客携帶品檢査ノ爲稅關官吏ヲ乘船セシムルトキ

一　乘船官吏一人毎ニ　一箇月マテ毎ニ　百四拾圓

外國貿易船不開港出入特許手數料

一　純噸數千噸未滿ノ船舶　入港一回毎ニ四拾五圓
一　純噸數二千噸未滿ノ船舶　同　七拾圓
一　純噸數二千噸以上ノ船舶　同　百圓

外國貿易航空機ノ稅關飛行場ニ非サル場所ニ著陸スル場合ノ特許手數料

一　著陸一回毎ニ　拾圓

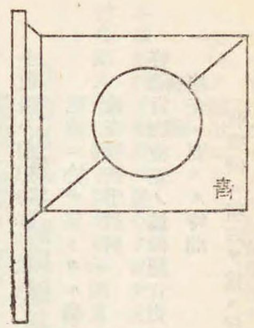
關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手數料

一　證明　毎一件　貳圓
一　輸出入貨物目計表　毎一件一箇月マテ毎ニ　拾圓
一　其ノ他船舶貨物ニ關スル計表　毎一件一枚マテ毎ニ　五拾錢

但十三行三段詰ヲ以テ一枚ト計算ス

◎稅關所屬船旗章（明治二十五年八月二日大藏省告示第三十七號）

稅關所屬船旗章左ノ通之ヲ定ム



地色　白、青　對角線ヲ以テ等分トス
日章　紅
日章全徑　縱ノ三分二
横　縱ノ一ト二分一

◎稅關貨物取扱人法（明治三十四年四月十三日法律第二十八號）

第一條　本法ニ於テ稅關貨物取扱人ト稱スルハ貨主ノ爲ニ自已又ハ其ノ貨主ノ名ヲ以テ稅關ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　稅關貨物取扱人タラムト欲スル者ハ其ノ業務ニ從事セムトスル地ヲ管轄スル稅關長ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受クルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ免許料ヲ納ムヘシ

第三條　左ニ揭クル者ハ稅關貨物取扱人タルコトヲ得ス

第一　剝奪公權者及停止公權者

第二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ

復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

第三　國稅滯納處分ヲ受ケ滿一箇年ヲ經過セサル者

第四　重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及關稅法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ違反シ處罰ヲ受ケ滿三箇年ヲ經過セサル者

第四條　稅關貨物取扱人ハ其ノ業務ニ關シテ所轄稅關長ノ監督ヲ受ク

第五條　稅關貨物取扱人ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證トシテ金錢又ハ有價證券ヲ提供スルコトヲ要ス但シ身元保證金額ハ五千圓以上トス

稅關貨物取扱人ハ前項ノ身元保證物ヲ提供シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第六條　稅關貨物取扱人稅關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルトキハ稅關ハ身元保證物ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

稅關貨物取扱人ノ業務上ノ過失ニ因リ損害ヲ受ケタル貨主ハ其ノ債權ニ付他ノ債權者ニ先チ身元保證物ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第七條　稅關貨物取扱人ハ貨物ノ受取、引渡、保管及運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ貨物ノ取扱料ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條　稅關貨物取扱人ハ取扱貨物ニ關シ受取ルヘキ取扱料、稅金其ノ他委託者ノ爲ニ爲シタル立替ニ付テノミ其ノ貨物ヲ留置スルコトヲ得

第九條　稅關貨物取扱人ハ取扱料ノ最高額ヲ定メ所轄稅關長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十條　稅關貨物取扱人其ノ業務ニ關スル法令ニ違反シ又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ其ノ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得但シ營業停止ノ期間ハ三箇月以內トス

第十一條　前條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ處分ニ因リテ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十二條　免許ヲ受ケスシテ稅關貨物取扱人ノ業務ヲ行ヒタル者又ハ第五條第二項ニ違反シタル者又ハ第九條ノ認可ヲ受ケス若ハ認可ニ違反シテ取扱料ヲ取得シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタル行爲ハ稅關貨物取扱人ノ行爲ト看做ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎稅關貨物取扱人法施行細則（明治三十四年五月二十七日大藏省令第八號）

第一條　稅關貨物取扱人ノ業務ニ從事セムトスル者ハ營業所ヲ定メ管轄區域每ニ所轄稅關長ニ出願スヘシ但會社又ハ外國會社ノ支店ニ在テハ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

第二條　稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘシ

第三條　免許料ハ貳拾圓トス收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四條　稅關貨物取扱人ハ免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以內ニ身元保證トシテ五千圓又ハ之ニ相當スル國債ヲ提供スヘシ

第五條　稅關貨物取扱人法第六條ノ適用ニヨリ身元保證金額減少シタルトキハ稅關長ハ本人ニ告知シ一箇月以內ニ其ノ不足額ニ相當スル金錢又ハ國債ヲ提供セシムヘシ

第六條　稅關貨物取扱人カ身元保證ヲ提供スルトキハ金錢又ハ無記名國債證券ノ提供ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ登錄國債ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領書ヲ提出スヘシ

第七條　稅關貨物取扱人支店又ハ代理店ヲ設クルトキハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ稅關又ハ稅關支署ニ屆出ツヘシ營業所又ハ代理店ヲ閉鎖シ若ハ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條　稅關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ屆出ツヘシ其ノ變更アルトキ亦同シ

附　則

本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年大藏省令第五十號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス尙其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ稅關長ハ第五條ノ規定ニ準シ增擔保ヲ提供セシムヘシ

◎省線ト朝鮮及滿洲間發著荷物通關取扱規程（大正八年十月二十七日鐵道院告示第九十七號）

第一條　省線ト朝鮮トノ間ニ發著スル小荷物及貨物ニシテ朝鮮移出入手續ヲ要スルモノノ移出入手續竝省線ト滿洲トノ間ニ發著スル小荷物及貨物ノ輸出入手續ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外運輸機關ニ於テ之ヲ代辨ス

一　稅關驛ヨリ發送スヘキ貨物（釜山營業所發宅扱貨物ヲ除ク）ニ對スル輸移出手續

二　稅關驛ニテ到着スヘキ貨物（釜山營業所著宅扱貨物ヲ除ク）ニ對スル輸移入手續

三　安東驛又ハ圖們驛ヨリ發送スル小荷物及圖們驛ニ到著スル小荷物ニ對スル滿洲輸出入手續及日本輸出入手續

三ノ二　安東驛又ハ圖們驛ニ到著スル貨物ニシテ朝鮮移入手續ヲ要セサル物品ニ該當スルモノニ對スル日本輸出手續

（註）一　朝鮮移入手續ヲ要セサルモノト要スルモノトノ物品ノ範圍ニ付テハ細則第四條ノ二參照ノコト

四　荷送人ニ於テ荷物託送ノ際反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニ於ケル輸移出入手續

五　運輸機關ニ於テ特ニ代辨ヲ爲ササル旨公告シタルモノノ輸移出入手續

陸路運送手續ハ運送機關ニ於テ之ヲ處理ス但シ荷送人カ荷物託送ノ際反對ノ意思ヲ表示シタル場合及運輸機關ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　本規程ニハ左ノ略語ヲ用フ

一　省線トハ鐵道省線ヲ謂フ

二　朝鮮鐵道局線トハ朝鮮總督府鐵道局線ヲ謂フ

三　滿鐵線トハ南滿洲鐵道株式會社連京線、旅順線、營口線、撫順線及安奉線、甘井子線及入船線ヲ謂フ

四　滿鐵北鮮線トハ南滿洲鐵道株式會社北鮮鐵道管理局線ヲ謂フ

五　鐵路總局線トハ前二號以外ノ南滿洲鐵道株式會社經營ノ鐵道ヲ謂フ

六　大阪商船トハ大阪商船株式會社ヲ謂フ

七　日本海汽船トハ日本海汽船株式會社ヲ謂フ

八　北日本汽船トハ北日本汽船株式會社ヲ謂フ

九　川崎汽船トハ川崎汽船株式會社ヲ謂フ

一〇　近海郵船トハ近海郵船株式會社ヲ謂フ

一一　日本郵船トハ日本郵船株式會社ヲ謂フ

一二　原田汽船トハ原田汽船株式會社ヲ謂フ

一三　驛トハ驛、營業所又ハ取扱所ヲ謂フ

一四　稅關驛トハ稅關所在驛ヲ謂フ

第二條　運輸機關ニ於テ輸移出入手續ノ代辨ヲ爲ササル場合ニ於ケル取扱方ハ左ノ各號ニ依ル

一　左ノ貨物ニ對スル輸移出手續ハ荷送人ニ於テ豫メ之ヲ爲シ輸移出免狀ヲ運送狀ト共ニ當該貨物發送驛所ニ提出スヘキモノトス

イ　省線稅關驛（釜山ヲ除ク）發滿洲著

ロ　左ノ驛發省線著

釜山營業所

朝鮮鐵道局線稅關驛

滿鐵北鮮線稅關驛

滿鐵線稅關驛

鐵路總局線稅關驛

大阪商船大連

日本海汽船清津港、羅津港、雄基港

北日本汽船清津港、羅津港、雄基港

川崎汽船麗水港

二　左ノ貨物ニ對スル輸移入手續ハ當該貨物到著驛ニ於テ荷受人之ヲ爲スヘキモノトス但シロ號貨物中安東又ハ圖們驛發省線稅關驛著貨物ニ對シテハ當該發驛ニ於テ日本輸入手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ハ荷送人ニ於テ豫メ之ヲ爲シ輸入免狀ト共ニ運送狀ヲ其ノ發驛ニ提出スヘキモノトス

イ　省線發左ノ驛著

朝鮮鐵道局線稅關驛

滿鐵北鮮線稅關驛

滿鐵線稅關驛

釜山營業所

大阪商船大連

日本海汽船清津港、羅津港、雄基港

北日本汽船清津港、羅津港、雄基港

川崎汽船麗水港

ロ　滿洲發省線稅關驛著

三　前二號ノ規定ハ左ノ驛發著小荷物及貨物ノ日本及滿洲輸出入手續ニ關シ之ヲ準用ス

安東驛發省線著小荷物

圖們驛ト省線間發著小荷物

省線發安東驛著貨物（朝鮮移入手續ヲ要セザル物品ニ該當スルモノ）

第三條　（削除）

第四條　本規程ニ於テ稅關驛ト稱スルハ左ノ驛所ヲ云フ

一　省線

東京、汐留、横濱、東横濱、横濱港、名古屋、京都、梅小路、大阪、梅田、神戸、湊川、神戸港、敦賀港、下關、長崎

二　朝鮮

鐵道省　釜山營業所

朝鮮鐵道局線　大邱、京城、平壤、新義州、新義州江岸、馬山、郡山、木浦、仁川、鎭南浦、元山、城津

滿鐵北鮮線

清津、會寧、上三峰、南陽、訓戒、雄基、羅津

川崎汽船　麗水港取扱所

日本海汽船及北日本汽船　清津港、羅津港、雄基港取扱所

三　滿洲

滿鐵線　安東、大連

鐵路總局線　圖們

大阪商船　大連取扱所

第五條　省線稅關驛ト滿洲トノ間ニ發著スル小荷物及左ノ各驛ト滿洲トノ間ニ發著スル小荷物及貨物ハ荷送人ヨリ請求アリタルトキハ當該發著驛所ト輸出入驛所間外國貨物トシテ陸路運送ノ取扱ヲ爲ス此ノ場合ニ於ケル輸出入手續ニ關シテハ第二條ヲ準用ス

海神奈川、清水港、龜崎、半田、武豊、名古屋港、敦賀、七尾、七尾港、伏木、新潟、今治、四日市、湊町、浪速、大阪港、安治川口、櫻島、濱田、玉江、東萩、萩、海舞鶴、宮津、境港、小野濱、和田岬、宇野、尾道、糸崎、德山、若松、門司、大里、博多、大牟田、鹿兒島、外濱、門司港、西唐津、青森、船川、函館、御崎、室蘭、小樽、手宮、釧路、濱釧路、根室

前項ノ規定ハ別ニ定メタル內地假置場其ノ他ノ保稅地域所在驛ニ發著スル小荷物及貨物ニ對シ之ヲ準用ス

第六條　荷送人ハ運輸機關ニ於テ通關手續ノ代辨ヲ爲スヘキ小荷物又ハ貨物ヲ託送セントスル場合ニ於テハ仕入書及運輸機關所定ノ荷物明細書ヲ提出スヘシ

運輸機關ニ於テ通關手續ノ代辨ヲ爲ササルモノ及朝鮮移出入手續ヲ要セサルモノニ對シテハ荷送人ニ於テ荷物託送ノ際前項ノ荷物明細書ヲ提出スヘシ但シ省線發朝鮮著貨物（朝鮮移入植物檢査ヲ要スル植物ニシテ運輸機關ニ於テ檢査手續ノ代辨ヲ爲スモノヲ除ク）ニ在リテハ荷物明細書ノ提出ニ代フルニ當該貨物ノ價格ヲ運輸機關ニ通告スヘシ

前二項ニ依ル荷物明細書ノ式紙ハ關係驛所ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供ス荷送人ハ該式紙ニ必要事項ヲ記入シ署名スルコトヲ要ス

內容單純ナル小荷物ニ對シテハ仕入書ノ添付ナキ場合ト雖モ關係運輸機關ニ於テ其ノ受託ヲ爲スコトアルヘシ但シ仕入書ノ添付ナキ爲生スル不利益ニ付テハ運輸機關其ノ責ニ任セス

第七條　運輸機關ニ於テ通關手續ノ代辨ヲ爲スヘキ荷物ニ對シ關稅定率法第七條又ハ從前ノ朝鮮關稅定率令第三條ニ依リ輸移入稅ノ免除ヲ得ントスル者ハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告シ且ツ輸移出入免狀又ハ證明書ヲ提出スヘシ

關稅定率法第八條又ハ從前ノ朝鮮關稅定率令第四條若ハ同四條ノ二ニ依リ再輸移出ヲ爲スヘキ荷物ヲ輸移入シ輸移入稅ノ免除ヲ得ントスル者ハ荷物託送ノ際輸移入ノ目

的及他日再輸移出手續ヲ爲スヘキ稅關ヲ運輸機關ニ通告スヘシ

關稅法施行規則第三十四條第二項ニ依リ外國產貨物ヲ輸出セントスル場合及五年以內ニ再移入ヲ爲シ移入稅ノ免除ヲ得ントスル朝鮮產ニ非サル貨物ヲ朝鮮ヨリ移出セントスル場合竝加工又ハ修繕ノ爲移出シ一年以內ニ再移入ヲナシ移入稅ノ免除ヲ得ントスル貨物ヲ朝鮮ヨリ移出セントスル場合ニ於テハ輸移出ノ目的及他日再輸移入手續ヲ爲スヘキ稅關ヲ關係運輸機關ニ通告スヘシ

關稅定率法第九條第一項及第二項ノ規定ニ依リ輸入原料品ヲ輸入シ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ荷物託送ノ際使用ノ目的、製造者ノ氏名、製造場、藏置場及他日輸出手續ヲ爲スヘキ稅關ヲ運輸機關ニ通告スヘシ

關稅定率法第八條又ハ從前ノ朝鮮關稅定率令第四條若ハ同第四條ノ二ニ依ル荷物ヲ再輸移出シ若ハ關稅定率法第九條第一項ニ依ル製造品ヲ輸出シ輸移入ノ際提供シタル擔保ノ解除ヲ得ントスル者ハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告シ輸移入免狀及供託受領書預リ證又ハ供託受領書預リ證ヲ兼ネタル輸移入免狀其ノ他ノ必要書類ヲ提出スヘシ

輸移出入ニ關シ關係官署ノ許可ヲ要スル荷物等ニ對シテハ當該官署ノ許可書其ノ他ノ必要書類ヲ提出スヘシ

荷送人ニ於テ輸移出入免狀、陸揚證明書其ノ他ノ廻付ヲ受ケントスル場合又ハ荷受人ニ送付ヲ請求セントスル場合ニ於テハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告スヘシ

酒、清涼飲料又ハ砂糖類ヲ朝鮮ニ移入シ酒稅、清涼飲料稅又ハ砂糖消費稅ノ徵收猶豫ヲ得ントスル者及朝鮮出港稅令第五條ニ依リ出港稅ノ徵收猶豫ヲ得ントスル者ハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告スヘシ

大正九年朝鮮總督府制令第十九號第一條第二項ニ依リ課稅上ノ便益ヲ受ケムトスル者ハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告シ且同制令施行規則第一條ニ規定スル書類ヲ提出スヘシ

第一項及第四項ノ規定ハ朝鮮出港稅令第四條ニ依リ一年以內ニ移入ヲ爲サントスル荷物ヲ移出シ出港稅ノ免除ヲ得ントスル者及同荷物ヲ再移入シ移出ノ際提供シタル擔保ノ解除ヲ得ントスル者ニ對シ之ヲ準用ス

第八條　運輸機關ニ於テ通關ノ代辨ヲ爲ス場合ニ於テ稅關ノ檢査ヲ受クル爲必要アルトキハ荷物ノ包裝ヲ解キ又ハ荷物ノ一部ヲ見本トシテ稅關ニ納付スルコトアルヘシ

第九條　運輸機關ニ於テ輸移出入手續ノ代辨ヲ爲ストキハ關稅、其ノ他ノ稅金、手數料等ハ之ヲ立替支辨シ到著地ニ於テ荷物ト引換ニ荷受人ヨリ之ヲ收受ス但シ朝鮮鐵道局線、滿鐵北鮮線、稅關驛著小荷物ニ對スル朝鮮移入稅其ノ他ハ荷受人ヨリ收受シタル上稅關ニ納入ス

滿洲國輸出關稅ハ荷送人ヨリ運輸機關ニ要求アルトキハ荷送人ヲシテ直接之ヲ稅關ニ支拂ハシムルコトアルヘシ

第十條　運輸機關ニ於テ荷物輸移入手續ノ代辨ヲ爲ス場合ニ於テ擔保提供ノ必要アルトキハ荷受人ニ擔保額ヲ通知シ荷受人ヨリ供託受領書ノ廻付ヲ受クルモノトス

運輸機關ニ於テ朝鮮移出手續ノ代辨ヲ爲ス場合ニ於テ擔保提供ノ必要アルトキハ荷送人ニ擔保額ヲ通知シ荷送人ヨリ供託受領書ノ廻付ヲ受クルモノトス

第十一條　運輸機關ニ於テ施行スル通關ノ代辨ニ對シテハ料金ヲ收受セス但シ通關檢査ノ際解荷修繕等ノ爲特ニ要シタル費用ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　荷受人カ第九條及第十一條ノ關稅其ノ他ノ支拂ヲ爲ササルトキハ荷送人ヨリ之ヲ收受スルモノトス

輸移出入免狀ノ交付ヲ受クルコト能ハス又ハ其ノ他ノ事情ニ依リ該荷物ヲ發送驛所ニ返送シタル場合ニ於テハ關稅其ノ他ノ費用ハ荷物ト引換ニ荷送人ヨリ之ヲ收受ス

第十三條　荷受人カ關稅其ノ他ノ支拂ヲ爲ササル場合又ハ輸移出入免狀ノ交付ヲ受クルコト能ハサル場合等ニシテ該荷物ノ品質其ノ他止ムヲ得サル理由ノ爲發送驛所ニ返還スルコト能ハサルトキハ運輸機關ハ臨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ關稅其ノ他該荷物ニ要シタル費用ヲ計算シ過剩アレハ之ヲ荷送人ニ返戻シ不足額ハ荷送人ヨリ之ヲ收受ス

前項ノ規定ハ荷送人カ前條ノ支拂ニ應セサル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　荷送人又ハ荷送人指定ノ通關擔當者カ輸移出入港驛所安東驛圖們驛又ハ上三峰驛ニ於テ運送中ノ荷物ニ對シ通關手續ヲ爲ス場合ニ於テハ運輸機關ヨリ荷物到著ノ通告ヲ受ケタル後ノ稅關開廳時間七時間以內ニ運輸機關保管ノ下ニ通關手續ヲ了スヘキモノトス

荷送人又ハ荷送人指定ノ通關擔當者カ前項ノ時間內ニ通關手續ヲ了セサルトキハ其ノ時間經過後ニ對シ荷物保管料ヲ收受ス但シ稅關ノ都合ニ依リ通關手續ヲ了セサリシ

時間ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ荷物保管料ハ當該運輸機關所定ノ到著荷物引取遲延ノ場合ニ於ケル保管料ニ付同シ

第十五條　酒精、酒類、酒精ヲ含有スル飲料、織物類、輸入原料ニ依ル製造品、菓子、糖果ヲ內地ヨリ輸出シ又ハ酒類、糖蜜ヲ朝鮮ヨリ移出シ戾稅又ハ交付金ヲ受ケントスル者ハ其ノ請求方ヲ運輸機關ニ委託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ荷物託送ノ際之ヲ運輸機關ニ通告シ必要書類ヲ提出スヘキモノトス

運輸機關ニ於テ前項ノ代辨ヲ爲スカ爲特ニ要スル費用ハ戾稅又ハ交付金受取人ノ負擔トス

第十六條　託送手荷物及附隨小荷物ノ通關檢査ハ下關釜山間、神戸大連間、新潟清津間、敦賀雄基間ノ各連絡船內、輸移入港驛所、安東驛、圖們驛、上三峰驛ニ於テ運輸機關保管ノ下ニ旅客自ラ之ヲ受クヘキモノトス

旅客カ前項ノ檢査ヲ受ケサル場合該荷物ニ鎖錠封印ナキモノハ運輸機關ニ於テ稅關吏ノ檢査ニ立會ヒ課稅品ナキトキハ其ノ儘繼送ノ取扱ヲ爲スモノトス

前項ノ場合該荷物中ニ課稅品アルカ若ハ該荷物ニ鎖錠封印ヲ施シアルモノハ輸移入港驛所、安東驛、圖們驛又ハ上三峰驛ニ留置セラルヘシ此ノ場合ニ於テハ該荷物到著後七日間無料ニテ之ヲ保管シ其ノ以後ハ運輸機關所定ノ手荷物保管料若ハ附隨小荷物保管料ヲ收受ス

運輸機關ニ於テ前項ノ手荷物又ハ附隨小荷物託送者ノ所在ヲ知リ得タルトキハ直ニ該荷物ヲ抑留シアル驛所ヲ通告シ託送者ノ指示ニ依リ之ヲ處理ス

前項ノ場合ニ於テ手荷物又ハ附隨小荷物託送者ノ請求アルトキハ運輸機關ニ於テ該荷物ノ通關ヲ代辨ス

第八條、第九條、第十一條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三項ノ荷物ニシテ鎖錠封印ヲ施シアルモノ到著後三箇月ヲ經過スルモ託送者ノ所在不明ナルトキハ運輸機關ハ稅關吏ノ立會ヲ求メ託送者ノ危險ト費用トヲ以テ解裝シ內容ノ檢査ヲ爲シ託送者ヲ知リ得タルトキハ前三項ニ準シ取扱ヲ爲ス

第十七條　前條第三項ニ依リ輸移入驛所ニ留置セラルヘキ手荷物又ハ附隨小荷物カ第四條ノ省線、朝鮮鐵道局線滿鐵北鮮線稅關所在驛所、安東驛又ハ圖們驛ニ到著スヘキモノナルトキハ運輸機關ハ其ノ到著驛所迄保稅貨物トシテ陸路運送ヲ爲シ託送者ハ當該到著驛所ニ於テ輸入手續

又ハ朝鮮移出入手續ヲ爲スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テモ託送者ノ請求アルトキハ運輸機關ハ其ノ手續ヲ代辨ス

第八條、第九條、第十一條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第十八條　本規程ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本規程ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外省線ト北日本汽船浦鹽斯德航路、近海郵船天津航路、大阪商船天津航路及青島航路、日本郵船上海航路及青島航路、原田汽船青島航路トノ連絡荷物ニ對スル船車接續地點ニ於ケル通關手續竝省線ヲ經由シ他ノ鐵道ト朝鮮又ハ滿洲トノ間ニ發著スル荷物ニ對スル通關手續ニ關シ之ヲ準用ス

◎粗製樟腦、樟腦油專賣法（抄）

（明治三十六年六月十七日法律第五號）

第五條　樟腦、樟腦油ハ政府指定ノ港灣ニ由ルニ非サレハ之ヲ外國ニ輸出シ又ハ內地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ス

◎樟腦、樟腦油輸出又ハ輸送ヲ爲ス港灣指定ノ件

（明治三十六年九月十五日勅令第百四十二號）

粗製樟腦、樟腦油專賣法第五條ニ依リ樟腦、樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ爲スコトヲ得ヘキ港灣左ノ通指定ス

橫濱港、神戸港、大阪港、敦賀港、下關港、門司港、基隆港、淡水港

◎含鹽礦物輸入移入規則

（明治三十九年三月三十日大藏省令第十三號）

第一條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ稅關カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ輸入者ハ稅關ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十、「カイニット」「シルヴイニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴイニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第二條　鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ地方專賣局ヘ其ノ品名、用途、數量、仕入地名及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條　前條ノ移入申告アリタル場合ニ於テ地方專賣局カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ハ第一條ニ準シ地方專賣局ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五編　軍事

第一款　要塞

◎要塞地帶法（明治二十二年七月十五日法律第百五號）

第一章　總則

第一條　要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條　要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條　要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區　基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區　基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區　基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條　要塞司令官鎮守府司令長官要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帶ヲ割スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條　此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章　禁止及制限

第七條　何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞

地帶内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ又ハ要塞地帶内ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　要塞司令官ハ要塞地帶内ニ入リ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條　要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二　窖室及固定竈爐

三　不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條　第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　埋葬地

二　水車及風車

三　井

四　容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五　生垣及木造ノ圍牆

六　第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條　第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二　埋葬地

三　不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條　第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一　第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二　第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條　第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得

第五編　軍事

ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築增築スルコトヲ得ス

第十五條 各區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工卽チ堆土、開鑿等

二 溝渠、鹽田、排水及灌水

三 公園、育樹場、竹木林、菓園及桑茶畑

四 耕作地

第十六條 各區內ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築增築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限內ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限內ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帶ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以內ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域內ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スル

コトヲ要ス

第二十一條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章　罰則

第二十二條　第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條　第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條　第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十五條　第十四條ニ違犯シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札、ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ五圓以上ノ科料ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第四章　雜則

第二十七條　要塞地帶創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、增築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條　要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買收及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條　此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第三十一條　明治三十一年勅令第百七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ効力ヲ失フ

◎要塞地帶法施行規則（明治三十三年六月十六日陸軍省令第十四號）

第一條　要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路橋梁ト稱スルハ國道縣道及道幅三間以上ノ公共道路及此等ノ路線ニ架設スル橋梁ヲ謂フ

第二條　左ニ掲クル事項ハ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一　港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二　土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋倉庫ノ新設變更竝本項第四號乃至第十一號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル

三　檢證ノ爲相當官憲ノ行フ測量、模寫、撮影、錄取

四　長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

五　不燃質物ヨリ成ラサル建坪五十坪以下ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ火藥庫ノ近傍ニ在リテハ其ノ外圍ヨリ外方五十間以外ノ場合ニ限ル

六　面積三百坪以下ニシテ第一區ニ在リテハ高低二尺、第二區、第三區ニ在リテハ高低三尺ヲ超エサル堆土、開鑿等

七　宅地內ニ於テスル築山、泉水等ノ新設變更

八　不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

九　深、幅各六尺ヲ超エサル溝渠及排水、灌水ノ新設變更

十　竹木林ノ伐採

十一　面積五百坪ヲ超エサル育樹場、菓園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更

第三條　要塞地帶法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地ニ在リテハ其ノ管轄スル市町村長朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ ヲ發著場ニ航空ノ場合ニ在リテハ其ノ管轄スル市町村長朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ ヲ當該要塞司令官ニ願出ツヘシ

一　要塞地帶法第七條ニ掲クルモノニ在リテハ其ノ目的、區域及期限但シ航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及型式共

二　要塞地帶法第九條ニ掲クルモノニ在リテハ漁獵採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限

三　要塞地帶法第十條（解除シタル事項ニ限ル）乃至第十二條竝第十五條及第十六條（解除シタル事項ニ限ル）ニ掲クルモノニ在リテハ

其目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノニ在リテハ其器械器具設備ノ設計及其位置共

四　要塞地帶法第十三條ニ掲クルモノニ在リテハ累積物ノ種類、累積ノ目的、位置、高サ竝期間

要塞地帶法第十四條ニ依リ許可ヲ得ムトスルモノハ前項ニ準ス

第五條　陸軍大臣ノ許可ヲ得ムトスル者ハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該要塞司令官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ願出ツヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條　府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其他公共團體竝社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ツヘシ

府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其他公共團體ヨリ出願スル場合又ハ要塞地帶法第七條中撮影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ第四條ノ奥書ヲ要セス

第七條　許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノハ先ツ其許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス携帶シ何時ニテモ憲兵、衞戍服務ノ軍人、當該要塞司令部對馬ニ在リテハ職員及警察官吏ノ閲覽ニ供スヘシ

第十條　許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再下附ヲ願出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ最寄警察官署又ハ憲兵隊分隊所、派遣所、出張所ヲ含ムニ其旨ヲ屆出テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條　許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ掲クルモノニ在リテハ此限ニ在ラス

第十二條　許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ屆出ツヘシ市町村長ハ之ヲ取纒メ毎月末日ヲ以テ當該要塞司令官ニ報告スヘシ

第十三條　許可證ヲ所持スヘキ者ニシテ當該官ノ閲覽ヲ拒ミタル者ハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條　本則ハ陸軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ヲ除キ總テノ要塞地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニ關シテ之ヲ適用ス

第十五條　本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎要塞地帶法施行規則（明治三十三年六月十六日海軍省令第十六號）

第一條　要塞地帶法ニ於テ不燃質物ト稱スルハ金屬、煉瓦、石、土及之ニ準スヘキモノヲ謂ヒ道路ト稱スルハ國道、縣道及道幅三間以上ノ公共道路ヲ謂ヒ橋梁ト稱スルハ道路ヲ交續スル爲メ架設スルモノヲ謂フ

第二條　左ニ掲クル事項ハ要塞地帶法ニ依リ許可ヲ受クルヲ要セス但シ海軍大臣ノ告示スル區域及事項ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

一　港灣ニ出入スル艦船ノ航行ニ必要ナル錘測

二　土地ノ丈量但シ地目地類ノ變換、土地分合、境界査定、家屋倉庫ノ新設變更竝本項第四號乃至第十一號ニ掲クル作業ニ要スルモノニ限ル

三　檢證ノ爲相當官憲ノ行フ測量、模寫、撮影、錄取

四　長サ百間ヲ超エサル生垣及木造ノ圍牆ノ新設變更

五　不燃質物ヨリ成ラサル建坪五十坪以下ノ家屋倉庫ノ新設變更但シ火藥庫ノ近傍ニ在リテハ其ノ外圍ヨリ外方五十間以外ノ場合ニ限ル

六　面積三百坪以下ニシテ第一區ニ在リテハ高低二尺、第二區第三區ニ在リテハ高低三尺ヲ超エサル堆土、開鑿等

七　宅地内ニ於テスル築山泉水等ノ新設變更

八　不可抗力ニ由リ變更シタル土地物件ヲ原狀ニ復スル作業

九　深サ幅各六尺ヲ超エサル溝渠、排水灌水ノ新設變更

十　竹木林ノ伐採

十一　面積五百坪ヲ超エサル育樹場、菓園、桑茶畑、鹽田及耕作地ノ新設變更

第三條　鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ其ノ作業地航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發著ヲ管轄スル市町村長朝鮮ニ在リテハ警察署長、同分署長、臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ ノ奥書ヲ得テ當該鎭守府司令長官若ハ要港部司令官ニ

令官ニ願出ヘシ

一　要塞地帶法第七條ニ掲クルモノハ其ノ目的、區域及期限但シ航空ノ場合ニ在リテハ使用スヘキ航空機ノ種類及型式共

二　同法第九條ニ掲クルモノハ漁獵、採藻ノ區域及期限、艦船繫泊ノ位置及期限、土砂掘鑿ノ區域、方法及期限

三　同法第十一條第十二條第十四條及第十五條ニ掲クルモノハ其ノ目的、設計、位置及落成期限但シ同法第十一條第四號ニ掲クルモノハ其ノ器械器具ノ位置及設計ヲモ詳記スルヲ要ス

四　同法第十三條ニ掲クルモノハ累積物ノ種類累積ノ目的、位置、高サ竝期間

第四條　要塞地帶法第十條、第十六條ノ事項ノ禁止ヲ解除シタル場合ニハ仍ホ本則第三條第五條ノ規定ヲ適用シ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　海軍大臣ノ許可ヲ得ントスルモノハ工事ノ種類、設計及落成ノ期日ヲ記シ地方長官ノ證明ヲ受ケ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ヲ經由シテ海軍大臣ニ願出ヘシ但シ本則第七條ノ場合ニハ地方長官ノ證明ヲ要セス

第六條　府、縣、〔郡〕、市、町、村、水利組合其ノ他公共團體竝社團法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ願出ヘシ

前項ノ場合又ハ要塞地帶法第七條中撮影、模寫、錄取ヲ出願スル場合若ハ本則第七條ノ場合ニハ本則第三條ノ奥書ヲ要セス

第七條　許可ヲ受クヘキ事項ニシテ別ニ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　前諸條ノ規定ハ許可ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ交付ス

許可證ハ作業ヲ實施スル者必ス之ヲ携帶シ其ノ地點ヲ警衛スル軍人軍屬憲兵及警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閲覽ニ供スヘシ

第十條　許可證ヲ失ヒタルトキハ速ニ其ノ再交付ヲ願出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ旨ヲ最寄警察官吏又ハ憲兵ニ屆出テ其ノ承認ヲ得テ作業ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條　許可ヲ受ケタル作業者ハ作業ノ場所ニ許可濟ノ旨ヲ記シタル標札ノ類ヲ掲クヘシ但シ要塞地帶法第七條及第九條ニ掲クルモノハ此ノ限ニアラス

第十二條　許可ヲ受ケタル工事完成シタルトキ又ハ之ニ著手セス若ハ之ヲ中止シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ作業地ヲ管轄スル市町村長ニ屆出ヘシ市町村長ハ之ヲ取纒メ毎月末日ヲ以テ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ニ報告スヘシ

第十三條　許可證ヲ所持スヘキモノニシテ當該官吏ノ閲覽ヲ拒ミタルモノニハ二圓以上十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十四條　本則ハ海軍防禦營造物ノ地帶及要塞地帶法第七條第二項ノ區域ニノミ之ヲ適用ス

第十五條　本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎各要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其區域（明治三十四年十月十四日陸軍省告示第九號）

要塞地帶法第十九條ニ依リ各要塞地ニ於ケル禁止制限解除ノ事項及其ノ區域ヲ左表ノ通定ム

但シ同法第十一條及第十二條中ニ掲クル事項ヲ解除シタル區域ニ於テ同法第十四條中之ニ相當スル事項モ亦之ヲ解除シ別ニ表中ニ掲ケス又一部解除ニ屬スルモノノ區域ハ市町村役場ニ備附ケタル圖面ニ付テ見ルヘシ

明治三十二年陸軍省告示第八號同第十六號ハ之ヲ廢止ス

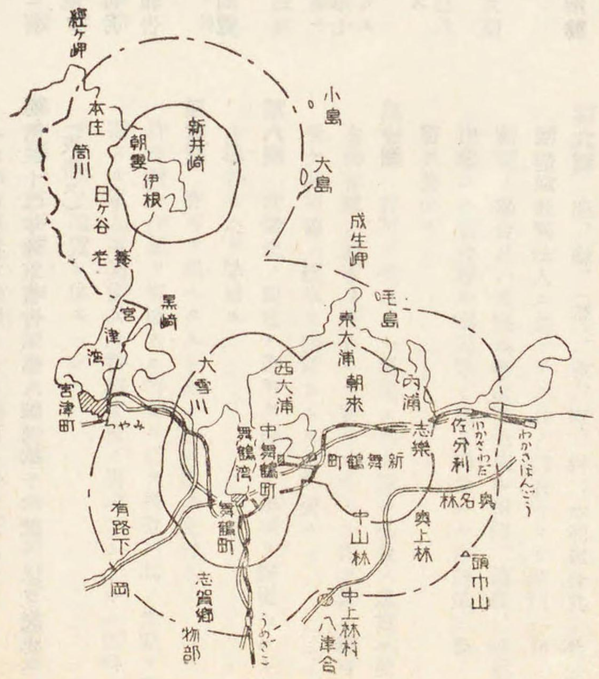
（表略ス）

◎舞鶴及對馬ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

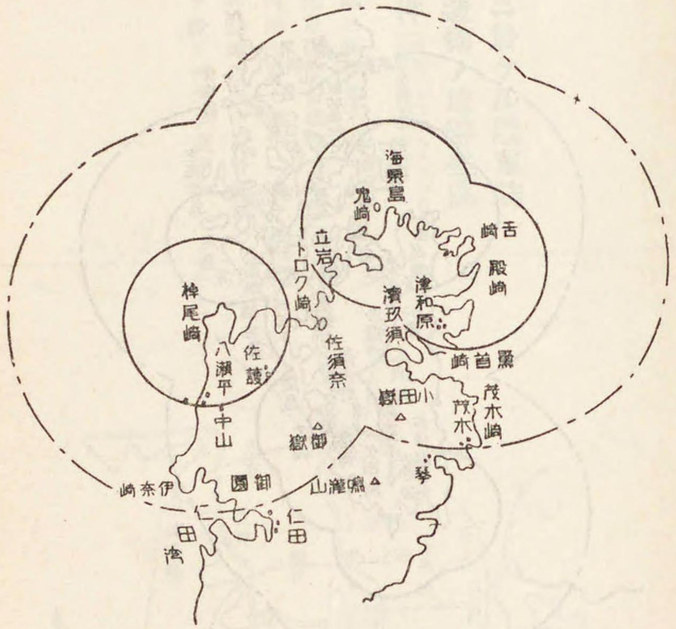
（明治三十二年八月十一日　陸軍省海軍省告示）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ舞鶴及對馬ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以内同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以内トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ示ス

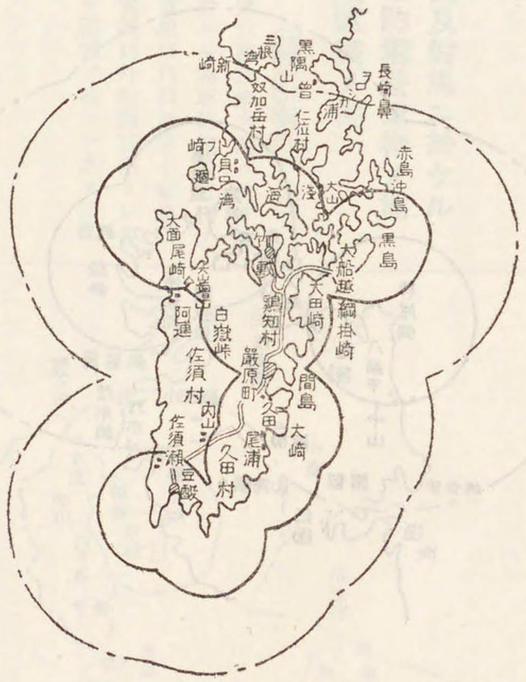
舞鶴要塞地



對馬要塞地（其一）



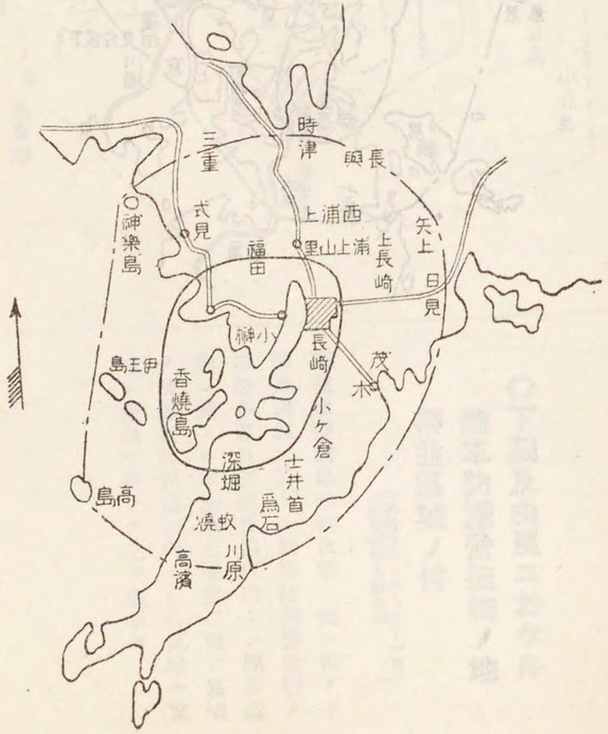
對馬要塞地（其二）



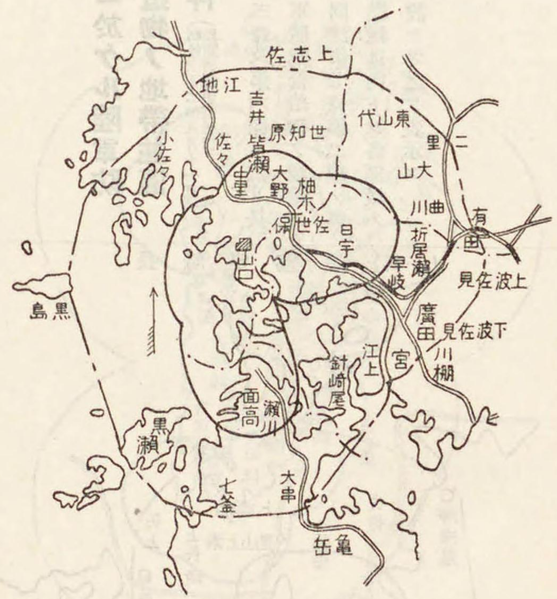
◎長崎ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件（明治三十二年八月十一日陸軍省海軍省告示）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ長崎ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以内同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以内トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

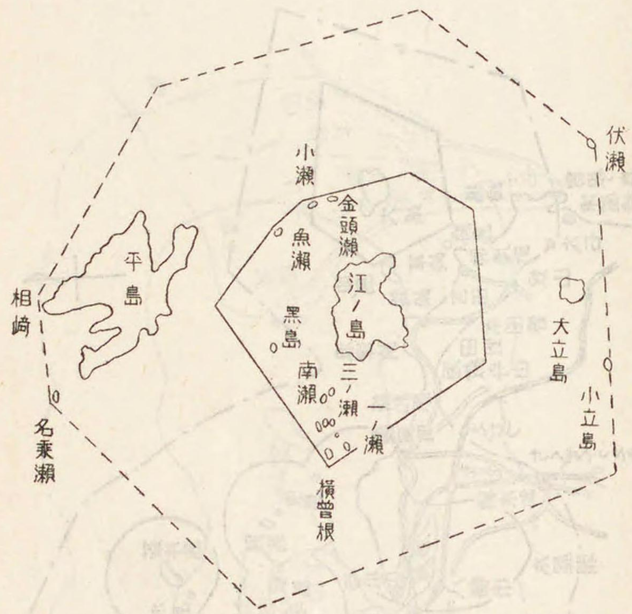
長崎要塞地（其一）



長崎要塞地（其二）



長崎要塞地（其三）

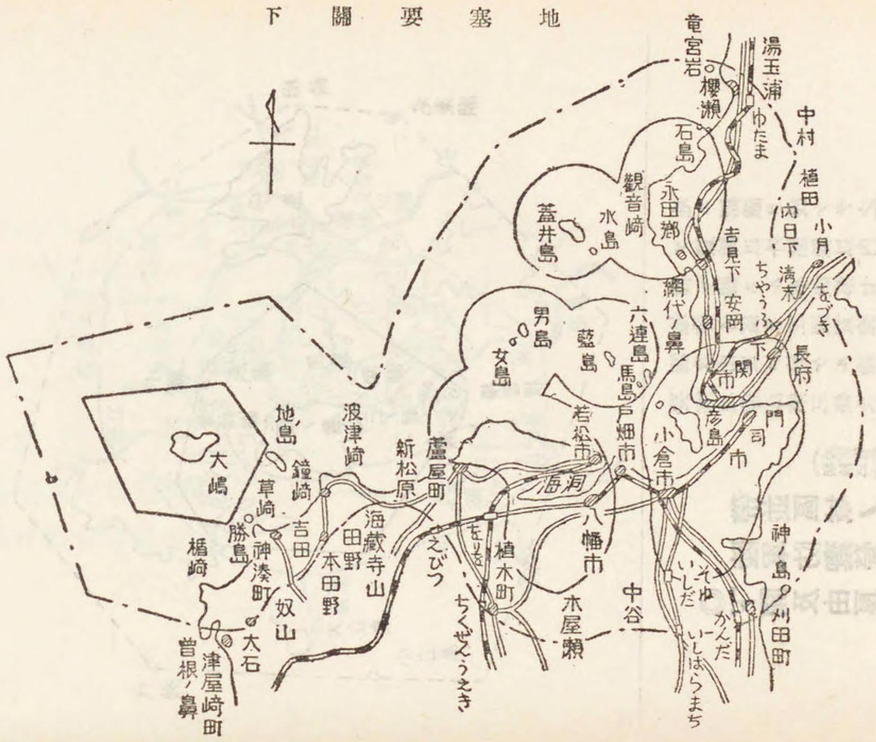


◎下關及由良ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

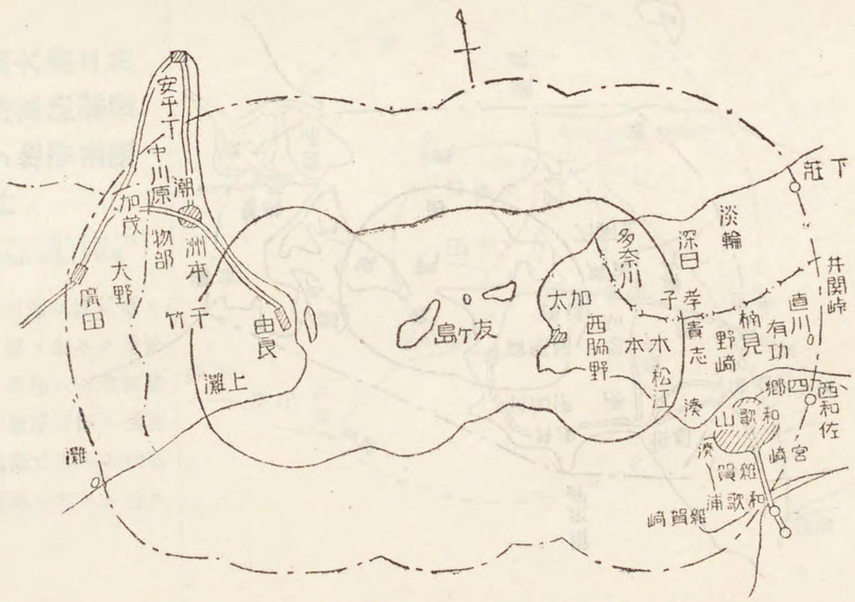
（明治三十二年八月十一日陸軍省告示第七號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ下關及由良ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶各區ヲ左圖實線以内トシ同營造物ニ關スル本法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以内トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

下關要塞地



由良要塞地（其一）



（二其）地窖要良由

◎陸奥國大湊ニ於ケル海軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

（明治三十三年十一月一日海軍省告示第二十五號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ陸奥國大湊ニ於ケル海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

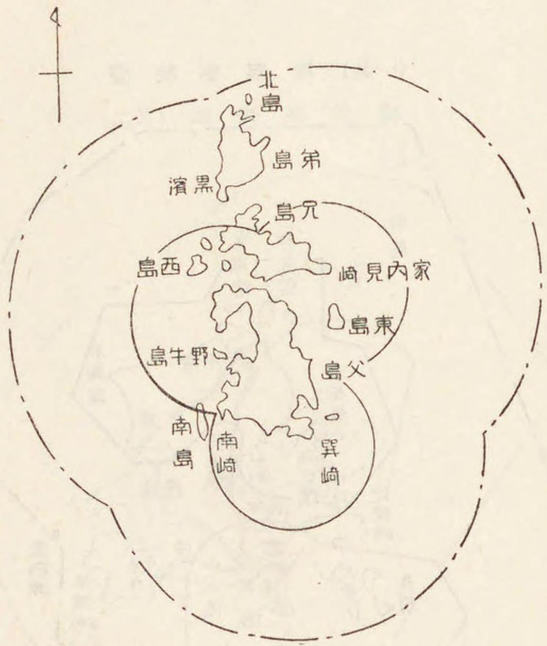
◎奄美大島、父島ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

（大正十年三月五日陸軍省海軍省告示）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ奄美大島、父島ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內、同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

奄美大島要塞地

父島要塞地

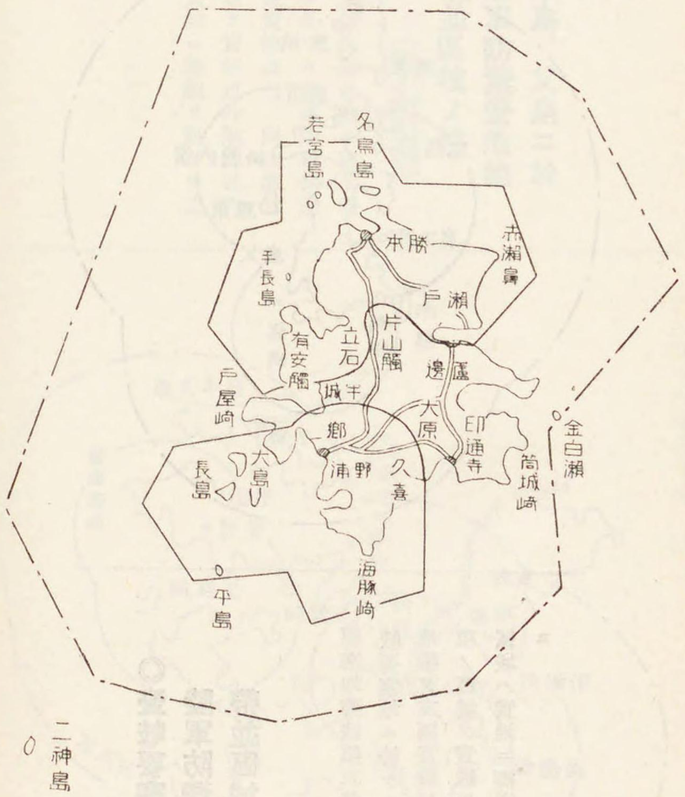


◎壹岐要塞地ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

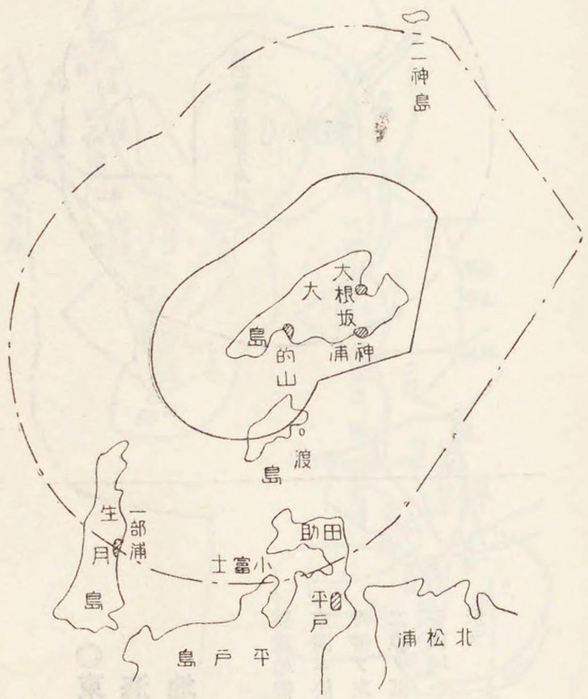
（大正十三年七月三日陸軍省海軍省告示）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ壹岐要塞地ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

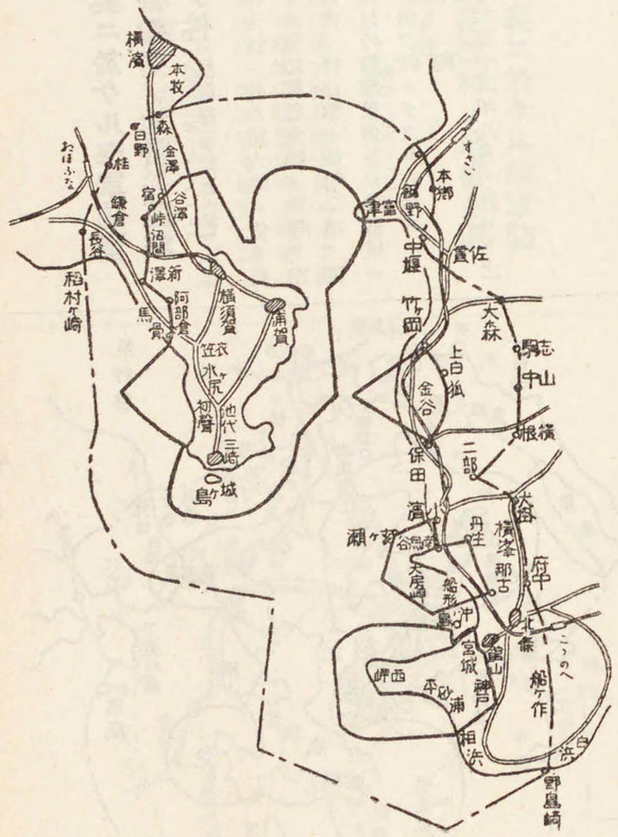
壹岐要塞地（其一）



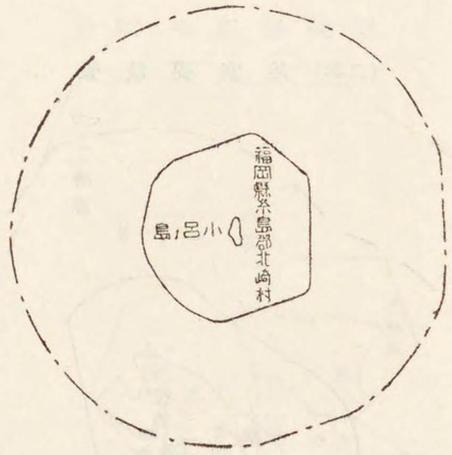
壹岐要塞地（其二）



東京灣要塞地



壹岐要塞地（其三）



◎東京灣ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

（大正十五年七月二十三日陸軍省海軍省告示第二號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ東京灣ニ於ケル陸、海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以内、同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以内トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

◎吳ニ於ケル海軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

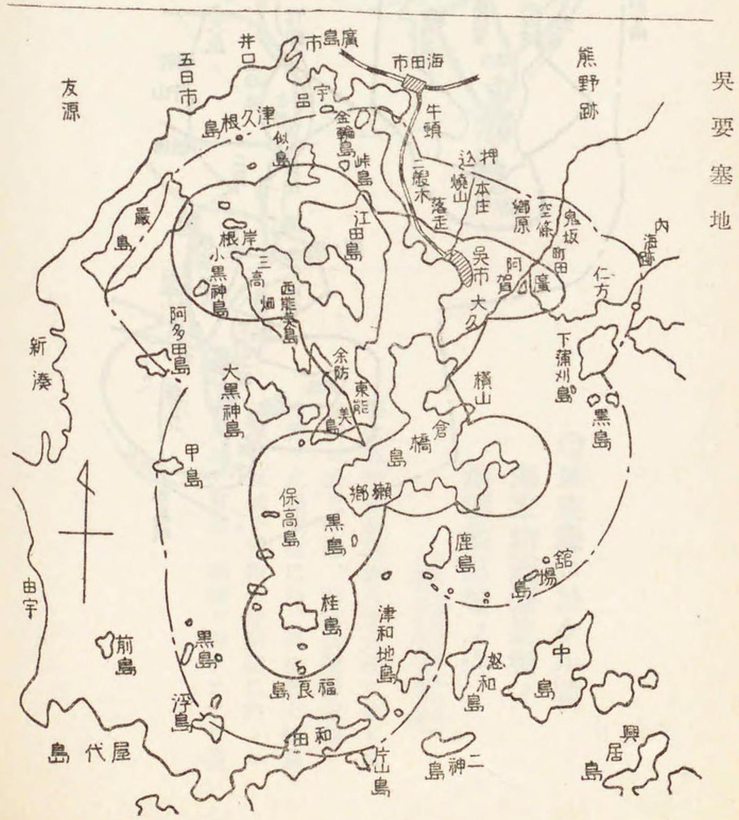
（大正十五年七月三十一日陸軍省海軍省告示第六號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ吳ニ於ケル海軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內、同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

附　則

本告示ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

吳要塞地

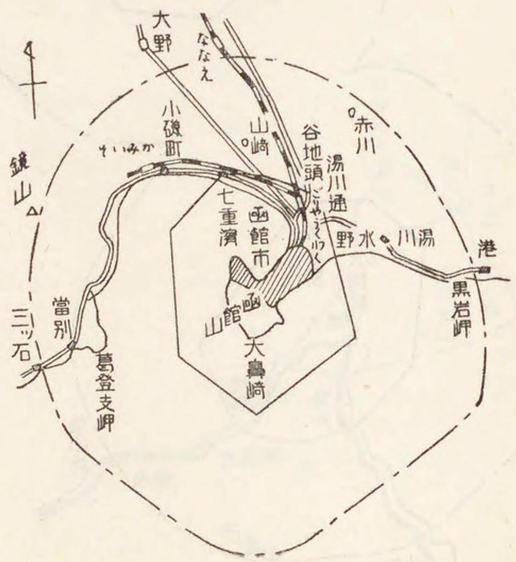


◎津輕ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

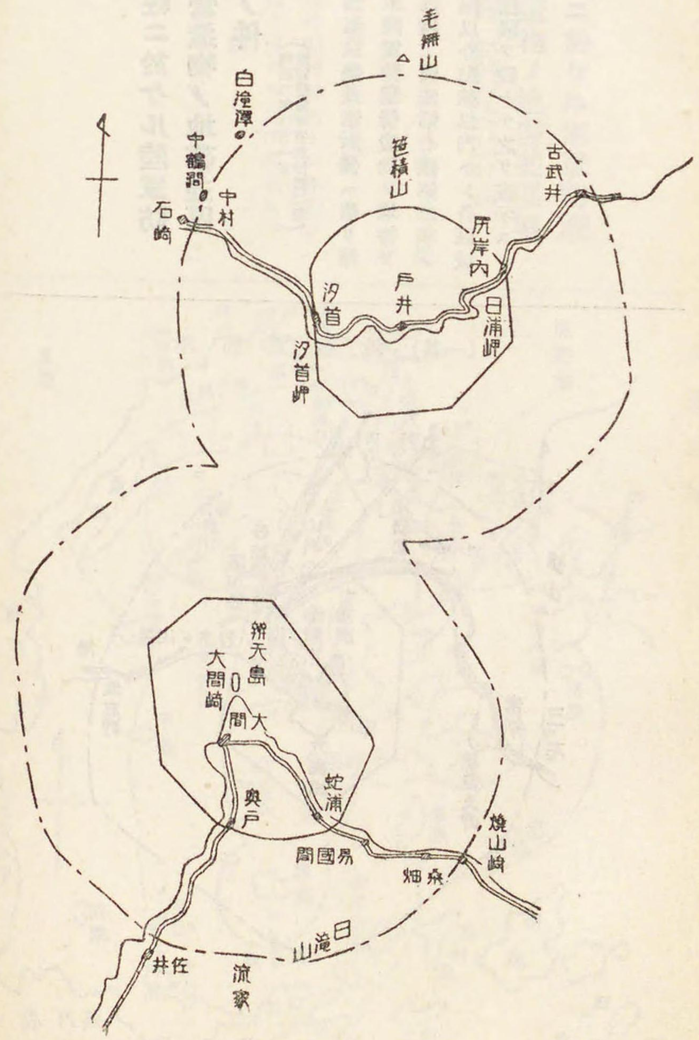
（昭和二年四月一日陸軍省海軍省告示第二號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ津輕ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內、同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケテ之ヲ表示ス

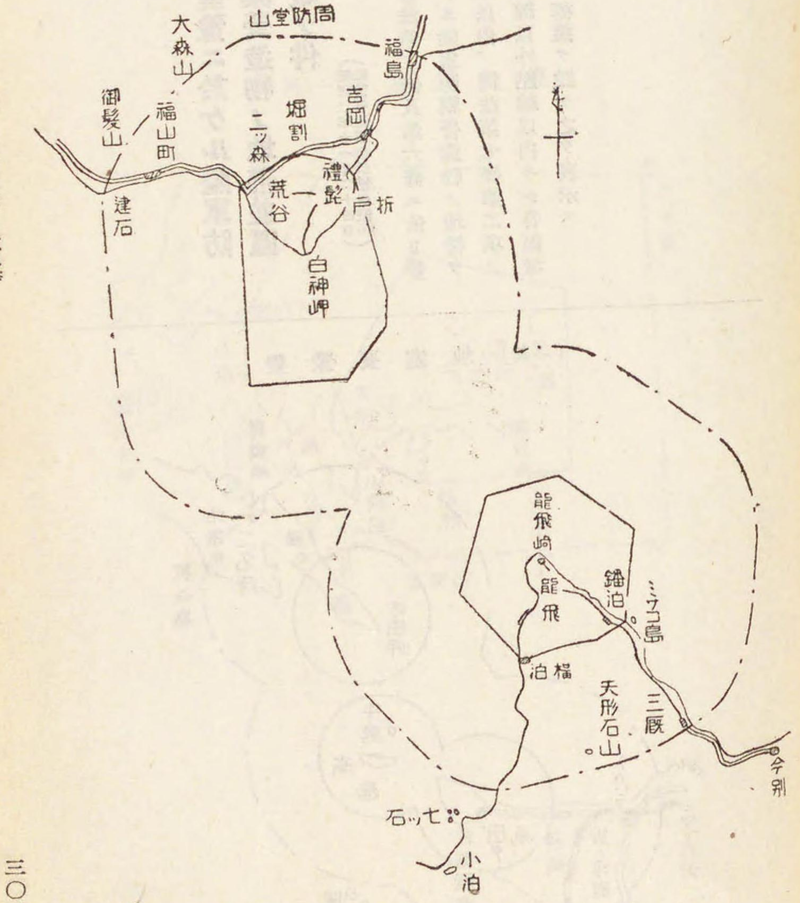
津輕要塞地（其一）



津輕要塞地（其二）



津輕要塞地（其三）

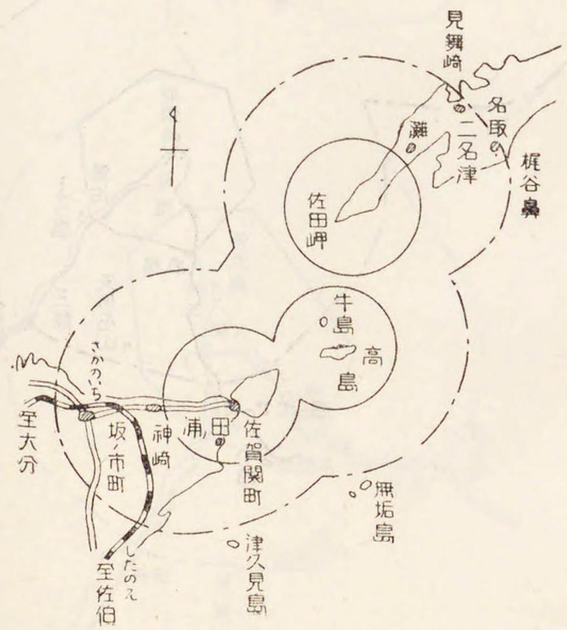


◎豐豫ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶並區域ノ件

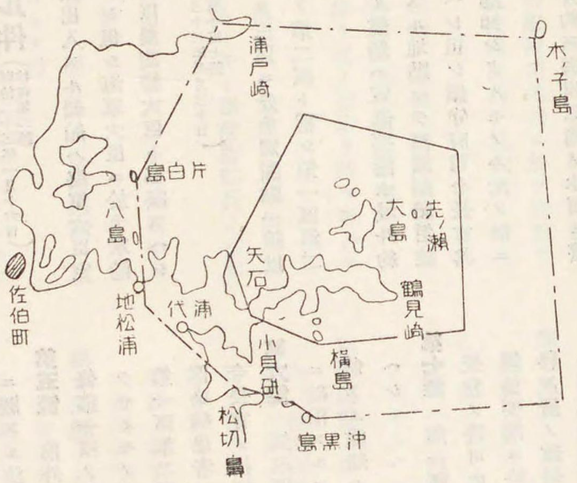
（昭和二年十一月二十四日陸軍省海軍告示第四號）

要塞地帶法第三條及第六條ニ依リ豐豫ニ於ケル陸軍防禦營造物ノ地帶ヲ左圖實線以內、同法第七條第二項ノ區域ヲ實線以外點線以內トシ各區域ハ實地ニ標識ヲ設ケ之ヲ表示ス

豐豫要塞地（其一）



豐豫要塞地（其二）



第二款　軍港及要港

◎軍港要港ニ關スル件（明治二十三年一月十六日法律第二號）

軍港要港境域內ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但シ海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ內務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

◎軍港要港規則（明治三十三年四月三十日海軍省令第七號）

第一條　軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以內ヲ第一區ト稱シ點二線以內ヲ第二區ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條　軍港要港ニ入ラントスル艦船ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎭守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ國旗章ヲ掲揚スヘシ

第四條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日沒ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條　內外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎭守府司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條　第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限ハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ錨地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條　第一區第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎭守府司令長官ノ許可ナクシテ入ルコトヲ許サス

舞鶴要港ニ於テ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ新舞鶴錨地ニ出入スル船舶ハ要港部司令官ノ指定スル航路ニ依ルヲ要ス

排水噸數十五噸以上ノ海軍所屬艦船第一區ニ入ラントスルトキハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ

海軍兵學校前面卽チ別圖點三線以內ニ於テハ吳鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇繫スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地內ニ於テ赤旗ヲ掲ケタルトキハ總テ艦船ノ該點三線以內ヲ通航スルコトヲ禁ス

第八條　第一區第二區ニ於テハ鑑船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ船舟ヲ除クノ外總テ港務部長ノ指示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ其ノ指示ヲ待ツ能ハサル場合ニハ此ノ限ニアラス

舞鶴要港ニ於テハ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖港務部長ノ指示ヲ待ツヲ要セス

第九條　外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中ニ軍港要港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス

第十條　鎭守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條　鎭守府司令長官ハ第一區ニ入リ又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條　凡テ艦船ハ鎭守府司令長官ノ特許アルモノノ外火藥庫ヲ距ル百三十間以內ニ入ルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舟亦同シ

第十三條　軍港要港境域內ニ於テハ禮砲號砲及鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノノ外火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以內ニ於テハ禮砲號砲ト雖特ニ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス

第十四條　第一區第二區吳軍港ニ於テハ第一區第二區及海軍兵學校前面卽チ別圖點三線以內、鎭海要港ニ於テハ第一區第二區及別圖點三線以內ニ於テハ鎭守府司令長官ノ特許ヲ得スシテ漁獵採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沈沒物ヲ拾得スルコトヲ禁ス

航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區內ノ水域モ亦前項ニ準ス

第十五條　第一區第二區及其ノ海岸竝之ニ注入スル水流ニハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス

鎭守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ノ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコト

ヲ得

艦船若シ其ノ委棄スヘキモノヲ自ラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第十六條　鎭守府司令長官ハ軍港要港水域內ニ於ケル有害ナル難破物、委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セス其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限內ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セサルトキ若ハ指定ノ限期內ニ終了スル見込ナキトキハ鎭守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去若ハ破壞シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壞セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

其ノ義務者不明ナルトキハ鎭守府司令長官ハ之ヲ除去若ハ破壞スルコトヲ得

第十七條　軍港要港境域內ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十八條　軍港要港境域內ニ於テ左ニ揭クル諸項ノ新營若ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎭守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ

一　棧橋ノ架設、埠頭ノ築造

二　河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造

三　道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設、水底電線ノ敷設

四　地盤ノ開墾及埋築

五　森林ノ伐採

六　軍港要港ノ水域內ニ發著スヘキ海運ノ營業

七　漁業權ノ設定

八　浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

九　第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以內ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條　鎭守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港要港境域內ヲ航空シ又ハ同境域內水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ若ハ地理案內等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ二　鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ軍港要港境域內ニ於テ無線電信無線電話ヲ發信スルコトヲ得ズ但シ艦船航行中ノ通信及遭難通信又ハ軍用通信ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　鎭守府司令長官ハ軍港要港境域內ニ入リ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　地方長官ハ軍港要港境域內衞生ノ事ニ關シテハ鎭守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條　鎭守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通航ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎭守府司令長官ハ海軍用地ノ內取締上差支ナシト認ムル區域ニ限リ一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條　軍港要港ノ境域竝其ノ區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若ハ其ノ水域內ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條　軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎭守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條　要港ニ於テハ本則ニ規定セル鎭守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ要港部港務部長之ヲ行フ

附則

第二十六條　本則中地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ニ之ヲ適用ス

第二十七條　（削除）

第二十八條　本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條　明治二十九年海軍省令第六號橫須賀軍港規則同年海軍省令第七號吳軍港規則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同年海軍省令第十三號竹敷要港規則及同三十年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

（圖略ス）

◎軍港要港規則違反者處分ノ件

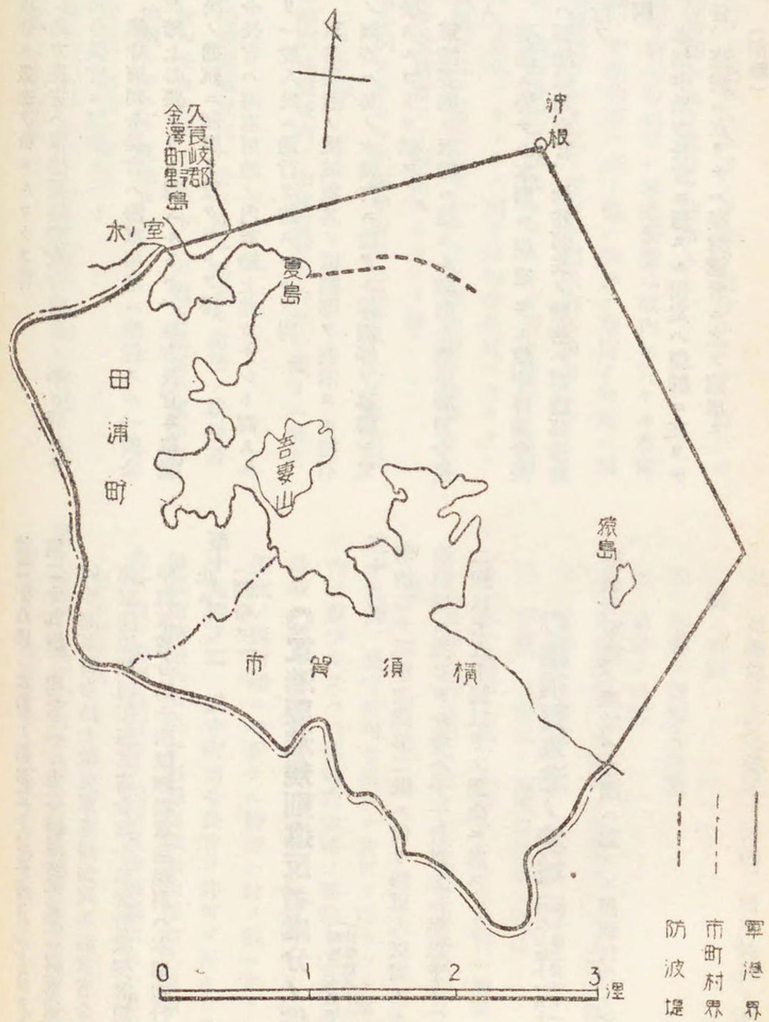
（明治二十三年九月十三日法律第八十三號）

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ（重禁錮）又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

◎橫須賀軍港ノ境域（昭和七年十一月十二日勅令第三百五十一號）

橫須賀軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

横須賀軍港境域圖



左ニ掲グル箇所ハ横須賀軍港ノ境域内トス

神奈川縣横須賀市

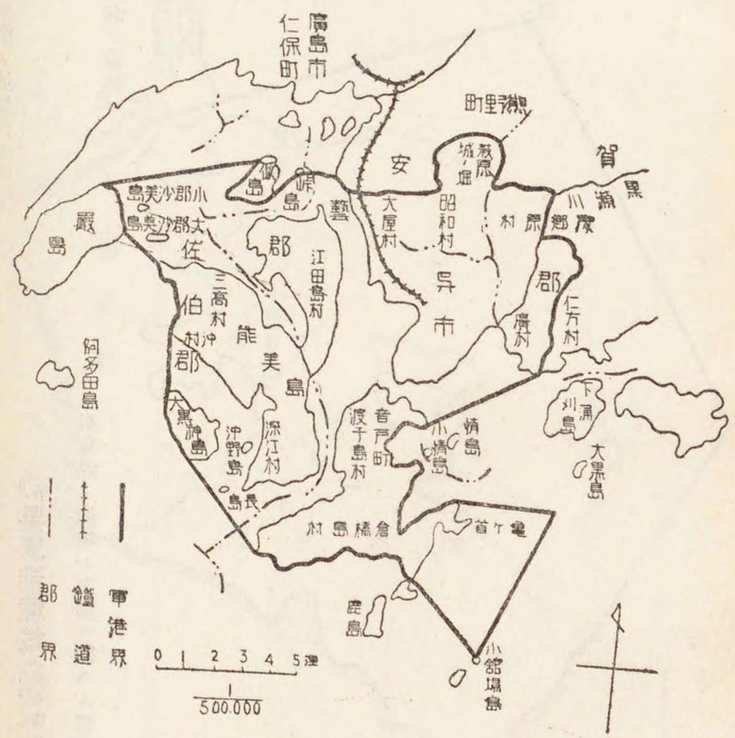
同縣三浦郡田浦町

同縣久良岐郡金澤町野島ノ南部

◎吳軍港境域（昭和八年五月十七日勅令第百十一號）

吳軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以内ト定ム

吳軍港境域圖



左ニ掲グル箇所ハ吳軍港ノ境域内トス

廣島縣吳市

同縣安芸郡昭和村、大屋村、江田島村、音戸町、波子島村及倉橋島村

同縣同郡熊野町ノ内平谷、川角、吳地、出來庭、中溝並ニ萩原及城ノ堀地内分水嶺以南ノ地

同縣佐伯郡能美島諸町村、三高村ノ内大那沙美島及小那沙美島、沖村ノ内大黑神島並ニ深江村ノ内沖野島及長島

同縣賀茂郡廣村

同縣同郡鄕原村ノ内黑瀨川以西ノ地

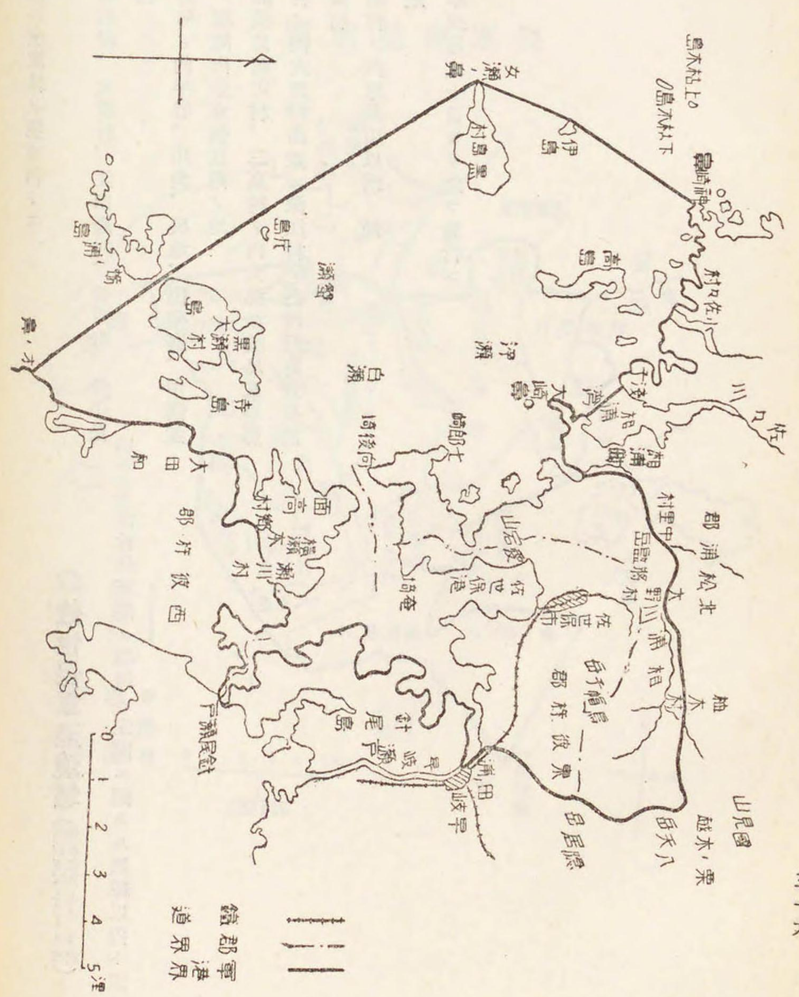
附　則

本令ハ昭和八年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

◎佐世保軍港境域（昭和五年九月十八日勅令第百七十七號）

佐世保軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以内ト定ム

佐世保軍港境域圖



左ニ掲グル箇所ハ佐世保軍港ノ境域内トス

長崎縣佐世保市

同縣北松浦郡黒島村

同縣同郡小佐々村ノ一部

同縣同郡相浦町ノ内大潟免及淺子免ノ一部、高島免並ニ相浦川下流川岸南東ノ地

同縣同郡中里村ノ内相浦川海軍水道鐵管橋ノ下流川岸東ノ地

同縣同郡柚木村ノ一部

同縣同郡大野村ノ一部

同縣西彼杵郡瀬川村ノ内横瀬本郷

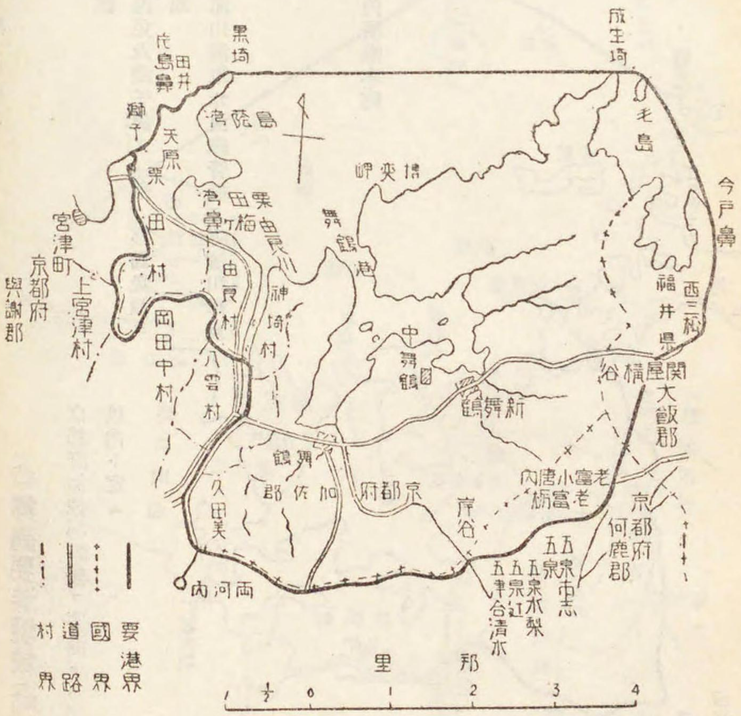
同縣同郡面高村ノ一部

同縣同郡黒瀬村

◎舞鶴要港境域（大正十二年三月二十六日勅令第五十七號）

京都府加佐郡舞鶴ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム

舞鶴要港境域圖



左ノ線ヲ以テ要港境域ノ陸上境界トス

福井縣大飯郡青郷村字西三松ノ東ニ於テ海ニ注ク所ノ河流ヲ遡リ關屋横谷ニ至リ同所ヨリ京都府何鹿郡ノ内老富小唐内、老富栃、五泉市志、五泉、五泉水梨、五泉辻、五津合清水ヲ經ル道路ニ沿ヒ仍五津合清水ヨリ京都府加佐郡池内村字岸谷ニ通スル道路ヲ西ニ進ミ丹波丹後二國ノ國境ニ會スル點ヨリ丹波丹後二國ノ國境ニ沿ヒ西ニ進ミ京都府加佐郡岡田下村字久田美ヨリ京都府何鹿郡志賀郷村字兩河内ニ通スル道路ト會スル點ニ至リ同所ヨリ久田美ニ通スル道路ヲ北方ニ進ミ由良川ニ出テ由良川ノ右岸ニ沿ヒ北ニ進ミ京都府加佐郡八雲村、由良村界ヲ眞西ニ望ム點ニ至リ同所ヨリ京都府加佐郡八雲村、由良村界ヲ西ニ進ミ由良ケ嶽ニ沿ヒ京都府加佐郡岡田中村、由良村及京都府與謝郡栗田村界ノ會スル點ニ至リ同所ヨリ京都府加佐郡岡田中村、京都與謝郡栗田村界ヲ西ニ進ミ京都府與謝郡栗田村ト同郡上宮津村及宮津町トノ界ニ沿ヒ北ニ進ミ同町村界ノ西方ニ曲ル點ヨリ中津ヨリ獅子ニ至ル道路ニ通ズル小徑ヲ北東ニ進ミ同道路ト小徑ノ交ル點ヨリ同道路ヲ北西ニ進ミ獅子ニ至リ獅子ヨリ矢原ヲ經テ田井ニ至ル海岸道路ヲ北上シ片島鼻ヲ横斷シ海ニ達スル線

附則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

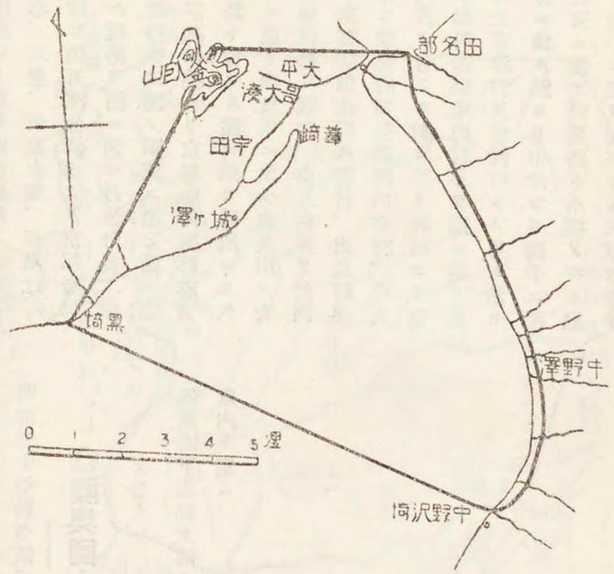
明治三十年勅令第二百三十四號ハ之ヲ廢止ス

◎陸奥國大湊ヲ要港トス

（明治三十八年十二月十二日勅令第二百六十三號）

陸奥國下北郡大湊ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以内ト定ム

大湊要港境域圖



◎宇品港域軍事取締法（昭和八年三月二十九日法律第二十九號）

第一條　本法ニ於テ宇品港域トハ廣島市、廣島縣安藝郡船越町、海田市町、矢野町、府中村及坂村ノ各一部並ニ其ノ附近ノ水面ニシテ命令ヲ以テ指定スル區域ヲ謂フ

第二條　宇品港域ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一區及第二區ニ分ツ

第三條　宇品港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、鐵道又ハ軌道ノ新設、增設又ハ改修

二　水面ノ埋立又ハ干拓

三　鑛物ノ試掘若ハ採掘又ハ砂鑛ノ採取

四　航空

第四條　宇品港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　不燃質物ヲ材料トスル家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ增築

二　土石ノ採掘

三　水深ノ變更ヲ生ズヘキ物件ノ委棄

四　爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ運搬、積卸又ハ貯藏

五　船舟ノ航行又ハ繫泊

六　漁獵又ハ採藻

前項ノ不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　宇品港域第一區内ノ水陸ノ形狀又ハ軍事施設ノ狀況ヲ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取シ又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　前三條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條　陸軍運輸部長ハ宇品港域内ニ立入リ軍事施設ノ狀

況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認ムルトキハ其ノ者ニ對シ港域外ニ退去ヲ命ズルコトヲ得

第八條　戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條乃至第六條及第十條ノ規定並ニ之ニ關スル罰則ノ規定ヲ宇品港域第二區ノ全部又ハ一部ニ適用スルコトヲ得

戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ宇品港域第二區ノ境界線ヨリ外方十キロメートル以内ノ區域ニ於ケル航空ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第九條　陸軍運輸部長ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ宇品港域内ニ在ル船舟ニ對シ錨地ノ變更又ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十條　陸軍大臣ハ第三條若ハ第四條ノ規定又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

第十二條　陸軍大臣ハ宇品港域各區及第八條第二項ノ區域ヲ標示スル爲必要ナル場所ニ標識ヲ設置スルコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ標識ヲ設置スル爲必要ナル土地ニ立入リ實地調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ

第十三條　前條ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ハ陸軍大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條　本法ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十五條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第三條乃至第五條ニ掲グル行爲ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ニ在リテハ陸軍大臣ニ協議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテハ各本條ノ規定ニ準ジ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ承認ヲ受クベシ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條第四號ノ規定ニ違反シタル者

二　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル船舟ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條第一號乃至第三號ノ規定ニ違反シタル者

二　第三條第四號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三　第四條第一項ノ規定ニ違反シタル者

四　第五條ノ規定ニ違反シタル者

五　第七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者

六　第八條第二項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者

前項第四號ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條第一號乃至第三號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二　第四條第一項ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三　第五條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

第十九條　宇品港域各區又ハ第八條第二項ノ區域ヲ標示スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年五月勅令第百九號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ作業中ノモノニハ第三條第一號乃至第三號及第四條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

◎宇品港域軍事取締法施行規則

（昭和八年五月十七日　陸軍省令第十九號）

第一條　宇品港域ハ之ヲ別圖點線以内トシ同港域第一區ヲ別圖實線以内、同港域第二區ヲ實線以外點線以内トス

前項ノ各區域ハ現場ニ標識ヲ設ケ之ヲ標示ス

第二條　宇品港域軍事取締法第四條第二項ノ規定ニ依ル不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スヘキ物件ノ種類ハ別表第一ニ依ル

第三條　左ニ掲クル行爲ニ付テハ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　長三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ヘキ棧橋、一時的使用ノ目的ヲ以テ敷設スル鐵道又ハ軌道及

工場倉庫等內ニ敷設スル鐵道ノ新設、增設又ハ改修

二　道路面ノ改修並ニ有效幅員三・六四メートル以下ノ道路（市道ニ在リテハ有效幅員五・四六メートル以下ノモノ）及此等ノ道路ニ架設スル橋梁ノ新設又ハ改修

三　地下埋設物ノ新設、增設又ハ改修及之ニ伴フ道路ノ改修

四　建築面積三三〇平方メートル以下ノ住家及墓碑、形像ノ類並ニ此等ニ附屬スル倉庫（建築面積三三〇平方メートル以下ノモノ）、門戸、墻壁ノ新築、改築又ハ增築但シ現ニ存スル建築面積ヲ合算シタル建築面積三三〇平方メートルヲ超過スル場合ヲ除ク

五　井ノ掘鑿、宅地內ニ於ケル土石ノ採掘又ハ地貌ノ變化ヲ來サザル土石ノ採掘

六　不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業

七　爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ運搬、積卸又ハ貯藏ニ關スル行爲中左ニ揭グルモノ

イ　鐵道ニ依ル運搬又ハ其ノ積卸

ロ　船舟ノ常用ヲ超過セザル數量ノ積卸又ハ積載

ハ　貯藏又ハ鐵道ニ依ルモノ以外ノ運搬若ハ積卸ニシテ陸軍運輸部長ニ於テ指定スルモノ

八　稅關官吏ノ檢査ヲ受クル爲別表第二ニ於テ船舟ノ航行ニ付許可ヲ要セズト定メタル宇品島附近第一區ヲ經由シ稅關棧橋ニ發著スル船舟ノ航行若ハ繫泊又ハ同區域ニ出入スル爲運行上一時必要ナル船舟ノ航行

九　船舟ヲ使用セザル漁獵又ハ採藻

十　地目地類ノ變換、土地ノ分合、境界ノ確定又ハ家屋倉庫ノ新築、改築、增築ノ爲必要ナル測量

十一　船舟運航ノ際行船ニ必要ナル錘測

第四條　左ニ揭グル行爲ハ別表第二ニ揭グル區域內ニ限リ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　宇品港域軍事取締法第三條第二號ニ規定スル行爲中私有水面ノ埋立又ハ干拓

二　同法第四條第一項第五號及同項第六號ニ規定スル行爲

三　同法第五條ニ規定スル行爲中軍事施設ニ關セザル行爲

第五條　陸軍運輸部長本令ニ依リ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍運輸部揭示場ニ之ヲ揭示ス

第六條　宇品港域軍事取締法第三條各號ニ規定スル行爲ニ關スル許可申請書（二通）ニハ左ニ揭グル事項ヲ具シ陸軍運輸部長ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

一　宇品港域軍事取締法第三條第一號又ハ同條第二號ニ規定スル行爲ニ付テハ工事ノ種類、其ノ目的、位置、設計及竣功時期

二　同法第三條第三號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本、鑛區圖、位置、設計及期間

三　同法第三條第四號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、日時、出發地、到著地、經過地、航空機ノ種類、國籍記號及登錄記號並ニ乘員名

第七條　宇品港域軍事取締法第四條第一項各號ニ規定スル行爲ニ關スル許可申請書（二通）ニハ左ニ揭グル事項ヲ具シ廣島憲兵隊長ヲ經テ之ヲ陸軍運輸部長ニ提出スベシ

一　宇品港域軍事取締法第四條第一項第一號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、位置、設計及竣功時期

二　同法第四條第一項第二號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法及期間

三　同法第四條第一項第三號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、時期、委棄スベキ物件ノ種類及數量

四　同法第四條第一項第四號ニ規定スル行爲中運搬ニ付テハ其ノ目的、通路、方法、時期、運搬スベキ物件ノ種類及數量、積卸ニ付テハ其ノ目的、場所、方法、時期、積卸スヘキ物件ノ種類及數量、貯藏ニ付テハ其ノ目的、位置、期間、貯藏所ノ設備、貯藏スベキ物件ノ種類及數量

五　同法第四條第一項第五號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、航路又ハ位置、時期、船舟ノ長ノ住所氏名、船舶ノ種類、名稱、總噸數、信號符字及所有者ノ住所氏名又ハ名稱

六　同法第四條第一項第六號ニ規定スル行爲ニ付テハ區域、方法及日時、漁業權又ハ入漁權ニ基ク行爲ニ付テハ其ノ權利ヲ證スル事項

七　同法第五條ニ規定スル行爲中測量、撮影、模寫、模造又ハ錄取ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、使用器具ノ種類、日時及行爲ノ場所、複寫又ハ複製ニ付テハ其ノ目的、方法、行爲ノ場所、複寫又ハ複製スベキモノノ種類及數量

左ノ場合ニ於テハ前項ノ申請ハ廣島憲兵隊長ヲ經ルコトヲ要セズ

一　船舟ノ航行又ハ繫泊ニ關スル許可ヲ申請スルトキ
二　漁獵又ハ採藻ニ關シ水產會會員又ハ漁業組合若ハ水產組合ノ組合員ヨリ當該水產會又ハ組合ヲ經テ許可ヲ申請スルトキ
三　撮影又ハ模寫ニ關スル許可ヲ申請スルトキ
四　第八條ノ規定ニ依リ公共團體ノ代表者ヨリ許可申請書ヲ提出スルトキ
五　第九條ノ規定ニ依リ許可ヲ證スル書類又ハ許可書ノ寫ヲ許可申請書ニ添附シタルトキ
六　陸軍運輸部長ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第八條　縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ノ許可申請書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第九條　前三條ノ規定ニ依リ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ニ許可申請書ヲ提出スル場合ニ於テ別ニ法令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ要スル行爲ニ付テハ先ツ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類又ハ許可書ノ寫ヲ許可申請書ニ添附スヘシ

第十條　陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ交付ス

前項ノ許可證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者之ヲ携帶スベシ

第十一條　許可證ヲ失ヒタル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ申請スベシ

許可證ヲ失ヒタル者ハ直ニ最寄憲兵隊（分隊、分遣隊ヲ含ム以下同ジ）又ハ警察署ニ其ノ旨ヲ屆出デ其ノ行爲ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ屆出ヲ受ケタル憲兵隊又ハ警察署ハ其ノ旨陸軍運輸部長ニ報告又ハ通報スベシ

附則

本令ハ宇品港域軍事取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年五月二十日ヨリ施行）

宇品港域軍事取締法附則ノ規定ノ適用ニ依リ同法第三條第一號乃至第三號又ハ第四條第一項第一號ノ規定ノ適用ヲ受ケザル作業ヲ爲ス者ハ其ノ作業ニ關シ本令施行ノ日ヨリ二十日以內ニ本令ノ規定ニ準ジ廣島憲兵隊長ヲ經ルコトナク陸軍運輸部長ニ屆出ヅベシ

宇品港域軍事取締法第四條第一項第二號乃至第六號ニ掲グル行爲ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ限リ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

別表第一

一　不燃質物
煉瓦、石、土、金屬、コンクリート及之ニ準ズヘキモノ

二　爆發物
火藥（有煙火藥、無煙火藥ノ類）
雷酸鹽（雷汞ノ類）
起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛ノ類）其ノ他ノ起爆劑
ニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥（各種ダイナマイト類）
綿藥、ニトロセルロース
鹽素酸鹽類（鹽素酸ソーダ、鹽素酸カリノ類）
過鹽素酸鹽類（過鹽素酸カリ、過鹽素酸アンモンノ類）
硝酸鹽類（硝石、智利硝石、硝酸アンモンノ類）
芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ（ニトロベンゾール、ピクリン酸ノ類）
實包、空包、藥筒ノ類
火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸、信管、雷管ノ類
煙火其ノ他火藥又ハ爆藥ヲ使用シタル火工品（玩具用普通火工品ヲ除ク）

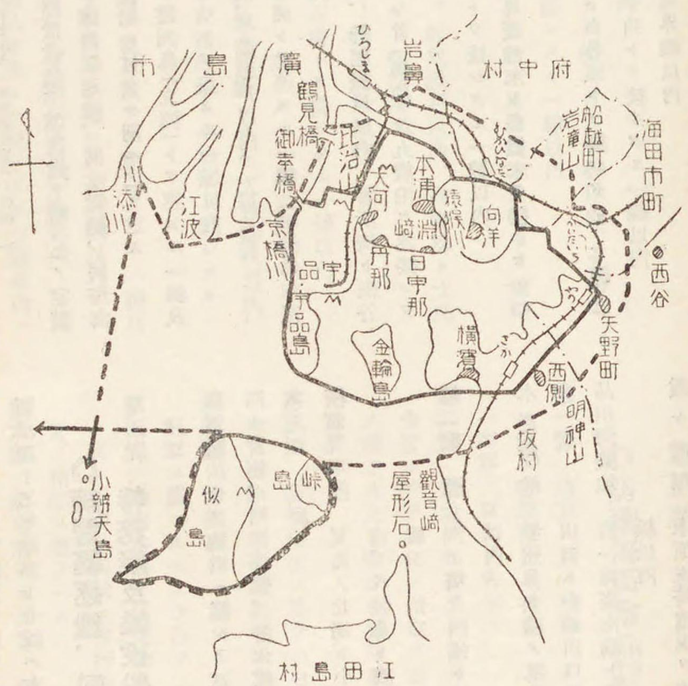
壓縮ガス、液化ガスノ類

三　容易ニ燃燒スヘキ物件
原油、揮發油、燈油、輕油、重油其ノ他ノ石油類黃燐、赤燐、硫化燐
金屬カリウム、金屬ナトリウム、マグネシウム、過酸化ソーダ、過酸化カリ、過酸化バリウム、エーテル、二硫化炭素、コロヂオン、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフタ、アルコール、アセトン、キシロール、テレビン油
醋酸エステルノ類
セルロイド
濃硫酸、濃硝酸
生石灰、カーバイト、石炭ガスノ類、燐化カルシウム
其ノ他「アーベル、ペンスキー」閉塞發焰試驗器ヲ用ヒ七六〇ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏三五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノ

別表第二

行爲	許可
私有水面ノ埋立又ハ干拓	宇品町ヲ除ク第一區
船舟ノ航行又ハ繫泊漁獵又ハ採藻	廣島水上警察署東端ト江田島屋形石燈臺トヲ連ヌル線以西ノ宇品島附近第一區 安藝郡坂村字横濱南側第一區 日宇那南端ト向洋西南七五〇メートルノ岬トヲ連ヌル線以北ノ猿猴川
船舟ノ航行	似島東岸北部陸軍用地北端ヨリ陸軍檢疫所南端ニ至ル間距岸一〇〇メートル以内ノ海面ヲ除ク似島附近第一區但シ陸軍運輸部長ノ指定シタル區域及期間ヲ除ク
軍事施設ニ關セサル水陸ノ形狀ノ測量、撮影、模寫、模造、錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製	宇品養魚池北端ヲ東西ニ連ヌル線以北宇品線鐵道線路以西ノ第一區 大河、本浦、淵崎、向洋、海田市各南端ヲ連ヌル線以北ノ第一區
備考	一許可ヲ要セザル區域ハ現場ニ標識ヲ設ケ之ヲ標示ス 二詳細ハ當該區域ヲ管轄スル市役所、町村役場、警察署、憲兵隊又ハ陸軍運輸部ニ備付クル圖面ニ就キ見ルベシ

宇品要港境域圖



◎艦船ノ定繫港區域（大正二年三月三十一日海軍省達第六十四號）

艦船（艦隊ノ艦船及在役ノ測量艦船、運送艦ヲ除ク）ノ定繫港ノ區域ヲ左ノ通定ム但シ練習驅逐艦、同水雷艇、同掃海艇、潛水艦、特務艇及雜役船ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

横須賀軍港　羽根田燈臺ト盤洲鼻（立標）トヲ連ヌル一線及觀音崎ト富津埼トヲ連ヌル一線以内

吳軍港　隱戸瀨戸以内、早瀨瀨戸以内、大野瀨戸以内、豪頭鼻ト腰細浦トヲ連ヌル一線（軍港第三區境界線）以内

佐世保軍港　早岐瀨戸以内、針尾瀨戸以内、番所埼ト根谷ノ鼻（黑島）牛ケ首（高島）及九艘泊ヲ連接シタル線以内

舞鶴要港　黑埼ト成生埼トヲ接シタル一線以内

鎭海要港　長末ト山城末及廣池末ト多浪末ヲ接シタル一線以内

馬公要港　風櫃尾南西端ト東鼻頭トヲ接シタル一線以内、横礁馬ト牛角トヲ接シタル一線以内

大湊要港　第二區第三區境界線以内

旅順港　鮮生角ト老鐵山東角トヲ接シタル一線以内

本達ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年達第十七號ハ本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎練習驅逐艦、同掃海艇、潛水艦、特務艇及雜役船ノ定繫港區域（明治四十二年四月三十日海軍省達第六十九號）

海軍諸法令ノ適用ニ關シテハ左ノ區域ヲ以テ練習驅逐艦、同水雷艇、同掃海艇、潛水艦、特務艇及雜役船ノ定繫港トス

横須賀軍港　夏島ノ北端ト小絲川口北端トヲ連結スル線以南、八幡鼻ト旗山埼トヲ連結スル線以西ノ海面

館山灣　洲ノ埼北西端ト大房鼻西端トヲ接シタル一線以内

木更津港　盤州鼻ト鴻ノ巢鼻トヲ連結スル線以南、六郷川口ト小糸川口トヲ連結スル線以東ノ海面

品川灣築地　第一砲臺南端ト第三砲臺南端トヲ接シタル一線以内

霞ケ浦湖　木原ト崎濱トヲ接シタル一線以内

吳軍港　切串埼ト龜石鼻トヲ接シタル一線以内、早瀨瀨戸以内、下猶埼、斧ケ鼻、大浦埼ノ接合線以内

同　江田島　津久茂瀨戸以内

德山港　龍宮鼻ト金埼トヲ接シタル一線以内、丸山埼ト椎木鼻トヲ接シタル一線以内

佐伯灣　浪太鼻ト唐船鼻ト竹ケ島東端ト白埼トヲ連結スル線以内

佐世保軍港　早岐瀨戸以内、針尾瀨戸以内、向後埼ト水尻鼻トヲ接シタル一線以内

大村灣　早岐瀨戸以内、針尾瀨戸以内

鹿兒島海灣　輕砂鼻ト小根占埼トヲ接シタル一線以内

舞鶴要港　黑鼻ト金ケ埼トヲ接シタル一線以内

同　栗田灣　無雙ケ鼻ト桃島トヲ接シタル一線以内

鎭海要港　長末ト山城末及廣池末ト多浪末ヲ接シタル一線以内

馬公要港　風櫃尾南西端ト東鼻頭トヲ接シタル一線以内、横礁馬ト牛角トヲ接シタル一線以内

大湊要港　葦埼ト大荒川口トヲ接シタル一線以内

旅順港　鮮生角ト老鐵山東角トヲ接シタル一線以内

第三款　雜則

◎防禦海面令（明治三十七年一月二十三日勅令第十一號）

第一條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條　緊急ノ必要アルトキハ鎭守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎭守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條　防禦海面ニ於テハ日沒ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條　防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條　防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎭守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條　鎭守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナ

ルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條　鎭守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シ特ニ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條　第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ〔重禁錮〕又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎陸軍所轄船舶檢疫規則

（大正三年十一月二十一日陸達第四〇號）

第一章　總　則

第一條　內地以外ノ諸港ト內地諸港トノ間ヲ往復スル陸軍所轄ノ船舶臨時傭入ノ船舶、日本赤十字社病院船等ヲ含ム以下同シ ニ對シ傳染病豫防ノ爲陸軍ニ於テ施行スル檢疫ニ關シテハ本規則ニ依ル

第二條　本規則ニ依リ檢疫ヲ施行スヘキ海港ハ宇品港（似島）トス宇品港以外ニ於テ檢疫ヲ施行セントスルトキハ臨時ニ之ヲ指定ス

第三條　本規則ニ於テ傳染病ト稱スルモノ左ノ如シ

一　海港檢疫法ニ依リ內務大臣ノ指定シタルモノ

二　赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」、發疹「チフス」、「デフテリア」、流行性腦脊髓膜炎、回歸熱

第四條　乘船者船員ヲ含ム以下同シ ハ檢疫ニ關シテハ本規則ヲ遵守シ檢疫所特ニ檢疫所ヲ開設セサル場合ニ在リテハ檢疫業務ヲ管掌スル官衙以下同シ 職員ノ指示ニ從フヘキモノトス

第二章　船舶入港手續

第五條　船舶檢疫ヲ施行スヘキ海港ニ入リタルトキハ所定ノ場所ニ碇泊シ船長ハ明告書（附錄第一號）ニ必要ナル事項ヲ記入シ之ニ署名捺印シテ臨檢々疫所所員ニ差出シ船舶ノ檢査ヲ受クヘシ

輸送指揮官、監督將校前項ノ船舶ニ乘組タルトキハ各責任ヲ以テ明告書ニ連署證明スヘシ部隊附軍醫其ノ所屬部隊ト共ニ乘組タルトキ亦同シ

第六條　船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可證（附錄第二號）ヲ得タル後ニ非サレハ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ乘船者ノ上陸搭載物件ノ揚陸ヲ爲スコトヲ得ス

船舶入港後乘船者ニ傳染病患者同疑似患者及同病源體又保有者ヲ含ム以下同シ ハ死者ヲ發生シ若ハ「ペスト」鼠ヲ發見シタルトキ亦前項ニ準ス

第七條　船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ入港前入港後該當スルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ許可證ヲ得ル迄檢疫信號ヲ揭クヘシ

一　現ニ傳染病患者又ハ死者アルモノ

二　航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノ

三　傳染病流行地其ノ都度ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航指定ス シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シタルモノ

四　「ペスト」鼠又ハ其ノ疑アル鼠ヲ發見シタルモノ

五　前各號ノ外傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黃旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅白ノ二燈ヲ連揭スルモノトス

第八條　前條以下ノ船舶ハ入港前ヨリ檢疫ヲ了スル迄晝間ハ前檣頭ニ紅白二色旗（附錄第三號）ヲ揭揚シ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連揭スヘシ

第三章　船舶ノ檢疫及停船

第九條　船舶入港シタルトキハ檢疫所々員ハ直ニ其ノ船舶ニ至リ明告書ヲ徵シ必要ノ事項ヲ船長及明告書連署者ニ尋問シタル後船內ヲ檢査スヘシ但シ第五條第二項ノ乘組軍醫ノ證明アルトキハ檢査ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第十條　船舶檢疫ノ結果第七條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ臨檢々疫所々員ハ必要ニ應シ之ニ停船ヲ命シ該船舶及之ニ搭載スル人員物件ノ一部又ハ全部ニ對シ消毒驅鼠驅蟲ヲ含ム以下同シ 隔離又ハ停留ヲ行フヘシ

臨檢檢疫所々員前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ檢疫所長ニ報告スヘシ

檢疫所長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ旨速ニ陸軍大臣ニ報告シ且關係官衙ニ通報スヘシ

第十一條　前條停船ノ期間ハ第七條第一項第一號第二號及第四號ノ場合ニ於テハ消毒ヲ終リタル時ヨリ同第三號ノ

場合ニ於テハ其ノ事故ノ了リタル時ヨリ起算シ左ノ如ク定ム

「ペスト」　十日間
「コレラ」、黃熱　五日間
「コレラ」、菌保有症　五日間
「ペスト」、コレラ黃熱ノ疑似症、　二日以內
其他ノ傳染病、同病原體保有症、同疑似症　通常即時解除

前項停船期間內ト雖乘船者中隔離又ハ停留ヲ要スル人員ヲ陸上所定ノ病院又ハ停留所ニ收容シ船舶竝之ニ搭載ノ物件ニ對シ所要ノ消毒ヲ實施シ且船內ニ於ケル豫防施設一定ノ條件ニ適スルトキハ檢疫所長之カ停船ヲ解除スルコトヲ得

第十二條　停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫所指定ノ場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第四章　消毒、停留、患者及死者ノ取扱

第十三條　消毒ハ檢疫所職員之ヲ行フモノトス但シ必要アルトキハ乘船者ヲシテ之カ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　消毒方法ニ關シテハ陸軍傳染病豫防ニ關スル消毒方法ニ依ルノ外醫務局長之ヲ指示ス

第十五條　消毒ノ爲物件ヲ揚陸スル場合ニ於テハ之カ授受ヲ明確ニシ有價物件ヲ燒却ニ附スルニハ檢疫所長ノ認可ヲ受ケ其ノ品目、員數及見積價格等必要ナル事項ヲ燒却原簿(附錄第四號)ニ記入シ且ツ其ノ品目、員數ヲ關係部隊ニ通報スヘシ

私有品ヲ燒却ニ付スルニハ成ルヘク所有者ノ承諾ヲ經ヘシ

第十六條　停船ヲ命シタル船舶ノ乘船者ハ消毒後之ヲ停留舍ニ收容スルヲ例トス但シ必要アルトキハ之ヲ船中ニ停留セシムルコトヲ得

第十七條　停留中傳染病患者若ハ死者ヲ發生シ若ハ「ペスト」鼠ヲ發見シタルトキハ更ニ停留者ノ一部又ハ全部ニ對シ第十一條所定ノ期間停留ヲ繼續スルモノトス

第十八條　傳染病患者及死者ハ之ヲ檢疫所附屬病院ニ收容スルヲ例トス

第十九條　檢疫所附屬病院ニ收容セル患者及死者ノ取扱ニ關シテハ衞戍病院ニ關スル規程及陸軍埋葬規則ニ準據スヘシ

(附錄全部略ス)

◎陸軍軍用動物檢疫規則

(昭和四年五月三十日陸軍省令第十號)

第一條　內地以外ノ地域ヨリ內地諸港ニ上陸スル陸軍諸部隊ノ軍用動物ニ付傳染病豫防ノ爲陸軍ニ於テ行フ檢疫ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外本令ニ依ル

第二條　本令ニ於テ傳染病ト稱スルモノ左ノ如シ

一　家畜傳染病豫防法第一條ニ規定スル傳染病
二　胸疫、腺疫、家禽ヂフテリ、家禽ミュゲ
三　前二號ノ外臨時指定スル傳染病

第三條　檢疫ハ通常乘船地、宇品港(似島)又ハ臨時指定スル海港及上陸地ニ於テ之ヲ行フモノトス

第四條　乘船地ニ於テ行フ檢疫ハ其ノ地所轄高級指揮官ノ擔任トシ其ノ編成スル檢疫委員ヲシテ之ヲ行ハシムルモノトス

前項ノ檢疫ノ爲特ニ必要ナル技術者ハ陸軍大臣臨時之ヲ派遣スルモノトス

第五條　前條ノ檢疫委員ハ部隊又ハ輸送區分每ニ檢疫終了後檢疫證明書(樣式第一號)ヲ其ノ部隊長又ハ輸送指揮官ニ交付スヘシ

第六條　宇品港(似島)又ハ臨時指定スル海港及上陸地ニ於テ行フ檢疫ハ通常臨時陸軍檢疫所之ヲ擔任スルモノトス但シ臨時陸軍檢疫所ヲ設置セラレサル場合ニ在リテハ其ノ檢疫擔任區分ハ其ノ都度之ヲ定ム

第七條　前條ノ檢疫所員(前條但書ニ依リ檢疫ヲ行フ者ヲ含ム以下之ニ同シ)檢疫終了每ニ第五條ノ規定ニ依リ部隊長又ハ輸送指揮者ニ交付セラレタル檢疫證明書ニ所要ノ事項ヲ記入シ檢疫ノ終了ヲ證明スヘシ

第八條　船舶輸送部長官又ハ陸軍運輸部長ハ檢疫終了セサル部隊ノ軍用動物ヲ搭載又ハ揚陸セシムルコトヲ得ス

第九條　軍用動物ヲ搭載シタル船舶檢疫ヲ受クヘキ海港ニ入ルトキハ船長ハ檢疫所員ノ臨檢ヲ待チテ受檢動物明告書(樣式第二號)ヲ提出スヘシ

第十條　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アル軍用動物又ハ其ノ屍體ヲ搭載スル船舶ハ入港前ヨリ其ノ船內ニ於ケル檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ揭クヘシ

前項ノ信號ハ晝間ハ前檣頭ニ附圖第一號ノ旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連揭スヘシ

第十一條　檢疫所員又ハ檢疫委員ハ軍用動物ノ檢診又ハ屍體ノ檢案ヲ行ヒ傳染病豫防ノ爲左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　炭疽、鼻疽、狂犬病、牛疫及牛肺疫ニ罹リタル動物

ハ之ヲ殺スヘシ

二　前號ノ傳染病ニ罹リタル疑アルモノ及其ノ他ノ傳染病ニ罹リ必要アリト認ムルモノハ之ヲ殺スコトヲ得

三　第一號ノ傳染病及口蹄疫ニ感染シタル虞アルモノ竝ニ其ノ他ノ傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アルモノハ之ヲ部隊ヨリ隔離シ檢疫所ニ抑留スヘシ但シ第二條第二號及第三號ノ傳染病ニ在リテハ必要アリト認ムルモノニ限ルモノトス

四　屍體ハ燒却又ハ埋却スヘシ

五　傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物件ハ之ヲ消毒スヘシ但シ必要アリト認ムルモノハ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依リ檢疫所ニ抑留シタル軍用動物ハ傳染病ニ罹リタルモノニ在リテハ快復後傳播ノ虞ナキニ至ル迄、傳染病ニ罹リタル疑アルモノ及感染シタル虞アルモノニ在リテハ概ネ其ノ傳染病ノ潛伏期ヲ經過シ發病ノ疑ナキニ至ル迄抑留スルモノトス但シ特種ノ檢診法又ハ豫防法等ヲ行ヒタルモノニ限リ抑留期間ヲ短縮スルコトヲ得

第十三條　檢疫所員又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ所要ノ軍用動物ニ付豫防注射又ハ其ノ他ノ防疫法ヲ行フコトヲ得

第十四條　臨時陸軍檢疫所長（第六條但書ニ依リ檢疫ヲ行フ場合ニ在リテハ之ニ準スル者）ハ防疫上必要アルトキハ軍用動物ノ全部又ハ一部ニ對シ所要期間上陸地ニ於テ隔離繫留ヲ行フコトヲ得

檢疫所長前項ノ處置ヲ採リタルトキハ其ノ旨速ニ陸軍大臣ニ報告シ且關係部隊ニ通報スヘシ

第十五條　軍用動物ノ檢疫ニ從事スル者ハ左腕ニ紫色ノ腕章ヲ附シ其ノ檢疫施行ノ爲ニ搭乘スル小船等ニ附圖第二號ノ旗ヲ揚クヘシ

第十六條　檢疫所長又ハ檢疫委員長ハ業務終了後成ルヘク速ニ業務詳報ヲ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ提出スヘシ

附　則

本令ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（様式第一號及第二號略ス）

第六編　交通及通信

第六編　交通及通信

第一款　交　通

第一項　運河及河川

◎運河法（大正二年四月九日法律第十六號）

第一條　一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ內務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ハ內務大臣ノ指定シタル期限內ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條　國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ橫斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ナキ限リ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ內務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續、橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條　前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條　工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條　工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規定ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條　內務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　內務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效

力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條　株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十二條　左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス

一　水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地

二　運河用通信、信號ニ要スル土地

三　上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地

四　運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地

五　職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

第十三條　明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第十四條　運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具、機械

二　工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其敷地並之ニ屬スル器具、機械

三　運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械

四　前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權

五　運河ニ要スル船舶竝之ニ屬スル器具、機械

六　運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

第十五條　國又ハ公共團體ハ免許ノ効力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條　國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條　左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得

一　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二　免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條　工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條　前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル

本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附　則

第二十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年十一月勅令第三百五號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

第二十一條　本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條　本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

◎運河法施行規則（大正二年十一月二十八日内務省令第十七號）

第一條　運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　起業目論見書

二　運河豫測圖

三　開設費概算書

四　事業上ノ收支概算書

五　組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本

六　會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本

七　會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本竝運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

八　公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　起業ノ目的及理由
二　運河ノ名稱及主タル事務所設置地
三　事業資金ノ總額及財源
四　運河ノ起點、終點及經過地名
五　運河ノ延長、底幅及水深（里町間尺ヲ以テ示スヘシ）
六　運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水竝航行ノ方法
七　工事施行期間
八　事業經營期間

第三條　運河豫測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖
縮尺ハ二萬分一以上トシ運河ノ中心線、閘門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等ノ位置竝附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ
二　縱斷面圖
縮尺ハ距離ヲ二萬分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底敷ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ
三　橫斷定規圖
縮尺ハ二百分一以上トシ縱橫ノ各寸法ヲ記入スヘシ
運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由竝運河ト附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ說明シタル書類ヲ添附スヘシ

第四條　開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、閘門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條　事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、內譯竝其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條　工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　運河實測圖
二　構造圖
三　工事說明書
四　土坪計算書
五　開設費豫算書

第七條　運河實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖
縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水路、閘門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、舍宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以內ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名勝、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ
二　縱斷面圖
縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位（成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ）竝平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ
三　橫斷面圖
縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ斷面ヲ示スヘシ

第八條　構造圖ハ左ノ二種トス

一　護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖
二　運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖
前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スヘシ

第九條　工事說明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及浚渫土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條　土坪計算書ニハ一町毎（地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ廣狹アルトキハ仍其箇所毎）ニ橫斷面ヲ取リ其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條　開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其數量、金額及內譯ヲ示スヘシ

閘門、水門、隧道等構造ノ複雜ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添附スヘシ

第十二條　免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條　指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限リ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條　免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ指定ノ期限内ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ期限内ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條　工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

工事竣功屆出後一箇月内ニ開設費精算書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十六條　免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條　免許ヲ受ケタル者ハ毎事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條　運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ表示

二　申請ノ目的及理由

三　協議ノ顚末

第十九條　前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セシムヘシ

指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコトヲ能ハサルトキ亦同シ

第二十條　決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク内務大臣ニ屆出ツヘシ

一　免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ

二　會社成立シ又ハ解散シタルトキ

三　定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四　本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ

五　事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條　本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

第二十三條　本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸スヘキモノニ付テハ運河法中第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テノ運河法ノ規定全部ヲ適用ス

第二十五條　運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條　運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

◎河川法（明治二十九年四月八日法律第七十一號）

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條　河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條　河川竝其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條　地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規定ニ從フ

第五條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章　河川ノ管理

第六條　河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ主務大臣カ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シタルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全

スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條　河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ涉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條　地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條　他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條　行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ズ

第十三條　河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條　地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察

第十六條　舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二　河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三　河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條　河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クシヘシ

第十九條　流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條　左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四　此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條　本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條　洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條　河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條　河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額竝不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條　營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第三十五條　公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄

附ヲナスコトヲ得

第三十六條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條　河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條　流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條　地行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若クハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工他物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及强制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ

依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳

ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

節六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

◎河川法施行規程（明治二十九年六月三日勅令第二百三十六號）

第一條　內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條　府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條　沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條　河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川竝ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條　河川法第六條但書ニ佐リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木出張所長之ヲ行フ

第六條　河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條　河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入リ又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條　河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條　河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條　府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條　河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以內ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條　內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條　河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

第十五條　北海道ニ付テハ本令中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ、府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ、府縣令ニ關スル規定ハ北海道廳令ニ關シ之ヲ適用ス

河川法第六十七條ノ規定ニ依リ指定シタル河川ニ在リテハ前項ノ規定ニ拘ラズ第十條中府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テトアルハ國庫ハトス

◎河川法準用令（明治三十二年十月十四日勅令第四百四號）

第一條　河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條　前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條（敷地ヲ除ク）第四條第二項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條　前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ內務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス

◎河川行政監督令（大正十五年八月二十七日勅令第二百九十號）

第一條　河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ掲クル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　河川ノ區域、河川ノ支川及派川竝ニ河川ノ附屬物ノ認定

二　河川（支川及派川ヲ含ム）又ハ河川ノ附屬物ノ全部又ハ一部ニ付大體ニ涉ル一定ノ計畫ニ基ク改良工事及河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アル工事ノ計畫竝ニ施行

三　河川法第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル許可ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

四　河川法第二十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ內務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關スルモノ

五　河川法第二十九條ノ費用ニシテ河川法第八條第一項又ハ本條第一項第二號ノ工事ニ關スルモノノ負擔方法

六　河川法第三十二條第一項ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七　河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノ

前項第二號及第三號ノ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條　河川法第二十二條及第四十六條第一項ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第五條　北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適用ス

◎通航料徵收規程（明治三十三年五月二十九日內務省令第二十八號）

第一條　府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條　通航料ノ金額及其ノ徵收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條　公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條　通航料徵收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消サレタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ補償金額ハ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　通航料徵收許可ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ增額及徵收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條　通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ適用ス

ヲ得ス

一　河川ノ視察其ノ他公務ノ爲メ通航スル船舶

二　行政廳ノ使用スル船舶

三　國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏

四　自家耕作用ノ肥料ヲ積載スル船舶

五　府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏

第七條　通航料徵收ノ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第八條　左ニ揭ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ノ效力停止期間內ニ通航料ヲ徵收シタル者

二　第六條ノ規定ニ違背シタル者

第九條　北海道ニ付テハ本令中府縣ニ關スル規定ハ道ニ關シ、府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關シ之ヲ適用ス

第二項　船舶

◎船舶法（明治三十二年三月八日法律第四十六號）

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一　日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二　日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當者員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條　日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ揭クルコトヲ得ス

第三條　日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條　日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ揭ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條　日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ揭ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條　日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條　船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其ノ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條　船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條　日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ヲ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得